令和６年度

「小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業」
「地域の特色を活かした環境学習支援事業」

実 施 報 告 書

新　　潟　　県
新　　潟　　市

目　　次

「小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業」

１ 上越市立東本町小学校 ・・・

１２ 新潟市立木戸小学校 ・・５１
基本的な人権、国会の働き、裁判の仕組みを学習した児童に、新潟水俣病の実例を通して
政治実情と限界を見直す学習を開発する
１３ 新潟市立関屋小学校 ・・・５６
大好き新潟　Ｍｙ　ＳＤＧｓ　～私たちにできること～
１４ 新潟市立女池小学校 ・・６２
・自然環境を守るために、自分ができることは何だろう
・差別や偏見をなくすために、自分ができることは何だろう
１５ 新潟市立亀田西小学校 ・・・６７
新潟水俣病で苦しむ人々の思いや願いを調べよう
１６ 新潟市立新津第三小学校 ・・７１
お米にいい水って？　～稲作から環境を考える～
１７ 新潟市立大通小学校 ・・７８
公害の被害を受けた地域では、環境を守るためにどのような取組をしているのか。
また、環境を守るために自分たちでできることは何か。
１８ 新潟市立真砂小学校 ・・８４
新潟の水環境について詳しくなろう
１９ 新潟市立西内野小学校 ・・・８９
ＳＤＧｓの 17 の目標を理解し、新潟水俣病や企業や地域の店の取組について調べること
で、未来に向けてわたしたちができる取組を考えよう
２０ 新潟市立黒崎南小学校 ・・・９５
過去の公害や新潟水俣病の歴史や現状を調査して、わたしたちの行動や活動が食や環境に
どんな影響を与えているか調べよう
２１ 新潟市立漆山小学校 ・・・１０１
巻の自然は宝物　～大通川を守るために大切なことを考えよう～
２２ 新潟市立南浜中学校 ・・・１０７
新潟水俣病の現地学習を通して、環境保全や人権尊重について考えを深めよう
２３ 新潟市立白南中学校 ・・・１１３
新潟水俣病についての学習を通して、環境・人権・自分の生き方について考えよう

小学校・中学校への
地域の環境学習等支援事業

（様式２）　　小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業 実施報告書

学校名	上越市立東本町小学校	担当（職・氏名）	教諭・五十嵐　徳也
学習テーマ	つくって食べて見つめるわたしのくらし		
活動のねらい	様々な人とのかかわりや体験を通して、食の大切さや問題点、食に携わる人々の苦労や願いを理解し、食にかかわる事象を自分自身の問題としてとらえながら、課題解決に向けて取り組んだり、これからの自分の食生活や生き方について考えを深めたりする。		

○　新潟水俣病とのかかわり

子どもたちは、実際に生きた魚を捌いたり、田植えを経験したりする中で、食と命が密接に関係していること、そしてそれをつなぐものが「水」であることに気付いた。そこで、私たちのくらしにかけがいのない水が、人の命や生活を奪っていった新潟水俣病の学習へとつなげていった。学習を通して、体だけではなく、心も傷付いた新潟水俣病被害者に対する偏見や差別の解消に向けて自分にできることを考え、児童の実践的態度を養うことをねらいとした。

○　活動概要　（新潟水俣病とのかかわりについての内容に触れてください。）

（１）新潟水俣病の概要を理解する。
（２）写真やあがの川環境学舎の方からいただいた資料を活用し、阿賀野川は人々の生活と密着した命の川であることの理解を深める。
（３）現地学習会を通して、新潟水俣病を身近な問題として捉え、切実性をもちながら事実について学び、考えていく。
（４）「環境とにんげんのふれあい館」で語り部の方から聞いた実体験を基に、被害者のおもいや願いに寄り添う。
（５）新潟水俣病被害者が受けた偏見や差別に憤り、差別解消のために行動しようとする気持ちを高める。
（６）新潟水俣病被害者と共に生きてきた旗野秀人氏の作成した映画を視聴したり、旗野氏の講話を聴いたりし、差別解消のために自分ができることについて考える。
（７）活動を通して考えたことを感想文にまとめる。

○　活動詳細

実施期間	９月～２月

主な学習内容・活動内容	時間	指導・支援の内容
総合的な学習	２	○阿賀野川の様子や、新潟水俣病の発生の仕方、メチル水銀・食物連鎖の仕組みについて、あがの川環境学舎山崎陽さんから指導していただく。
総合的な学習	９	現地学習会 ○山崎さんと資料や動画等で学んできたことを振り返りながら、旧昭和電工鹿瀬工場周辺の見学を行う。 ○環境と人間のふれあい館で語り部である小町ゆみ子さんと交流し、新潟水俣病患者への差別について学ぶ時間を設ける。 ○旗野秀人氏と交流し、「阿賀のお地蔵さん」のことや建立にまつわる出来事について学ぶ。

総合的な学習	3	○現地学習会で学んできたことをまとめる。 ○交流した語り部の小町ゆみ子さんの生い立ちや新潟水俣病の症状を確認する。
同和学習	3	○新潟水俣病によって起こされた偏見や差別をなくすために自分ができることを考え、行動しようとする意欲を高める。
国語	4	○これまでの学びを振り返り、作文にまとめる。

○　協力団体・協力者等

・あがの川環境学舎　山崎陽さん、橋本めぐみさん
・環境と人間のふれあい館
・語り部　小町ゆみ子さん
・冥土のみやげ企画　旗野秀人さん

○　成果と課題

［成果］

・事前学習では、あがの川環境学舎の山崎さんから新潟水俣病の概要を教えていただいたことで、原因や症状について理解することができた。現地学習でも山崎さんから指導していただいたので、短時間でも学習効果の高い学びになった。
・現地学習では、実際に阿賀野川を見学した。案内してくださった山崎さんが、当時の写真を見せながら説明してくださったこともあり、児童は阿賀野川流域に暮らす人々にとって、生活に欠かせない大切な川であった「命の川」が「魔の川」となったことを実感することができた。
・環境とにんげんのふれあい館では、語り部の小町さんの話をお聞きして、新潟水俣病の公式確認から５０年以上経った今も続く偏見や差別の事実と向き合い、偏見や差別が続いている要因や、差別に立ち向かう被害者を支えている仲間やおもいに気付いた。
・現地学習後の授業では、差別が現在も続いているために、被害者の方は体だけでなく心までむしばまれていることについて、改めて深く考え、共有する時間を設けた。さらに、差別解消のために自分ができることを考えることができた。

［課題］

・事前学習や現地学習を通して、新潟水俣病の学習をいろいろな角度から学ぶことができた。しかし、児童にとっては身近な問題とはいえない。一方で、今年は新潟水俣病の被害を訴えている裁判が行われている上に、来年４月に判決が言い渡されることが決定した。今後も学ぶ機会をもち続け、差別解消のための行動につなげていけるような支援をしていく必要がある。

（様式３）　**小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業に係る授業記録**

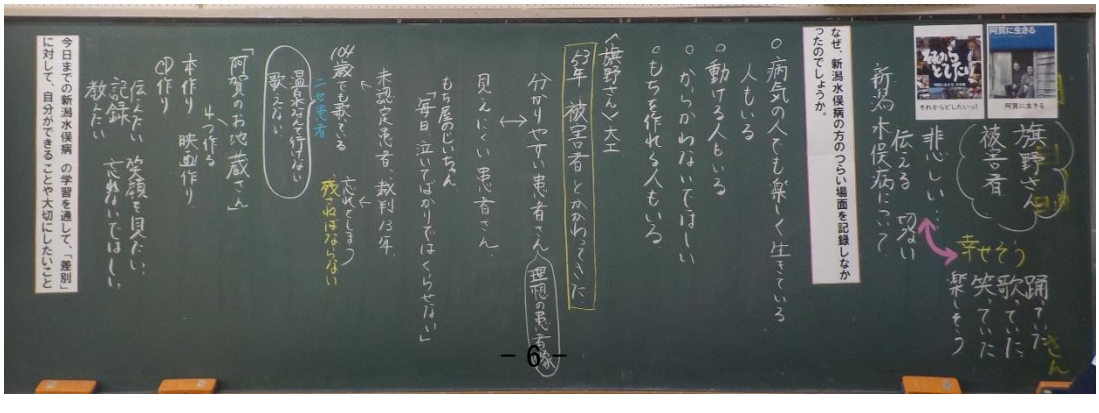
学校名	授業学級（人数）	実施日	実施教科等	授業者（職・氏名）
上越市立東本町小学校	**5年1組（33名）**	**11 月 17 日**	**同和学習**	**教諭・五十嵐徳也**

主題名　新潟水俣病の被害者に対する偏見や差別をなくすために

ねらい　新潟水俣病被害者と共に人生を過ごしてきた支援者の活動について話し合うことを通して、新潟水俣病被害者に対する偏見や差別をなくすために自分ができることについて考え、行動していこうとする態度をはぐくみます。

配 時（分）	教師の働き掛け	子どもの反応（学習活動等）	資料
5	◎映画「それからどしたいっ」には、どんな人物が登場しましたか。	○明るくおしゃべりしている人がたくさんいた。 ○歌を歌っている被害者がいた。 ○今までのイメージとは全然違った。病気で大変な生活を送っていたと思っていた。	映画「阿賀に生きる」 「それからどしたいっ！阿賀に生きるのその後」
40	◎旗野さんや撮影者のみなさんは、なぜ阿賀の方々のつらい場面を記録しなかったのでしょうか。 〈旗野さんからのお話〉	○病気になった人を励ましたかったのだと思う。 ○つらい毎日を少しでも明るくすることができると考えた。 ○「被害者はつらい」ではなく、一人の人間だということを伝えたかったのだと思う。	
15	◎Ｈさんの話や今日までの学習を通して、差別をなくすために自分が大切にしたいことや自分ができることを考えましょう。	○自分は差別する側ではなく、差別を受けている人の側に立って寄り添っていきたい。 ○たくさんの人と自分からかかわれば、相手のことを理解してかかわることができると思う。 ○正しい知識を大切にして人とかかわりたいし、そのことを伝えたい。	

板書



授業後の子どもたちの考え等（作文等）

・新潟水俣病を伝えてくれていることを大切にしたいです。

・新潟水俣病の患者は、今は２人だけだと聞いたけれど、今も生きていて笑ってくれているのがいいと思いました。

・自分が新潟水俣病の患者なのに、みんなにうそと言われてどんなにつらかっただろう。

・見た目で判断しないことや決めつけをしないことが大切

・痛みや苦しみは、外からでは分からない。

・新潟水俣病患者に、差別をしないで楽しんでほしいなと思いました。そして、患者さんの人生を変えたいと思いました。

・少しでも、被害者のことを分かって、大切にしたいです。それに、患者さんのつらさや気持ちを少しでも伝えたいです。寄り添いたいです。

・症状が目に見えないからといって、差別をしてはいけないということが分かりました。信じることが大切だと思いました。

・まずは、相手を知ることが大切だと思いました。被害者の方や関係者が、幸せに過ごせたらいいなと思いました。

・旗野さんから、病気だとしても楽しく過ごすことができることを学びました。

・新潟水俣病の方が、偏見にどれだけ苦しめられたかを考えて、自分ももう少し人に優しくするようにしたいです。

・自分が新潟水俣病のことを覚えていたら、未来につながると思いました。

・阿賀野川の川魚を食べていただけなのに病気になったことが、すごく切なかったです。

・病気の苦しさやつらさは、最初の時は全然わかっていなかったけれど、学習をして、その方々の苦しみやつらさが分かりました。だから、差別をしてはいけないと思いました。

・自分は患者ではないけれど、苦しい、つらいと思うときはあるから、患者さんの気持ちが分かります。

・新潟水俣病の被害者の方々は、周りの人達に「ニセ患者」とか「金目当て」などと言われ、とても苦しんできているけれど、それでも船づくりや田畑の仕事をしっかりとやっているのが、とてもすごいと思いました。差別をされても生きるというところがすごいと思いました。

・新潟水俣病で差別されている人は、悲しそうだけど、とても楽しんでいて幸せそうでよかった。

・新潟水俣病の症状は、見た目では分からないから、自分が患者だと気づかない人もいるということが分かりました。一人一人を大切にして、みんなと違う対応をしないようにして、差別をしない、とめたいと思いました。

（様式２）　　小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業 実施報告書

学校名	上越市立北諏訪小学校	担当（職・氏名）	教諭・佐藤洋希
学習テーマ	自然環境と私たち		
活動のねらい	川が媒体となって引き起こされた新潟水俣病の実態や原因について知ることを通して、新潟水俣病による被害を広めないため、そして同じような公害を引き起こさないために、自分にできることを考え、伝えようとする姿の育成。		

○　新潟水俣病とのかかわり

４学年での学習で、学校の近くを流れる川の学習を行った。その川の学習から、川が起因となった公害について学習し、自然の豊かさについて知っている一方で、負の側面もあることを知り、より川が生活に身近なものであることに気付く。

○　活動概要　（新潟水俣病とのかかわりについての内容に触れてください。）

①新潟水俣病について知る（６月上旬～７月上旬）

学習の前にどんなことを知っているのか確認し、正しく理解を進める。

②環境と人間のふれあい館での現地学習（７月）

語り部さんの講話を聞き、施設の見学をする。新潟水俣病の原因や症状、差別について学習する。

③新潟水俣病患者への差別と、その差別に立ち向かう姿を学ぶ（９月）

新潟水俣病患者が、受けた差別にどう立ち向かうかを学んだ。差別に対する自分の行動を表明した。

④学んだことのまとめと、学習発表成果発表（９月～10 月）

○　活動詳細

実施期間	R６年６月　　～　　10 月

主な学習内容・活動内容	時間	指導・支援の内容
新潟水俣病との出会い	２	新潟水俣病の理解度について確認。全員が詳しく知っていないことが分かった。
新潟水俣病について詳しく知る	５	映像資料やウェブサイトなどを活用し、調べ学習を行った。調べた情報を共有することで、正確な情報がまとまるようにした。まとめた情報は、模造紙に児童の手で書いていき、一目でわかる掲示を作成した。
新潟水俣病の語り部さんのお話を聞く	１	新潟水俣病患者であり、差別を受けた方の話を直接聞き、身近な問題であることを改めて痛感した。
環境と人間のふれあい館の見学	１	施設の方に案内をしていただき、原因や症状についてより詳しく聞いた。
新潟水俣病を取り巻く差別の現状	３	差別を受けることで、新潟水俣病患者がどのような気持ちになるかを想像し、差別の不当性に憤りを感じた。その中で差別に対して立ち向かう難しさと勇気を学んだ。また、差別をなくすために自分にできることを考え、表明することで、行動の指針となるものを意識した。

学んだことのまとめ	8	学習成果発表に向けて、学んだことをまとめた。原稿やスライド資料の作成を児童が中心となって行った。
学習成果発表	1	全校、地域の方の前で発表をした。学習したこと、考えたことを伝えることができた。

○　協力団体・協力者等（※この欄の必要が無ければ削除してください。）

・環境と人間のふれあい館　―新潟水俣病資料館―　様
・語り部　新潟水俣病被害者の会会長　小武節子　様

○　成果と課題　（※成果と課題を分けて記述してください。水俣病とのかかわりの内容に触れてください。）

＜成果＞

・子どもたちが第４学年で川について詳しく学習していたことで、繋がりがあったため、興味を持って学習に取り組むことができた。
・学習する前は、新潟水俣病について「名前を聞いたことがない」「名前は聞いたことがあるが、詳しくは分からない」と全員が答えたが、資料の内容を要約したり、お互いに説明し合ったりする活動を通して、自分に分かる言葉で理解を進めた。学習が進むにつれ、事の重大さに気付き、「何とかしなくてはならない」と思う児童が増えた。
・環境と人間のふれあい館を見学し、語り部である小武節子様の話を直接聞くことができ、児童にとって身近なことであることを実感できた。
・新潟水俣病について、詳しく知ってほしいという思いを持った児童は、学習発表会で新潟水俣病の原因、裁判、受けた差別について保護者・地域に説明をし、自分たちがどう行動していくかを表明することができた。

＜課題＞

・自然環境を守っていくための行動を継続していけるよう、今後も支援していく必要がある。自然環境に関わる話題を出し、解決や防止の方法を考える場を引き続き設定していく。
・新潟水俣病の差別をきっかけに、あらゆる差別を捉えるようになってきた。このことをさらに広げ、差別を見逃さずに、なくしていくための行動を続けられるよう、継続した支援が必要である。また、６年生で学習する「部落差別」へ意識を繋げていきたい。

（様式３）　**小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業に係る授業記録**

学校名	授業学級（人数）	実施日	実施教科等	授業者（職・氏名）
上越市立北諏訪小学校	**5年1組（12人）**	**9月24日**	**人権教育**	**教諭・佐藤洋希**

主題名　「ほっかむりはやめよう」　新潟水俣病の差別に立ち向かうために

ねらい　小武節子さんが差別を受けた心情を考えたり、差別をなくすための思いに共感したりすることを通して、差別に対して行動を起こそうとする気持ちを高める。

配時（分）	教師の働き掛け	子どもの反応（学習活動等）	資料
10	○これまでの学習で新潟水俣病について学習したことを確認する。 「新潟水俣病患者が感じている『心のつらさ』とは何か。」 「差別を受けながら過ごしていたらどんな気持ちになるか。」	・近所の人から「うつる」と言われ、決め付けられたこと。 ・「ニセ患者」と偏見を持たれたこと。 ・差別をされたこと。 ・生きていけない。 ・人を信じられなくなる。	
20	○資料を読み、差別に立ち向かって活動をしている小武節子さんについて考える。 「資料に出てくる『ほっかむり』とはどういうものか。」 「小武さんが『ほっかむり』を外すことができたのはなぜか。」 「活動をしていてつらいことはなかったのか。」 「それでも活動を続けた理由は何か。」	稲刈りの際、ほっカムリをして作業をした経験から、自分たちがしたほっかむりと、資資料で小武さんがしていたほっかむりの違いについて考えた。 ・自分たちは日差しから顔を守るもの。 ・小武さんは聞こえてくる差別の言葉から守るもの。 ・全国母親大会で、同じ母親という立場で活動をしていたから。 ・「堂々としていなさい」という言葉に励まされたから。 ・勇気をもらったから。 ・あった。　　・陰口を言われた。 ・同じ患者だけど、協力してくれなかった。 ・完全に無視された。 ・新潟水俣病のことをよく知ってもらいたいから。 ・活動中に励まされ、勇気をもらったから。 ・公害の恐ろしさを忘れてほしくないから。	

20	○新潟水俣病の学習から、あらゆる差別をなくすため、自分の何ができるかを考え、表明する。	・自分と違う人でも、悪口や陰口を言わない。 ・まず、自分が差別をしないように言葉に気を付ける。 ・決めつけをしないように、相手とよく話をして、相手のことを知ろうとする。 ・何ができるか、考えている。	
5	○学習のまとめ		

授業後の子どもたちの考え等（作文等）

・新潟水俣病の人への差別は、心のつらさにつながることが分かりました。自分がそのような差別をしないように、偏見や決めつけをなくしていきたいと思いました。そのために、相手とよく話をして、相手のことをよく知りたいです。

・小武さんのお話を聞いた時も思ったけど、差別に立ち向かうことはとても大変なことだと思う。つらいことが分かっていても立ち向かおうとする姿がすごいと思った。

・差別をしている人に「だめなことだよ」と伝えたい。自分は差別をしないように、決め付けるようなことは言わないようにしたい。

・いじめや差別は、傷つく人がいるので絶対にしてはいけないと思いました。傷つく人が出ないように、誰にでも優しく接します。

・たった一言で「心のつらさ」に繋がってしまうことが分かった。自分がそんな一言を言わないように、「これを聞いたら悲しい人が出るかもしれない」と言う前に考えてから、言葉を言いたい。





（様式２）　　小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業 実施報告書

学校名	妙高市立新井中央小学校	担当(職・氏名)	教諭　野口　正行
学習テーマ	「食と農の応援隊　～生きること・食べること～」		
活動のねらい	米作り体験活動を通して、「生き物」の「いのち」を食べることや、そのために行う人間の行為の意味を自身に問い直そうとする態度を育む。 新潟水俣病に関する調査・体験活動を通して、人間と食、身近な環境とのつながりについて考えをもち、偏見や差別の解消のために、自分たちにできることを行動しようとする気持ちを高める。		

○　新潟水俣病とのかかわり

・資料活用により、阿賀野川流域の人々の生活や「新潟水俣病」の原因・症状・被害・裁判等についての理解を深める。

・「環境と人間のふれあい館」への施設訪問を行い、語り部の方から直接体験談を聴き、偏見や差別の現実を深く学ぶ。

・「新潟水俣病」にかかわる学習を根拠にして、差別をなくすために自分自身で出来ることを考え、文章に表す。

○　活動概要　（新潟水俣病とのかかわりについての内容に触れてください。）

（１）各種資料を活用し、「阿賀野川」がその地域の人々の生活に密着した川であることや、「新潟水俣病」の概要を知る。

（２）「新潟水俣病」にかかわる現地学習会を通して、「新潟水俣病」の被害者の思いや願いを理解したり、差別解消のために行動しようとする気持ちを高めたりする。

（３）「新潟水俣病」について考えたことを振り返り、自分が今後よりよく生きていくために、大切にしていきたいことを作文にまとめる。

○　活動詳細

実施期間	９月～　　２月

主な学習内容・活動内容	時間	指導・支援の内容
社会科	１	○四大公害病についての学習 ・公害病の原因と状況を知るとともに、新潟水俣病がいつ、どこで、どんな公害なのか概要を知る。
なかまの時間（同和学習）	１	○新潟水俣病について深く知る ・DVD を視聴し、新潟水俣病のあらましや差別や偏見の実態を知る。
なかまの時間（同和学習）	２	○現地学習会 ・環境と人間のふれあい館に訪問し、語り部さんの講話を聴き、館内を案内役のもとで見学をし、阿賀野川の状況や新潟水俣病の偏見や差別の現実に学ぶ。
なかまの時間（同和学習）	１	○現地学習の振り返り ・新潟水俣病の背景や偏見・差別の実態、語り部さんの

		お話から分かったことなどを、シートにまとめる。
なかまの時間（同和学習）	1	○病気に対する差別を許さない ・新潟水俣病被害者が現在も続く差別や偏見に苦しんでいる事実を学ぶことを通して、被害者やその家族に対する差別に憤り、差別に立ち向かう生き方に共感することにより、病気に対する差別を許さず、差別に立ち向かっていこうとする気持ちを高める。
国語	2	○新潟水俣病作文コンクールへの参加 ・新潟水俣病を学んで、自分は何を理解し、これからの生き方について考えた作文にまとめる。
なかまの時間（同和学習）	1	○新潟水俣病と職業差別の振り返り（学習参観） ・新潟水俣病と職業差別（と畜業者差別）の問題点を振り返り、これからの生活で気を付けていかなければならないことを考えた。

○　協力団体・協力者等（※この欄の必要が無ければ削除してください。）
・語り部　権瓶　良雄さん
・新潟県立環境と人間のふれあい館

○　成果と課題　（※成果と課題を分けて記述してください。水俣病とのかかわりの内容に触れてください。）





［成果］
・現地学習に行く前に、「環境と人間のふれあい館」よりお借りしたDVDを複数回視聴することで、新潟水俣病のあらまし（原因や症状など）を学習することができてよかった。
・現地学習では、語り部の権瓶良雄さんから、子どもの頃の阿賀野川水域での生活の様子から聞くことができた。普段の生活の中で暮らしていて新潟水俣病になった現実を学ぶことができた。また、病気によって差別や偏見にあいながらも、差別に立ち向かう強い心を学ぶことができた。さらに、館内見学では阿賀野川流域について説明を受け、権瓶さんの話と合わせて聞くことができ、日常生活の中に新潟水俣病が入り込んできた様子を詳しく知ることができた。２階の展示では、厳しい差別や偏見の実態について説明を受けながら、学習することができた。
・９月の「病気に対する差別を許さない」では、現地でお話を聞いた権瓶さんの話を思い出しながら、差別や偏見の実態から差別が続いている理由について考えることができた。また資料「愛・いのち第４集」の「心まで病気にならないように」の小武節子さんの受けた差別や偏見が十数年経って、周りの人々の様子が変わっていったのはなぜかを考えることができた。その中で、「知る」ことの大切さに気付いた児童が大変多くなった。
・１月～2月にかけて新潟水俣病コンクールに向けた作文を書いた。原稿用紙３枚という文量であったが、新潟水俣病の学習の実態から振り返り、これからの生活を改めるきっかけとなった。
［課題］
・差別や偏見の実態に触れることができたことはよかったが、新潟水俣病の発生源に関心をもつあまり、差別や偏見を疎かになりそうになった。

（様式３）　**小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業に係る授業記録**

学校名	授業学級（人数）	実施日	実施教科等	授業者（職・氏名）
妙高市立新井中央小学校	**5年2組（22名）**	**9月19日**	**なかまの時間（同和学習）**	**教諭・野口　正行**

主題名　病気に対する差別を許さない

ねらい　新潟水俣病被害者が現在も続く差別や偏見に苦しんでいる事実を学ぶことを通して、被害者やその家族に対する差別に憤り、差別に立ち向かう生き方に共感することにより、病気に対する差別を許さず、差別に立ち向かっていこうとする気持ちを高める。

配時（分）	教師の働き掛け	子どもの反応（学習活動等）	資料
	◎小武節子さんの話を聞いて思ったことを発表しよう。	・差別は今も続いている。 ・周りの人々の水俣病に対する見方は昔から変わっていない。 ・正しいことをしているだけなのに、なんで差別されるの。 ・なんでこんなことになってしまったのだろうか。	「心まで病気にならないように」（出典『愛・いのち第　4集』）
	◎このような差別が続いているのはなぜでしょうか。	・水俣病について正しく知らないから。 ・周りの人のうわさや偏見を信じて真実を確かめないから。 ・お金がもらえるから、強いねたみがあるから。 ・病気のつらさが分からないから。	
	◎周りの人はなぜ変わったのでしょうか。（グループで話し合う）	・自分たちの考え方が間違っていると気付いたから。 ・うわさや偏見を信じるのは間違っていると気付いたから。 ・水俣病のことを正しく知ったから。 ・水俣病のことを正しく理解してほしいという節子さんの気持ちが伝わったから。	
	◎語り部さん（権瓶さん）のメッセージ（9/5）を聞いて、自分はこれからどうしていきますか。	・阿賀野川を大切にしてきた人々を差別するのは許さない。 ・語り部さんのように、くじけない強い心を持った生き方をする。 ・差別は差別する側が変わらないとなくならない。	

	○本当のことを何も知ろうとせず、周りの意見に流されるのはよくない。うわさ話や偏見は、新たな差別を生んでしまいます。正しいことを知って、苦しんでいる人の気持ちを理解し、支えてあげることが大切です。実は先生も水俣病の人はかわいそうと対等でない考えをもっていました。でも、その人たちの立場などを知ることで、自分にできることを一つでも多くしたいと考え、行動するようになりました。みなさんも自分のできることから始めましょう。	（授業の様子） 	

授業後の子どもたちの考え等（作文等）

・水俣病に誰も偏見をもたない社会にしていきたい。

・水俣病になっている人が「ニセ患者」とか言われない社会にしていきたい。

・水俣病を忘れないため、次の世代の人へ教えていきたい。

・新潟水俣病の差別をなくしていきたい。

・新潟水俣病をみんなに知ってもらいたい。

・いろいろな人に伝えて、水俣病への差別をなくしたい。

・水俣病のつらさをいろいろな人に伝えていきたい。

・水俣病への差別がない世の中にしていきたい。

・いろいろな人に水俣病のことを知ってもらって、差別や偏見をなくし、語り部さんのメッセージにあったことをしっかりと覚えておきたい。

・周りに水俣病の人がいたら、よりそってあげたい。

・自分から水俣病について正しい知識を広めていき、差別を減らす活動に協力し、心までも傷つく人を減らしていきたい。

・できる限り水俣病のことを伝えられたらいい。

・水俣病を「たたり」や「うつる」と考えている人の誤解（偏見）をなくしたい。

（様式２）　　小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業 実施報告書

学校名	妙高市立妙高高原小学校	担当（職・氏名）	教諭・松風　幸恵
学習テーマ	見つめよう「自分と自然」		
活動のねらい	・「食」を通して自然の豊かさの上に成り立つ人間の生活を見直し、自然の恵みに気付く。 ・新潟水俣病を通して、人間と食、人間と環境のつながりについて考えたり、偏見や差別の解消に向けて行動しようとしたりする気持ちを高める。 ・「自分と自然」について、自らの考えをもち行動できるようにする。		

○　新潟水俣病とのかかわり

・資料活用により、新潟水俣病の原因・症状・被害・現在も続く裁判などについて学び、問題への正しい理解を深める。
・被害者取材をまとめた新聞資料や語り部との出会いを通して、新潟水俣病が引き起こした被害や差別の現実を深く理解するとともに解決に向けて力強く行動する人々の生き方に学ぶ。
・一連の学習から学んだことを、「新潟水俣環境賞作文コンクール」への作文応募を機会として、差別に対しての自分の考えをじっくりまとめ、発信の機会とする。

○　活動概要

①地元の米づくり農家の方から指導を受け、米づくりについて年間を通して体験する。
　（安全安心な食のため、農業用水や水田の土壌、水生生物の役割、農薬について学ぶ）
②新潟水俣病についての事前学習を行う。
　（新潟水俣病の原因、被害と差別について概要を知り、新聞記事を活用して調べる意欲をもたせる）
③環境と人間のふれあい館での現地学習を行う。
　（新潟水俣病についての学習を深めると共に、語り部との出会いを通して問題を自分事として考える機会とする）
④「新潟水俣環境賞作文コンクール」を目標に、自分の考えを発信する。
　（新潟水俣病で学んだことを振り返り、自然や差別問題についての自分の考えをもつ）
⑤１年間の学びをふりかえり、自然をテーマに学んだ４年生との交流学習を行う。
　（自然と自分や差別に対しての考えを発表する）

○　活動詳細

実施期間	令和６年４月～令和７年３月	
主な学習内容・活動内容	時間	指導・支援の内容
米づくり体験	１５	・地域の米づくり農家の方から指導を仰ぎ、田打ちから田植え、稲刈り、収穫した米の活用まで、米づくりの体験を行う。 ・農業用水や水田の土壌、水生生物など水田を取り巻く自然環境の働きに目を向けさせ、自然と米づくりについての着眼点を与える。

川の水質を調べてみよう	4	・地域を流れる関川の上流・中流・下流の河川の様子の観察を行う。 ・その中で、水質調査や水生生物調査を行い、自然環境の豊かさに目を向けさせる。
新潟水俣病に関する学習	１４	・ＤＶＤや「生きる」を活用し、新潟水俣病の原因、被害などの概要を学ぶ。 ・新聞記事を用いて、新潟水俣病の被害についてより詳しく学び、差別について問題意識をもち、自ら考えようとする心情を育む。 ・環境と人間のふれあい館を訪問し、語り部さんから実際に体験談を聞くことで、被害者の心情に寄り添い差別解消のために自ら行動しようとする心情を高める。 ・「新潟水俣環境賞作文コンクール」で自分の考えを表現するという目的意識をもち、新潟水俣病問題を通して学んだことを作文に記す。
考えよう・自然と自分	2	・年度末の学習のまとめとして、自然をテーマに学んだ４年生に対し、５年生が新潟水俣病を通して自然について考えたことを発表し、２学年の学びを交流しながら、自分と自然について考えを深める。

○　協力団体・協力者等

・稲作指導　　石曽根　克芳　様、曽根原　博　様（地元農業関係者）

・現地学習語り部　曽我　浩　様

○　成果と課題

【成果】

・「新潟水俣病の教訓を後世に伝えるために」や新潟水俣病の患者を特集した新聞記事、環境と人間のふれあい館への現地学習を通して、児童は新潟水俣病の原因や被害や差別の実態について理解を深めると共に、自らこの問題について考えていこうとする意欲をもつことができた。

・語り部の曽我さんに実際にお会いして、新潟水俣病の問題が半世紀以上かかってもまだ解決していない事、偏見や差別の現状や問題解決に向かって自ら行動していく人々やそれ支える人々のお話をお聞きした。設定時間が足りないほど次々に質問が沸き上がり、児童がこの問題に対して主体的に考え行動していく心情の高まりが見られた。

・米づくりの体験と新潟水俣病の学習を重ね合わせることで、自然と自分の関係を１年間継続して考えることができた。

【課題】

・児童の感想に「同じ新潟県でこんな重大な問題があったことに驚いた」という感想があった。児童にとって問題のより深い理解と自分とのつながりを認識させるためにも、現地学習や語り部との出会いは非常に有効であり学習に欠かせない。県内は広いため、当校のように遠隔地での学習を考えると、時間・費用面で課題が残る。どの学校も本事業のような支援をより積極的に受けられるような支援の拡充が求められると感じた。

（様式３）　**小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業に係る授業記録**

学校名	授業学級（人数）	実施日	実施教科等	授業者（職・氏名）
妙高市立妙高高原小学校	**17**	**11/27**	**総合**	**教諭・松風　幸恵**

主題名　新潟水俣病の被害者に対する差別や偏見をなくす

ねらい　資料から新潟水俣病の被害者が受けた差別や偏見の実態について学んだり、差別や病気に負けず前を向いて歩もうとする生き方に学んだりして、差別の解消のために自ら学んでいこうとする態度を育む。

配時（分）	教師の働き掛け	子どもの反応（学習活動等）	資料
5	○前時までの学習を振り返り、新潟水俣病の発生原因や症状について確認する。	●メチル水銀が食物連鎖を通して魚にたまって、それを食べた人の体内に入ってしまった。 ●手足のしびれ、耳なり、めまい、視野がせまくなる、頭痛など	「未来へ語りついで」P17、18
25	○新潟水俣病の被害者の暮らしを取材した新聞記事から、今日は学んでいきましょう。 新聞記事を読み、疑問に思ったことやおかしい、すごいと感じたことを出し合い、新潟水俣病で苦しんでいる人の気持ちを考えよう。	・新聞記事を拡大提示し、自分で選んだ記事の机で学習する。 ・補助資料として、個人用に新聞記事も配布する。 ・記事の選定としては「苦しい症状や厳しい差別の実態」「差別に立ち向かう生き方」「差別しない仲間の支援」から５種類選定した。 ・まずは個人用の新聞記事を読み、疑問に思った個所とおかしいと感じた箇所、すごいと思った箇所に色を指定して線を引かせた。 ・その後に、同じ新聞記事のグループで意見交流し、拡大新聞記事にまとめさせた。線を引いた部分では、なぜそう感じたのかを記すよう指示した。   ●指を隠したり裁判ではサングラスで顔を隠したりしたのは、いじめられるかとても心配だったのだと思う。病気で苦しみ、さらに差別で	新潟日報社新聞記事 素顔

		我慢しなければならないなんておかしい。 ●被害者は学校で怠けてなんかいないのに厳しくされた。先生までなぜいじめをしたのか全く意味が分からない。 ●差別をする人もいたけど、一緒に輪投げをしたりしてなかよくしてくれる人もいた。友達の力は大きいし、私もそういう人になりたい。	
10	○グループで出た意見を全体で共有する。	・拡大新聞の書き込みを見せながら、グループごとに発表する。 ・教師の補助質問で、そう感じたわけをはっきりさせていく。 ・この時間で感じたことをワークシートにまとめる。	
5	○本時のまとめをする。 ・今日は新聞記事を通して、被害者の方と出会い学んでいきました。次回は実際に新潟水俣病の語り部さんにお会いして学んでいきましょう。	・次回の学習までにさらに調べたいこと、確かめたいことをはっきりさせるよう意識づける。	

授業後の子どもたちの考え等(作文等)

・新潟水俣病が起きたわけは分かっていましたが、病気で苦しんでいる人がこんなにもいて、本人にしか分からない症状でさらに差別されるということに驚きました。先生や友達まで苦しみに気付いてくれないなんてひどいと思いました。差別は、相手のことを思った行動ではありません。ぼくだったら差別よりも、心配や応援、優しくするなどの方がうれしいし、そうしたいです。

・人にうつる病気ではないのに噂が広がったり、患者ではない家族にまで差別が行ったりして、就職や結婚ができなくなるなどしたので、病気を隠す人もいました。差別がなかったら違った生活ができていたかもしれないと思うと心が苦しくなりました。

・病気にかかっても名前を公表できないのは切ないです。新聞記事でいろんな差別があったことが分かりました。差別をされていないからと言って私たちに関係がないということではありません。自分が差別をしていないか自分を振り返る必要があると思いました。



○私は、新聞に「正しい知識が社会に浸透しなかったことが原因」というところに線を引きました。どうしてこの問題が長年解決されないのか、次は語り部さんのお話からしっかり学んできたいと思います。

（様式２）　　小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業 実施報告書

学校名	五泉市立五泉小学校	担当（職・氏名）	教諭　小嶌　亜由美 伊藤　航平
学習テーマ	五泉の水博士になろう		
活動のねらい	・絶滅危惧種トゲソの生態と環境について学び、人間が川をはじめとした自然にどれだけ負荷をかけているのかを知る。 ・川の汚れが何に起因しているかを知り、水の汚れの測定や浄化について学ぶことで、環境を守る意識を高める。 ・「阿賀のお地蔵さん」の読み聞かせや旗野秀人さんのお話などから、新潟水俣病で苦しんでいる人の存在を知り、環境を守る意識を高める。		

○　新潟水俣病とのかかわり

水の汚染が希少淡水魚トゲソに危機を及ぼしていること、また、水を汚したことにより近くの阿賀野川で新潟水俣病が発生したことを知る。そして、患者さんの支援をしている旗野秀人さんの話を聞いたり、「阿賀のお地蔵さん」の絵本や新潟水俣病関連の資料を見たりして、学びを深める。

○　活動概要（新潟水俣病とのかかわりについての内容に触れてください。）

・川を汚したことによりトゲソが絶滅に瀕していることを知る。人は生活によってさまざまな汚れや負荷を地球にかけていることを知る。その中で水の汚染により近くの阿賀野川で新潟水俣病が起きたことを知る。
・五泉に生息するトゲソの生態を学び、生息地見学をする。簡易 COD パックテストなどにより、家庭からの排水が川の汚れの一つであることを知る。水の浄化実験を通して、水を汚さないためには、どうしたらよいかを考える。
・新潟水俣病の患者さんの支援をしている旗野秀人さんの話を聞き、公害の実態を知る。そして、このような環境問題や水にかかわる問題に対し、どのように考え、行動していったらよいかを調べ学習を通して考える。

○　活動詳細

実施期間	令和６年６月～令和７年１月（４５時間）

主な学習内容・活動内容	時間	指導・支援の内容
トゲソについて知ろう	６	・トゲソについて、インターネット等で調べる。 ・「トゲソの会」の方から、トゲソの生態について学ぶ。 ・学んだことや考えたことをワークシートにまとめる。
トゲソの里を訪ねよう	６	・「トゲソの会」の方の案内で、トゲソの生息地を訪問し、トゲソや周囲の自然の観察、外来種の駆除活動を行う。 ・気付いたことや学んだことをワークシートや新聞にまとめる。
水の循環について知ろう 水の汚れを調べよう	７	・「トゲソの会」の方から水の循環について学び、水の旅について考える。 ・ＣＯＤパックテストで３種類の水の汚れを調べる。 ・学んだことや考えたことについてワークシートにまとめる。
水の浄化実験をしよう	４	・水の浄化について学び、実験を通じて水がきれいになる方法を考える。 ・現在の工場排水の流れについての話を聞き、新潟水俣病に

		ついて知る。 ・どうしたら水を汚さないようにできるのかを考える。
水にかかわる環境問題や新潟水俣病について調べよう	８	・日本や世界における水問題や新潟水俣病について、本やインターネットなどで調べ、タブレット端末やワークシートにまとめる。
旗野さんのお話を聞いて考えよう	４	・旗野秀人さんによる「阿賀のお地蔵さん」の絵本の読み聞かせや新潟水俣病についての話を聞き、新潟水俣病の現状について理解を深める。 ・話を聞いたことをもとに学習で学んだことや感想をまとめ、旗野さんに伝える手紙を書く。
学習したことをまとめて発表しよう	１０	・五泉の水環境について調べたことや学んだこと、これから自分ができることなどを新聞やスライドにまとめ、保護者に向けて発表する。

○　協力団体・協力者等

・ＮＰＯ法人五泉トゲソの会

・ＣＭＫ蒲原工場

・新潟水俣病安田患者の会　旗野秀人様

○　成果と課題　（※成果と課題を分けて記述してください。水俣病とのかかわりの内容に触れてください。）

【成果】

・「トゲソの会」のみなさんや旗野さんの協力により、トゲソや新潟水俣病について体験的に学ぶことができた。児童が身近な水環境や自然について、関心をもって学習に取り組む姿が見られた。

・学習を進める中で、児童に「きれいな水を守るために自分たちにできること」を考え、実践していこうという意識が芽生えていた。今回の学習と自分の生活とを結び付けて考えようとする姿が見られるようになった。

・旗野秀人さんから来校していただき、「阿賀野のお地蔵さん」の読み聞かせや水俣病についての話をしていただいたことで、水と自分たちの生活とのつながりについて、より真剣に考えることができた。

・自分たちが調べたり考えたりしたことをまとめて、授業参観日に発表会を行った。児童同士だけでなく保護者へも発信することができた。

【課題】

・「トゲソの会」からの協力による活動だけでなく、地域に流れる川を題材として水と自分たちの生活との関わりについて追究させると、より自分事として身近に捉えられたかもしれない。



【トゲソを知る・水の循環を考える】

トゲソの会の齋藤さんからトゲソについて教えてもらった。

トゲソがなぜ絶滅しそうになっているのかを、水の循環や環境との関わりの視点から考えた。





【トゲソの里見学・ザリガニ駆除】

トゲソの里に行き、トゲソが生息しているのはどのような場所なのかを、水を触ったり、周りの自然を観察したりして確認した。トゲソの絶滅を防ぐために、ザリガニの駆除作業を行った。地域に湧き出る「どばしっこ清水」で湧き水を試飲することもできた。



【浄化実験】

身近にある道具を活用し、汚れた水をきれいにする方法をグループごとに実験して確かめた。色のついた水がきれいになる様子を観察することができた。





【水の循環・ＣＯＤ調査】

水道水、米の研ぎ汁、牛乳を混ぜた水の３種類の水の汚れをＣＯＤにより調べた。家庭から出る生活排水が水を汚す原因の一つであることを学んだ。





【阿賀のお地蔵さんの読み聞かせ】～旗野秀人さんをお招きして～

旗野さんの話を聞くことで、水がきっかけで大きな公害病が起こった事実を知ることができた。水が汚れることで人間にも影響を及ぼすことがあることが分かり、より水の大切さについて考えさせられる時間となった。

（様式３）　**小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業に係る授業記録**

学校名	授業学級（人数）	実施日	実施教科等	授業者（職・氏名）
五泉市立五泉小学校	2 クラス（70 名）	１０月３日	総合的な学習	教諭　小嶌亜由美 伊藤　航平

主題名　五泉の水博士になろう

ねらい　「阿賀のお地蔵さん」の紙芝居や旗野秀人さんの話から、新潟水俣病で苦しんでいる人の存在を知り、環境を守る意識を高める。

配　時（分）	教師の働き掛け	子どもの反応（学習活動等）	資料
20 分	○旗野秀人さんを紹介する。 ○旗野秀人さんから「阿賀のお地蔵さん」の読み聞かせをしてもらう。	●読み聞かせを聞く。	・パワーポイント（絵本の挿絵）
20 分	旗野さんに質問しましょう。  	●挙手して、質問する。 ●ワークシートにメモを取りながら､話を聞く。 【子どもの質問】※一部 ・水俣病の症状は、どのようなものなのか。 ・いつごろから水俣病が起こったのか。 ・水俣病になった人数はどれくらいか。 ・水俣病に年齢は関係あるのか。 ・水俣病は治るのか。 ・現在も水俣病に苦しんでいる人はいるのか。 【阿賀のお地蔵さんについて】 ・お地蔵さんは、どこにあるのか。 ・お地蔵さんには、どのような思いが込められているのか。	
5分	○振り返りを書かせる。	●授業を通して学んだことや感じたこと､考えたことをワークシートに書く。	

授業後の子どもたちの考え等(作文等)

・今日、旗野さんのお話を聞いて、新潟水俣病のことが分かりました。今までこんな病気があるなんて知りませんでした。

・こわいと思ったことは、魚の中に水銀が入っているか分からなかったということです。水俣病の治療方法がないということもこわいと思いました。それでも１００歳以上長生きした方もいて、すごいと思いました。

・水俣病のことをくわしく知ることができました。これからは、自分で水俣病のことを調べてみたいなと思いました。水俣病のことをもっと知ってみたいです。

・水俣病で多くの人が苦しめられていたということが分かりました。自分もこれからも水俣病についてもっとがんばって調べます。

・水俣病の症状などを知ることができました。感覚などがなくなって、痛みを感じなくなること、やけどしても痛くないということの話を聞いて、本当にこわい病気なんだと思いました。

・水俣病には、薬があると思っていました。でも薬はなかったと聞いてとても苦しい思いをしたんだなと思いました。これから、また人が自然を汚さないでほしいと思いました。

・水俣病は、最初はかるい病気と思っていました。だけど話を聞くとなくなる人もいると知ってこわい病気なんだと思いました。これからは、川を汚さないように、一人一人ががんばっていきたいと思いました。

・読み聞かせを聞いて、水俣病のことがよく分かりました。水俣病にかかった人でも水俣病に負けないで、百歳まで歌を歌っていたことを初めて知りました。すごいと思いました。

・話を聞いて、多くの人が水俣病で苦しんだことが分かりました。阿賀野川にいる魚を食べた人は、悲しい思いをしたと思うけど、病気に負けずに過ごしてほしいと思いました。自分が水俣病になったら、生活が大変そうです。これからも水俣病についていっぱい勉強したり調べたりして、水俣病に詳しくなりたいです。

（様式２）　　**小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業 実施報告書**

学校名	五泉南小学校	担当(職・氏名)	４年　教諭　　大岩　優輔 他　１名
学習テーマ	４年総合的な学習…五泉市に生息する魚「トゲソ」を通して水と汚れなどの様々な関係について学ぶ。		
活動のねらい	４年…きれいな水にすむ魚「トゲソ」について学び、人間が生活する上で川などの自然にどれだけ負荷をかけているかを知ることができる。川などの汚れの原因を知ることにより、水の汚れの測定や浄化について学ぶことができる。		

○　川と生き物とのかかわり

４年…人間が川を汚したことが原因でトゲソが絶滅に瀕していることを知る。そして、人が生活によってさまざまな汚れや負荷を地球にかけていることを知る。その中で水の汚染により近くの川である阿賀野川や早出川などの環境にどのような影響を及ぼしているのか、一人一人がどのように考えたらよいのかをグループで考える。

○　活動概要　（新潟水俣病とのかかわりについての内容に触れてください。）

４年…五泉に生息する絶滅危惧種トゲソの生態を学んだ。簡易ＣＯＤパックテストなどにより子どもたちは、トゲソの絶滅に瀕する主な原因が家庭からの排水、汚れであることを知る。そして、トゲソだけでなく、近くの阿賀野川で工場排水によって新潟水俣病が発生したことについても学んだ。その後、水の浄化実験を通して、水を汚さないためにはどうしたらよいかを考えた。　　※４年生は、他学年の児童に、ポスターで学習の成果を発表した。

○　活動詳細

４年生は４回にわたってトゲソの関連で現地訪問、授業、実験を行った。また、ビオトープでトゲソの生息数調査を実施した。加えて、人間が水を汚したことによって、新潟水俣病が引き起こされたことを知り、五泉の水を大切にしていくことが大事であることを学んだ。

阿賀野川に上るサケの捕獲場や捕獲作業、受精の方法、飼育の仕方を見学した。その後、自分たちで、サケの稚魚が大きくなるまで、みんなで協力して飼育を続けた。

実施期間	令和６年６月～令和７年３月	
主な学習内容・活動内容	時間	指導・支援の内容
① 6 月 7 日（金） 4 年生	10:25　～ 12:00	トゲソのことを知ろう。トゲソってどんな魚？ どうしてトゲソはいなくなったのあろうか？ 新潟水俣病についてのお話
② 6 月 12 日（水） 4 年生	9:30　～ 11:30	トゲソの生息地を実際に調べる。水温を計測、地下水を味わう、ザリガニ駆除の手伝い。カナダモの除去法は？
③ 6 月 26 日（水） 4 年生	10:25　～ 12:00	水の循環。水の旅を考える。水の汚れを調べる。ＣＯＤテスト 3 種類の水実験。
④ 9 月 12 日（木） 4 年生	9:20　～ 12:00	校内ビオトープ「南の泉」のトゲソ生息数調査。 生き物調査・水生植物の調査。
⑤ 11 月 27 日（月） 4 年生	9:00　～ 10:40	サケの捕獲場や捕獲作業を見学しよう。

⑥ 12 月 16 日（月） 4 年生	9:20 ～ 10:05	道徳授業～新潟水俣病について～
⑦ 3 月 3 日（月） 4 年生	9:40 ～ 10:20	私たちが育てたサケの稚魚を放流しよう。
⑧ 3 月 6 日（木） 4 年生	13:45 ～ 14:30	学校のみんなや地域の方に学習したことを発信しよう。

○　協力団体・協力者等

ＮＰＯ法人五泉トゲソの会　阿賀野川河川事務所（サケを守る会）

○　成果と課題（※成果と課題を分けて記述してください。水俣病とのかかわりの内容に触れてください。）

【成果】

４年生…五泉市に生息する身近なトゲソという淡水魚を通して、水の循環の仕組み、水の汚れの測定、そして水の浄化について学ぶことができた。新潟水俣病を含め、私たち人間がいかに水を汚してきたかを学び、一人一人が環境の保護がいかに大切かを意識するようになった。また、自分たちでサケの稚魚まで育て、放流する活動や他学年への情報発信活動によって、身の回りの水の環境保全の重要さについてさらに学びを深めることができた。

【課題】

４年生…校内ビオトープやトゲソ生息地での活動が中心となり、新潟水俣病や阿賀野川についての話はあまり聞くことができなかった。今後、早出川の水質調査や、阿賀野川の調査活動などを通して、探究範囲を広げ、５年生の社会の環境の学習につなげていきたい。

【活動成果参考写真】



① 6 月 1 日トゲソを知る



②6 月 9 日生息地見学



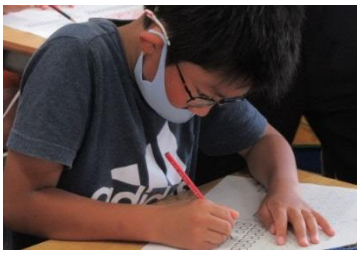
③6 月 28 日水の循環を考える



④9 月 12 日生息数調査



⑤11 月 27 日サケ捕獲場見学



⑥11 月 27 日新潟水俣病



⑦3 月 4 日サケの稚魚放流



⑧３月６日学んだことを発信

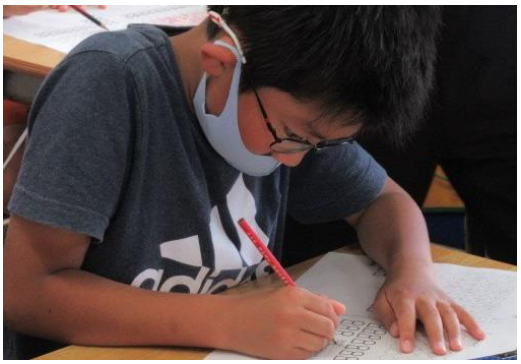
（様式３）　**小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業に係る授業記録**

学校名	授業学級（人数）	実施日	実施教科等	授業者（職・氏名）
五泉市立五泉南小学校	２クラス（５３人）	12 月 16 日	道徳	教諭　大岩　優輔 講師　野口　浩章

主題名　ある新潟水俣病患者の訴え

ねらい　新潟水俣病の原因追究や公害病認定にむけて懸命に取り組んできた人々の生き方を学ぶことで病気に対する差別をなくしていこうとする心情を高める。

配時（分）	教師の働き掛け	子どもの反応（学習活動等）	資料
7	新潟水俣病が発生した地域や病気の主な症状をとらえる。		・iPad ・生きる Ⅲ ・写真
	・これまでの活動を振り返り、私たちが川を汚していることを想起できる資料を　示する。	人が川や水を汚している現実を想起する ・川が汚れることで魚が住める環境が悪くなる。 ・昔、きれいだった川が汚れてきている。 ・人間が原因で川が汚れてきた。	
15	・いつ頃、どこで、どんな原因で発生し、どんな症状だったのかのとらえさせる。	新潟水俣病を知る ・阿賀野川で被害が広がった。五泉にも被害がある。 ・手足のしびれ、耳鳴り、頭痛、めまいなどの症状が出た。亡くなった人もいた。	
	資料を読み、差別を受けた「わたし」の苦しみやその背景について考える。		
	・資料を範読する。 ○阿賀野川は当時の人々にとってどんな存在だったのだろう。	・生活の場所、川でとれた魚を普段から食べていた。	
	○「わたし」の心や体、家庭もぼろぼろになった原因は何だろう。	・体が思うように動かなくなる不安。それを周りの人が理解してくれない。うそつき。差別。偏見。 ・本当のことを言えないつらさ。	
10	○なぜ「わたし」は病気の苦しみや差別、偏見に負けず生きていくことができたのだろう。	・同じ仲間。支えてくれる人々がいた。 ・苦しくてもあきらめずに戦おうとした人や次の世代のことを考え行動した人がいた。	

5 7	○もし、あなたが「わたし」と接するなら、どのようなことを大切にしますか。 ○今までの学習をふりかえり、「わたし」への励ましの手紙を書きましょう。	・「わたし」の思いや気持ちをきちんと聞いてあげたい。 ・差別や偏見をもたず、接していきたい。 ・話を真剣に聞く。 ・差別や偏見は許さない。病気の人に寄り添って、いっしょにがんばろう。 ・とても大変だったね。とても辛かったね。あなたを思ってくれる家族もいるよ。 	

授業後の子どもたちの考え等(作文等)

＜「わたし」への励ましの手紙＞

・つらかった気持ち、私たちには想像できないくらいつらい気持ちだったと思います。それでもあきらめずに前を向いて取り組みのはすごいと思いました。

・いろいろな人から差別され、家族からも冷たくされ苦しんできたんですね。私だったらたえられません。あきらめてしまうと思います。私は、普段から川を守っていけるような生活をしていきたいです。

（様式２）　　小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業 実施報告書

学校名	五泉市立川東小学校	担当(職・氏名)	教諭　石井　哲子
学習テーマ	4 年総合的な学習　「トゲソの里　水の里　川東」 ・五泉市に生息するトゲソを通して、環境問題について学ぶ。 ・阿賀野川の学習を通して、新潟水俣病を学ぶ。		
活動のねらい	きれいな水にすむトゲソの生態や生息環境などについて学ぶことを通して、 ① 人間が川などの自然に負荷をかけていることを知る。 ② 川などの汚れがどこから出ているかを知り、水の汚れの測定や浄化について学ぶ。また、現代の工場が出す排水をきれいにする努力や技術などを知る。 ③ 阿賀野川が昔からわたしたちの生活と密接な関係にあり、その恵みを受けてきた半面、新潟水俣病に苦しむ人々がいることを学ぶ。 これらの学習を受けて、人間だけでなく様々な生物が暮らしやすい環境を大切にしていこうとする態度を育て、新潟水俣病の発生によって現在でも苦しむ人々への理解を深める。		

○　新潟水俣病とのかかわり

　川の汚染によりトゲソが絶滅に瀕していること。人の生活によって様々な汚れや負荷を地球にかけていることを知る。その中で、水の汚染により阿賀野川で新潟水俣病が起きたことを知る。

　また、新潟県立環境と人間のふれあい館で新潟水俣病患者の方からの話を聞いたり、館内の見学をしたりすることを通して、これら環境問題に対して一人一人が自分の考えをもち、学びを深める。

○　活動概要

（１）トゲソハウス（ビオトープ）の清掃活動や観察の中から、トゲソの生態や生息環境、水環境などに関心をもつ。

（２）五泉トゲソの会の講師とともに、トゲソの生態や生息環境、水の循環、水の浄化などトゲソに関わる学習をして、トゲソについての知識を深める。

（３）トゲソの生息地の水質、環境調査を行う。また、外来種の駆除活動も行う。活動を通して、人が自然（水環境）を維持、守っていく必要があることを理解する。

（４）学校近くの川（新江川）の水質調査、トゲソや水生生物の生息数調査を行い、身近な水環境がきれいであることを理解する。

（５）トゲソが生息する水と生活の中で使う水の違いや、使われた水がどのように処理させるのかを理解する。(社会科の学習と関連)

（６）新潟水俣病についての学習と新潟県立環境と人間のふれあい館の見学での語り部の方との交流を通して、新潟水俣病の正しい知識を身に付けるとともに、水環境の保全の大切さを理解する。

（７）これまでの学習を通して、学んだことや感じたこと、考えたことを作文にする。また、学習のまとめを発信する活動を行う。

○　活動詳細

実施期間	令和６年６月～令和７年３月	
主な学習内容・活動内容	時間	指導・支援の内容
トゲソハウスの清掃活動 トゲソの観察	5	トゲソや水草、水の観察、清掃などの活動を通して、トゲソや水に興味をもつ。

トゲソや水についての学習会 学習会の振り返り	１５	トゲソの生態や水の循環、浄化方法、トゲソの生息地の水質調査、外来種の駆除活動、トゲソや水生生物の生息数調査などを通して、トゲソや水を大切にしようとする心情を育てる。
上下水道の仕組みの理解	５	水の循環や浄化方法について、社会科の学習と関連付けながら学ぶ。
新潟水俣病についての学習と見学 生きるⅢ「ある新潟水俣病患者の訴え」	１５	新潟県立環境と人間のふれあい館の施設見学を通して、新潟水俣病についての正しい知識を身に付けるとともに、水環境を守っていこうとする心情を育てる。
新潟水俣環境賞作文コンクールへの応募	７	水の環境や新潟水俣病について学んだことをテーマに作文を書き、作文コンクールに応募。
発信活動	５	トゲソや水環境、新潟水俣病に関して学んだことをまとめて、発信する。

○　協力団体・協力者等
・NPO 法人五泉トゲソの会　　齋藤　明　様
・五泉市水道局
・新潟県立環境と人間のふれあい館

○成果と課題
【成果】
・五泉市に生息する絶滅危惧種となっているトゲソを通して、水の汚れの測定や水生生物の調査を行いながら、私たち人間が自然を守っていく役割を担っていることに気付くことができた。また、自然を大切に守っていこうと考えるようになった。
・水の循環の学習を通して、自分たちが使った水がサイクルしていることを知り、水は資源であることを理解して、水の使い方を改める姿が見られた。
・新潟水俣病の発生や新潟水俣病患者の方の苦しみを学ぶことで、相手の立場に立った言動をとることの大切さについて考えるようになった。
【課題】
・新潟水俣病は、現在も裁判が継続されているという現状がある。また、新潟水俣病に関わる現地見学ができる場所や実際に新潟水俣病に関わる活動をされている方から話を聞くことができる。このような機会があることを伝えていくことを通して、子どもたちがこれからも学びを続けていけるように、また子どもたちのできるアクションを支援していく必要があると思う。

【活動成果参考資料】



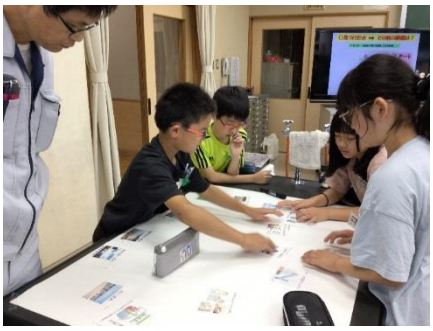
①トゲソってどんな魚？



②五泉市浄水場見学



③トゲソの生息地調査



④水の環境を考える



⑤新江川について調べる



⑥水の浄化実験



⑦環境と人間のふれあい館見学

（様式３）　**小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業に係る授業記録**

学校名	授業学級（人数）	実施日	実施教科等	授業者（職・氏名）
五泉市立川東小学校	１クラス（３０人）	１月２４日	総合的な学習の時間 道徳	教諭　石井　哲子

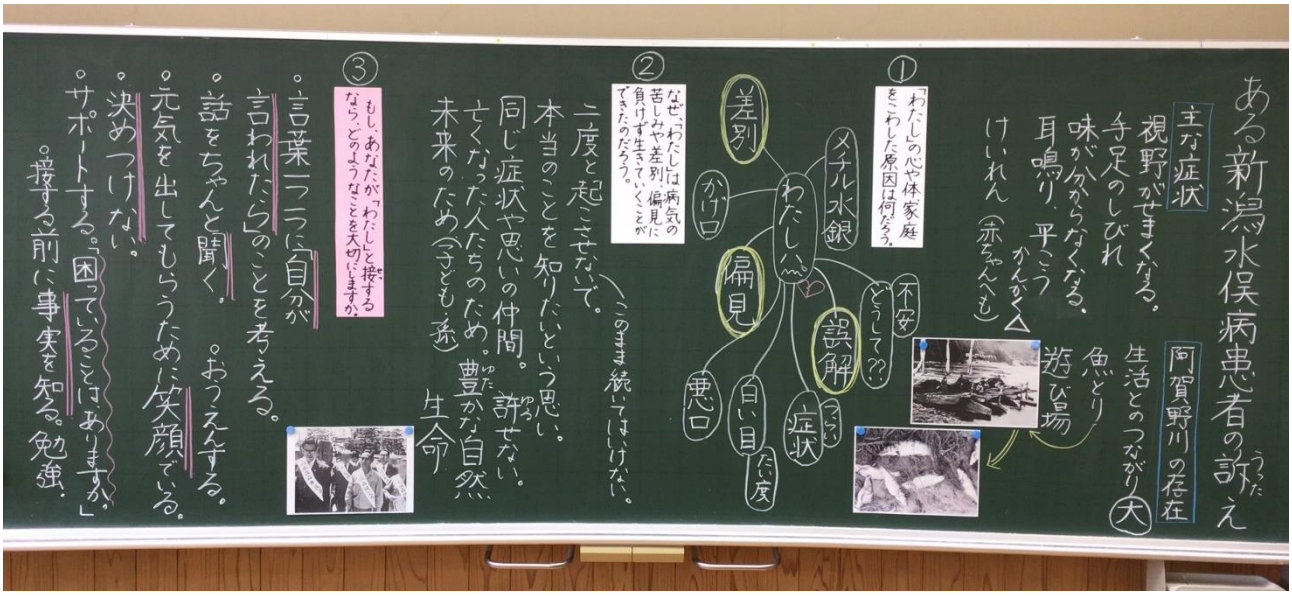
主題名　ある新潟水俣病患者の訴え

ねらい　新潟水俣病の原因追究や公害病認定にむけて懸命に取り組んできた人々の生き方を学ぶことで病気に対する差別をなくしていこうとする心情を高める。

配時（分）	教師の働き掛け	子どもの反応（学習活動等）	資料
５	新潟水俣病が発生した地域や病気の主な症状を思い出す。		・iPad ・生きるⅢ ・写真
	・これまでの学習が想起できるような資料を提示する。	発生した地域 ・今昔マップを活用して、旧昭和電工鹿瀬工場の場所を確認する。	
	・いつ頃、どこで、原因などの補助発問により、県内で発生した公害病であることを再確認する。	主な症状 ・手足のしびれ　・耳鳴り ・めまい　・けいれん　・頭痛	
１５	資料を読み、差別を受けた「わたし」の苦しみやその背景について考える。		
	・資料を範読する。		
	○阿賀野川は、昔の人々にとってどんな存在だったのだろう。	・大好きな遊び場 ・魚とりをして食べていた。 ・川魚をとって毎日食べていた。	
	○「わたし」の心や体、家庭を壊した原因は何だろう。	・周りの人が理解してくれない。 ・焦りや不安。 ・原因が分からなかったことが辛い。 ・差別の言葉や偏見の目で見られること。 ・仕事や家事も上手くできない。	
１０	○なぜ「わたし」は病気の苦しみや差別、偏見に負けず生きていくことができたのだろう。	・自分を頼りにしてくれる人や共に戦ってくれる人が支えだったと思う。 ・自分たちと同じように苦しんでいる人たちのために。 ・二度と同じようなこと起きないようにするために。	

５	○もし、あなたが「わたし」と接するなら、どのようなことを大切にしますか。	・「わたし」の思いや気持ちをきちんと聞いてあげたい。 ・差別や偏見をもたず、接していきたい。	
１０	○今までの学習をふり返り、「わたし」への励ましの手紙を書きましょう。	・差別や偏見を許さず、患者に寄り添い、ともに行動しようとする気持ちを高める。	

板書



子どもたちの考え　～「わたし」と接するときに、どのようなことを大切にしますか。～

・言葉一つ一つに、「自分が言われたら」のことを考えて発言する。
・会う前に本当のことを勉強する。
・少しでも「わたし」の苦しみや心の痛みを分かち合えるように、新潟水俣病について勉強をしておく。
・元気を出してもらうために、笑顔で接する。
・誤解をしないで、話をちゃんと聞く。
・あきらめないでと伝えて、応援する。サポートする。
・絶対に同じ歴史を繰り返さないようにするために、事実を知ってから話をする。
・差別をしない。
・優しく寄り添う。
・「こうだ！」と決め付けない。
・「困っていることはありますか。」と聞く。

（様式２）　　小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業 実施報告書

学校名	五泉市立村松小学校	担当(職・氏名)	4年担任　塩原美幸
学習テーマ	五泉市に生息する魚のトゲソやサケ、近くで起きた新潟水俣病を通して、水環境について学ぶ。		
活動のねらい	トゲソやサケの生態を学んだり、川の環境調査や水質検査、浄化実験を行ったりすることを通して、人間の生活が川や自然に負荷をかけていることを知り、水環境への関心を高める。 新潟水俣病について知り、健康的で安全な暮らしのために水環境を守ろうとする意識を高める。		

○　新潟水俣病とのかかわり

人間の生活による水質の悪化によりトゲソが絶滅に瀕していることを知る。サケの稚魚飼育と放流を行い、海に出たサケが再び帰ってくることができる水環境を作らなければいけないことを知る。また、「阿賀のお地蔵さん」を教材とした授業や、公害に関する調べ活動から、人間による水の汚染がトゲソやサケなどの水生生物だけでなく、人間の健康や安全にも関わっていることを学ぶ。これらの活動を通して、未来の水環境を守るための方策について一人一人が考えていく。

○　活動概要　（新潟水俣病とのかかわりについての内容に触れてください。）

五泉に生息するトゲソの生態を学び、生息地を見学した。トゲソが絶滅に瀕しているのは水の汚れが原因であることを知った。簡易 COD パックテストや川の観察、水生生物調べなどにより、人間の生活に関わる排水が汚れの大きな原因であることを学んだ。さらに、水の浄化実験や水をめぐる世界情勢などの学習を通して、水環境維持のためには人々の努力が必要であることを学んだ。

食料や水産資源としての側面のあるサケを飼育し、稚魚の放流活動を行った。かつて新潟水俣病は川魚を食べることによって罹患者が増えた経緯を知り、魚も人間も安心できる水環境作りの必要性を学んだ。

「阿賀のお地蔵さん」を教材とした授業を行い、新潟水俣病患者や住人の苦しみについて考えた。水が汚れることと病気になることの関係に興味を持ち、公害に関する調べ学習を行った。

学んだことを新聞にまとめて掲示した。また、学習発表会で発表をし、水環境を守っていくことについて、家庭や地域の人々に協力をお願いした。

○　活動詳細

トゲソの会の方に講師をしていただき、5回にわたってトゲソや水の環境に関わる授業、見学、実験を行った。

新潟水俣病患者の会の旗野秀人さんから「阿賀のお地蔵さん」の読み聞かせをしていただき、「阿賀のお地蔵さん」が作られた背景を学ぶ。

実施期間	令和6年6月～令和7年3月

主な学習内容・活動内容	時間	指導・支援の内容
①6月11日（火）	8:45～10:20	トゲソの生態や環境について知る。
②6月20日（木）	9:30～12:15	トゲソの生息地の見学を行う。水温及び水路の観察と、ザリガニ駆除の手伝いを行う。
③7月5日（金）	8:45～10:20	水の循環について考える。COD テストで3種類の水の汚れについて調べる、新聞にまとめ掲示する。
④9月10日（火）	9:30～12:15	地域の川（滝谷川）の水質と、住んでいる水生生物について調査する。

⑤9 月 27 日（金）	10:40～12:15	水の浄化実験を行う。水の汚染により新潟水俣病が起きたことを知る。
⑥10 月 26 日（土）	9:35～11:25	学んだことを学習発表会で保護者や地域の人に向けて発表する。
⑦11 月 12 日（火）	9:40～10:20	サケの人工授精見学。サケの飼育方法を知る。
⑧11 月 26 日（火）	8:45～10:20	サケの捕獲場見学。サケが海から川に帰ってくることを知る。
⑨1 月 24 日（金）	13:30～14:15	「阿賀のお地蔵さん」を題材にした道徳授業を行う。新潟水俣病の被害者の心情について考える。
⑩1 月 28 日（火）	9:35～10:20	旗野秀人さんによる「阿賀のお地蔵さん」の絵本の読み聞かせや新潟水俣病についての話を聞き、新潟水俣病の実状について理解を深める。
⑪2 月下旬		水環境や新潟水俣病について調べ学習を行う。
⑫3 月 4 日（火）	9:00～10:20	鮭の稚魚を放流する。川の環境が変わってしまうと帰ってくることができないことを知る。

○　協力団体・協力者等（※この欄の必要が無ければ削除してください。）

特定非営利活動法人五泉トゲソの会　齋藤明様

能代川サケマス増殖組合　塚野様

新潟水俣病安田患者の会　旗野秀人様

○　成果と課題　（※成果と課題を分けて記述してください。水俣病とのかかわりの内容に触れてください。）

【成果】

五泉市に生息するトゲソについて調べることや水の循環、水質調査、川の観察、浄化実験を通して、水環境への関心を高めることができた。また、水の汚れは人間の生活が起因することが大きいこと、きれいな環境を保つためには人々の努力が不可欠であることを学ぶことができた。

サケの飼育・稚魚放流活動では、サケの生態を知り、また帰ってきてほしいという思いから、水環境を守っていこうという気持ちを強めた。

新潟水俣病などの事例を通して、人が水を汚染することで、水生生物だけでなく、人の健康や安全もおびやかされることがあることを知った。サケの学習をしていたこともあり、川魚と人間の関係についても理解を深めることができた。また、道徳の授業で新潟水俣病患者やその地域の人が苦しんできたことを学び、水の汚染で再び人々が苦しむことがないように自分たちにできることは何か、水環境を守ろうとする意識が高まった。

【課題】

水環境への意識が高まり、学んだことを様々な場で発表した。これらの呼びかけで、保護者地域の人の意識がどのように変化したかが分かると、児童の学習もより一層充実する。アンケートなど、意識を探る方策を今後検討していきたい。

【活動成果参考写真】



①6 月 11 日トゲソを知る



②6 月 20 日トゲソの里見学



③7 月 5 日水の循環・COD



④9 月 10 日滝谷川の観察



⑤9 月 27 日水の浄化実験



⑥10 月 26 日学習発表会



⑦11 月 12 日人工授精見学



⑧11 月 26 日捕獲場見学



⑩1 月 28 日水俣病授業

【水俣病（みなまた病）って何？】
水俣病とは、化学工場から海や河川に排出されたメチル水銀化合物を、魚、エビ、カニ、貝などの魚介類が直接エラや消化管から吸収して、あるいは食物連鎖を通じて体内に高濃度にちくせきし、これを日常的にたくさん食べた住民の間に発生した中毒性の神経疾患です。

⑪2 月下旬　調べ学習



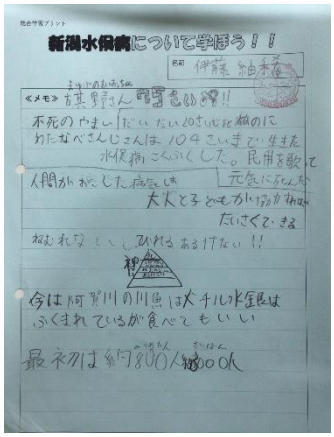
⑫3 月 4 日サケの稚魚放流

（様式３）　**小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業に係る授業記録**

学校名	授業学級（人数）	実施日	実施教科等	授業者（職・氏名）
五泉市立村松小学校	**4年1組（37人）**	**1月28日**	**総合学習**	**講師　塩原　美幸**

主題名　　守ろう五泉の水環境

ねらい　　「阿賀のお地蔵さん」の紙芝居や旗野秀人さんの話から、新潟水俣病で苦しんでいる人の存在を知り、環境を守る意識を高める。

配 時（分）	教師の働き掛け	子どもの反応（学習活動等）	資料
20	○旗野秀人さんを紹介する。 ○旗野秀人さんから「阿賀のお地蔵さん」の読み聞かせをしてもらう。	●読み聞かせを聞く。	・パワーポイント（絵本の挿絵）
20	旗野さんに質問しましょう。 	●挙手して、質問する。 ●ワークシートにメモを取りながら、話を聞く。 【　子どもの質問　】 ①治った人はいるのか。 ②患者さんは何人くらいいるのか。 ③裁判での勝敗は？ ④どんな症状が出るのか。 ⑤今でも川に水俣病の原因となる物質はあるのか。 ⑥水俣病以外に汚染水が原因で起こる病気はあるのか。 ⑦治す薬はあるのか。 	
5	○振り返りを書かせる。	●授業を通して学んだことや感じたこと、考えたことをワークシートに書く。	

授業後の子どもたちの考え等(手紙の中から一部抜粋)

・新潟水俣病の被害者は、３０００人以上いることを知り、驚きました。

・新潟水俣病の症状は、手足のしびれや立ちくらみなど、外見では分からないから、他人から理解されにくいということが分かりました。

・水俣病は治す薬がないし、現在でも困っている人がいることが分かりました。

・裁判が終わらないまま、亡くなっていく人がいることを知り、辛いなと思った。

・水俣病になり、差別をされていた人は苦しい思いをしたんだなと思った。

・水俣病の人のことを考えて、苦しさを理解してあげられる人になりたいと思いました。

・川を汚さないで水を大切にしていきたいなと思いました。

・旗野さんの話を聞き、帰ってから家族にも話をしました。水俣病だけが公害病ではなく、他にもあることを教えてもらい、調べてみたいと思いました。

・水俣病について、もっと調べてみたいと思いました。そして、たくさんの人にも正しく理解してほしいと思いました。

（様式２）　　小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業 実施報告書

学校名	五泉市立愛宕小学校	担当(職・氏名)	教諭　・　佐藤　真理
学習テーマ	4 年総合的な学習 ・五泉市に生息する魚トゲソを通して水と汚れの全般的な学習を学ぶ。 ・阿賀野川の学習を通して、新潟水俣病を学ぶ		
活動のねらい	・きれいな水にすむ魚トゲソを学び、人間が川など自然にどれだけ負荷をかけているか知る。川などの汚れがどこから出ているかを知ることにより、水の汚れの測定や浄化について学ぶ。近隣にある CMK 蒲原工場から出る工場排水の処理方法などを聞き、水俣病を起こしていた時代と現在の違いを知る。そして二度とこのようなことが起こらないようするには何をしたらいいのかを学ぶ。 ・阿賀野川が昔からわたしたちの生活と密接な関係にあり、その恵みを受けてきた半面、新潟水俣病に苦しむ人々がいることを学ぶ。		

○　新潟水俣病とのかかわり

・川を汚したことによりトゲソが絶滅に瀕していることを知る。人は生活によってさまざまな汚れや負荷を地球にかけていること、その中で水の汚染により近くの阿賀野川で新潟水俣病が起きたことを学び、環境問題に対し自分たちができる事を考えていく。

・かけがえのない五泉市の水環境を守る意識をさらに高めるため、阿賀野川流域の暮らしと共に、阿賀野川を汚した公害の事例を学ぶ。阿賀野川で新潟水俣病が発生したことと、それによって今もなお病状に苦しむ方がいることを学ぶ。

○　活動概要

・阿賀野川で工場排水によって新潟水俣病が発生したことを学ぶ。今も病気や差別で苦しんでいる人々がいること、多くの人の努力によって阿賀野川がきれいな川に再生したことなどを学び、水の浄化実験を通して、水を汚さないためにはどうしたら良いかを考える。

・旗野秀人さんから「阿賀のお地蔵さん」に込めた思いを聞き、学ぶ。

○　活動詳細

・五泉トゲソの会の斉藤明さんから、トゲソの生育環境やトゲソ減少の理由について学ぶ。

・阿賀野川河川事務所と連携し、早出川の生物調査を通し、水環境について学ぶ。

・「新潟水俣病学習用動画　新潟水俣病をもっと知ろう！学ぼう」を視聴し、新潟水俣病について学ぶ。

・旗野秀人さんから、「阿賀のお地蔵さん」の読み聞かせをしていただき、「阿賀のお地蔵さん」が作られた背景を学ぶ。

・保護者、地域の人へ舞台発表と新聞発表で学んだことを伝える。

実施期間	Ｒ６年４月～Ｒ７年３月（７０時間）

主な学習内容･活動内容	時間	指導・支援の内容
６月１０日（月）	9：20～11：10	トゲソのことを知ろう。トゲソってどんな魚？
６月１８日（火）	9：20～12：15	トゲソの里を実際に調べる。水温、水路の様子。ザリガニ駆除の手伝い。
６月２８日（金）	13：40～15：30	水の循環。水の旅を考える。 水の汚れを調べる。ＣＯＤテスト 3 種類の水。 現在の工場排水の流れ。

７月１日（月）	9：20～11：10	水の浄化実験。新潟水俣病のこと。どうしたら水を汚さないようにできるのか。
９月４日（水）	9：00～11：00	早出川水質検査、水生生物調査で川の汚れを調べる。
９月５日（木）	10：30～11：10	阿賀野川の歴史を学ぶ。（洪水、治水）
９月１８日（水）	9：00～12：00	新津浄化センターで水の浄化、微生物のはたらきを学ぶ。
１１月１４日（木）	10：25～11：10	「阿賀のお地蔵さん」が作られた背景から、水俣病について学ぶ。（講師、旗野秀人様）

○　協力団体・協力者等

・新潟県花卉球根農業協同組合　・五泉アグリセンター　・村松浄水場　・早出川ダム
・ＮＰＯ法人五泉トゲソの会　・CMK 蒲原工場　・阿賀野川河川事務所　・新津浄化センター
・満願寺出張所　・太田川排水機場　・旗野秀人さん

○　成果と課題

【成果】

五泉市に生息する身近なトゲソを通して、水の循環の仕組み、水の汚れの測定、そして水の浄化、今現在の工場から出る排水について学んだ。人間が新潟水俣病という事件を含め、いかに水を汚してきたかを学んだ。「阿賀のお地蔵さん」が作られた背景から、水汚染で苦しむ人がいることが分かり、偏見や差別から絆を取り戻す努力なども学んだ。これらのことから、一人ひとりが環境保護の大切さを意識するようになった。また、自分たちにできる環境保全について考えるようになった。

【課題】

バス代の高騰などもあり、市外への見学は難しかった。水環境について、より多くの情報を見聞きできるように行動範囲を広げられたら学びが広がると考える。

【活動成果参考写真】



トゲソの里調査



水の浄化実験



阿賀野川の歴史



早出川水生生物調査



阿賀のお地蔵さん



学習発表会

（様式３）　**小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業に係る授業記録**

学校名	授業学級(人数)	実施日	実施教科等	授業者(職・氏名)
五泉市立愛宕小学校	4年1組（27人）	11月8日	総合的な学習の時間	教諭・佐藤真理

主題名　「わたしたちを支える水」
ねらい　水俣病の概要、原因、症状、差別や偏見などを知り、水を汚さないようにしたい、偏見や差別のない社会にしたいという思いを高める。

	教師の働き掛け	子どもの反応
10分	「新潟水俣病をもっと知ろう！」を見て考えましょう。	
	前時までにVTRを見せておく。 ○パワーポイントで概要を押さえる。	・昔は、今と違って川に汚れた水を流していた。 ・工場の有機水銀が原因で手足がしびれたり、熱さを感じられなくなったりした。
10分	有機水銀は、どうして体に入ったのだろう。	
	写真資料を提示 （「新潟水俣病をもっと知ろう！学ぼう！」より） ○プランクトン、水生昆虫、川魚、人間という食物連鎖を通じて有機水銀が体内に入ったことをおさえる。	・地図を見ると、川の近くに住んでいる人が水俣病になってしまったようだ。 ・原因は川魚を食べたことだ。 ・生き物の体の中にたまっている。 ・工場から出た有機水銀が流れて、生き物の体に入った。 ・どのくらいの人が水俣病になったのだろう。
10分	水俣病の患者さんについて考えよう。	
	○今も、被害者の方々が体調不良で苦しみ、差別や偏見でも辛い思いをしていることをおさえる。	・いまだにたくさんの人が苦しんでいる。 ・差別をする人がいて、自分も悲しくなる。 ・「阿賀のお地蔵さん」はみんなの願いが込められている。
10分	有機水銀はなぜ川に流れたのだろう。	
	○昭和電工で、肥料をつくる時に有機水銀が発生したことをおさえる。	・工場で出た水銀が川に流れた。 ・アセトアルデヒドを作ったことが原因だ。 ・今はきれいな水が流れている。
5分	新潟水俣病の学習で学んだことは何ですか。	
	○学んだことを記述させる。	・たくさんの人が体の不調で苦しんだ。 ・差別や偏見があることが分かった。

授業後の子どもたちの考え等

・たくさんの人が体のしびれや動きにくさなどで苦しんでいることが分かった。
・差別をするなんてひどい。辛い思いをしているのになんでだろう。
・阿賀野川の魚を食べても大丈夫かと心配になったけれど、きれいな水しか流されていないと分かって安心した。
・昭和電工は、大きな工場で、たくさんの人が働いたと分かった。

地域の特色を活かした
環境学習支援事業

■様式２：令和６年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」実施報告書

学校名	新潟市立葛塚東小学校	担当（職・氏名）	教諭　坂下　祐
学習テーマ	葛塚を食べよう！		
活動のねらい	自然環境と食文化について、地域の水環境や新潟水俣病と向き合い、問題を見出し、体験したり調べ活動をしたりすることを通して、地域の問題を環境の視点から見直し考えるとともに、自らの生活や行動に生かすことができるようにする。		

○　新潟水俣病とのかかわり

　葛塚地域周辺では阿賀野川につながる川や福島潟の水環境の恩恵を受けて生活している。私たちの生活を支える水環境では、新潟水俣病により苦しい生活を余儀なくなれた。また、豊かな川や潟の食文化も忘れ去られていった。そこで、新潟水俣病の歴史と教訓を学ぶことで、新潟水俣病の被害者が抱えてきた痛みに真摯に向き合い、同じような悲惨な公害が二度と繰り返されることなく、川の恵みを大切に、誰もが安心して暮らすことのできる環境を目指そうとする心情と態度を育む。

○　活動概要

・葛塚の食文化について調べる。
・葛塚の食文化が途絶えていった歴史について漁業組合の方のお話を聞く。
・環境と人間のふれあい館を見学し、新潟水俣病や阿賀野川の水環境について知る。
・新潟水俣病の語り部の方のお話を聞き、新潟水俣病について理解を深める。
・新潟水俣病について考えたことを作文にまとめる。

○　活動詳細

実施期間	令和６年５月～令和７年２月	
主な学習内容・活動内容	時間	指導・支援の内容
総合 葛塚を食べよう！～葛塚の食文化を過去からつなげよう～	30	・これまでの学習を振り返り、地域である葛塚のよさを再確認する。 ・米栽培を通して、葛塚の自然環境や農業問題について調べるとともに、地域の食文化について関心をもつ。 ・福島潟の食文化について調べ活動を行う。 ・稲刈り体験をするとともに、福島潟の食文化について、農家や漁師の方等から話を聞く ・福島潟の食文化を普及するための広報活動を行うという共通課題を設定する。 ・福島潟の食材の PR のために、福島潟自然文化祭やしののめ学習発表会において発表をする。
総合 葛塚を食べよう！～福島	15	・地域のシンボルである福島潟と食文化について、知っていることを話し合う。

潟の水環境を考える～		・葛塚の食文化について振り返り、環境と食文化における総合的な学習の時間の学び方をつかむ。 ・「新潟県立環境と人間のふれあい館ー新潟水俣病資料館ー」を見学したり、新潟水俣病の語り部の方のお話を聞いたりすることで地域の水環境と食文化について考える。 ・地域の問題を環境の視点から捉え直し、これからの対応策を考えるという課題を設定する。 ・過去から現在の食文化と水環境の関連について話し合う。
社会 環境とともに生きる	５	・新潟水俣病の原因や被害について資料をもとに調べ、まとめる。 ・新潟水俣病の訴訟や裁判の経緯について調べ、まとめる。 ・新潟県の環境保全活動や、自然環境と生活の結び付きに着目して、生活環境を守ることの意味について話し合う。 ・新潟水俣病について考えたことを作文にまとめる。

○　協力団体・協力者等

・米づくり体験：JA 熊木様、本間様、ボランティア様
・食文化：福島潟新井郷川漁業組合長 長谷川様、松潟屋 佐藤様、葛塚の食を考える会様
・新潟水俣病：環境と人間のふれあい館長 藤田様　語り部：小町様

○　成果と課題

【成果】　○日本四大公害病の一つである新潟水俣病がとても近い場所で起こったということで、公害問題をより身近な問題として捉え、関心を高めて考えさせることができた。

○「県立環境と人間のふれあい館」の施設見学や解説を通して、新潟水俣病の概略や経緯を学ぶことができた。また、語り部の方からも実際の体験談や現代を生きる私たちへの思いを直接聞くことができ、新潟水俣病を他人事ではなく、より自分事として捉えさせることができた。

○総合的な学習で、地域の食についても学習を進めており、地域の食文化と阿賀野川、福島潟、新潟水俣病を関連付けて学習を進めていくことで、福島潟の食文化に気付くことができた。福島潟の食文化が戻りつつあることが分かり、米や魚だけでなく、阿賀野川を中心とした水環境の恩恵を多く受けていることを実感し、新たな地域の魅力を発見することができた。

【課題】　△社会科「環境をともに守る」の学習と合わせて、実施したかったが、時期がずれてしまい、児童の意識がとぎれとぎれになってしまった。来年度は、年間指導計画を改善し、合わせるようにしていく。

■様式３：令和６年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」に係る授業記録

学校名	授業学級（人数）	実施日	実施教科等	授業者（職・氏名）
新潟市立葛塚東小学校	**5年3組（33 人）**	**1月 31 日**	**社会**	**教諭　坂下祐**

・単元名　環境をともに守る

・ねらい　新潟水俣病について、新潟水俣病の発生原因と発生の経過、被害者の症状や苦しみなどを、資料を通して調べることを通して、被害者の苦しみや対応、新潟水俣病の教訓を生かした、人々の健康や生活環境を守るための取組へ関心を高め、追究の見通しをもつことができる。

配時（分）	教師の働き掛け	子どもの反応（学習活動等）	資料
5	○新潟水俣病について知っていることを問う。	●水銀が阿賀野川に流れた。 ●しびれや耳鳴り、視野が狭くなる人がいた。 ●メチル水銀を摂取した魚を食べた。 ●差別を受けた。	
	【学習課題】 新潟水俣病はどのような公害で、人々にどんな影響を与えたのな。		
30	○資料「新潟水俣病が教えてくれたもの」「新潟水俣病 20 の疑問」をもとに、新潟水俣病の発生原因や症状を調べさせる。  ○調べたことを発表させ、新潟水俣病の発生原因や症状について、全体でまとめる。	●メチル水銀が含まれた工場排水が原因になって発生した。 ●メチル水銀を含んだ川魚を人が食べて発症した。 ●食物連鎖の過程で、水銀の濃度が濃縮されていった。 ●なくなった人もいた。 ●会社を辞めさせられる、結婚ができなくなる、嫌な手紙が送られる、「うそ患者」と呼ばれる等の差別を受け、苦しんだ。 ●子どもを差別から守るために、自分の家族にも患者であることを秘密にしていた。 ●手の震え、頭痛、めまい、言葉がうまく話せなくなる等の健康被害も受けた。 ●症状が人それぞれでそのことも差別を助長した。	
	【まとめ】 阿賀野川にメチル水銀を含んだ工場排水が流れ出て、メチル水銀を含んだ川魚を食べた人が発症した。しびれ等の健康被害、差別、裁判の問題等、苦しみは今も続いている。		
10	○学習を振り返らせる。	●なりたくて水俣病になったわけじゃないのに、差別されるのがかわいそうだ。	

		●新潟水俣病の苦しみが改めて分かった。患者の方は差別する手紙を送られたり、嫌味を言われたり、苦しい思いをしてきたと思う。	

・授業後の子どもたちの考え等（作文等）

・私は新潟水俣病の原因や被害について学習しました。水俣病になった原因は工場から流されたメチル水銀が元となって新潟水俣病が発生した植物連鎖によりメチル水銀が川魚に取り込まれそれを人々が食べたことだとわかりました。新潟水俣病になり差別を受けた人がいて、それは何年経っても差別をし続ける人がいるから差別された人が可哀想だと思いました。これからは新潟水俣病の症状などをたくさんの人に知ってもらい差別をなくす取り組みをしたいです。

・僕は新潟水俣病の原因や被害について学習しました。
新潟水俣病はとても恐ろしく、悲しい病気だと思いました。新潟水俣病は、手足の痺れや耳が聞こえにくくなるとても恐ろしいですが、それだけではなく会社が辞めさせられたり、嫁をやっちゃダメだ、などその人の体の状態だけではなくその人の心まで壊れてしまうとても恐ろしい病気だと思いました。
今はもう阿賀野川は綺麗になり、大丈夫だけど今も差別に苦しんでいる人はいるし、裁判はまだ続いている、だから忘れてはいけないなと思いました。

・私は、新潟水俣病の原因や被害について学習しました。
　分かったことは、原因については阿賀町にあった化学工場、旧昭和電工鹿瀬工場がメチル水銀を含んだ水銀を処理しないまま阿賀野川に流していたことが原因でした。そして、工場から流されたメチル水銀が元となって有機水銀中毒が発生し、それで汚された阿賀野川の魚を食べてしまったことにより水俣病になってしまったことがわかりました。
　被害について分かったことは、水俣病は見える症状、見えない症状があったので差別や偏見がすごかったそうです。例えば仕事を休むと怠け者、水俣病のふりをしていると嘘つき呼ばわりされ「金目当て」だと思われたりして辛い思いをした人もたくさんいました。そして症状も人それぞれで何個も種類があります。例えば手足の痺れ、頭痛や視野が狭くなるなどです。他にも偏見や差別がひどいので家族に内緒にして話せない人もいました。
　今は前より差別が酷くなくなったけど、完全になくなった訳じゃなく、まだ裁判も続いています。ここまで昔から裁判で戦っている人はすごいし尊敬します。水俣病というだけで差別偏見はおかしいと考えました。もう二度とこんなことがあってはいけないと思いました。

■様式２：令和６年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」実施報告書

学校名	木崎小学校	担当（職・氏名）	教諭・松下寛彰
学習テーマ	学校の近くで栽培している米作りを体験し、地域の自然環境の良さや特色を見つけ、自分たちが地域のためにできることを考える。 米作りでは、川の水を使っていることから、新潟水俣病とのかかわりを意識する。		
活動のねらい	米作り等の農業体験を通して、身の回りの自然環境に関心をもち、豊かな自然環境を大切に守っていこうとする態度を育てる。		

○　新潟水俣病とのかかわり
「環境と人間のふれあい館」を訪問し、新潟水俣病の語り部の方から新潟水俣病に関する講話をしてもらうことで正しい知識や理解を深める。

○　活動概要（新潟水俣病とのかかわりの内容に触れてください。）
①新潟水俣病について「新潟県立環境と人間のふれあい館」へ行き、語り部さんからの話を聞く。
②米作りについて調べる。
③調べたことを生かして、米作りを実際に行い、お米を育てる。
④収穫したお米を用いて、調理実習を行う。
⑤新潟水俣病について関心をもったこと、調べたいと思ったことについてグループを編制しさらに詳しく調べまとめる。
⑥まとめたことを学習参観で保護者に向けて発表する。

○　活動詳細

実施期間	５月～　　１２月

主な学習内容・活動内容	時間	指導・支援の内容
田植え体験	２	地域の方・JA の協力により、田植え体験を行った。
米作りについての学習	１１	社会の教科書を用いて、現在の米作りについての学習を行った。日本の様々な地域でコメが生産されていることやコメの消費量が減っていることをうけて、どのようにコメの消費量を増やすかについて考え学習した。
稲刈り体験	２	５月に植えた米の稲刈り体験を行った。全員が鎌をもって手作業で稲刈りを体験し、米作りの大変さを学んだ。 また機械による収穫の様子を見ることで、農業の機械化を感じることができた。
校外学習	４	新潟県立環境と人間のふれあい館へ行き、語り部さんの話や新潟水俣病の現在の状況、かつての阿賀野川がどのような生態系だったのかについて学んだ。

新潟水俣病について	8	新潟水俣病について学習後、新潟水俣病の歴史や症状、差別・偏見、現在まで続いている裁判など様々な内容についてグループごとに分かれ探求活動をした。
発表会	2	調べたことについて、保護者を招いて発表会を行い、新潟水俣病について様々な視点から伝えることができた。
調理実習	4	自分たちで収穫した米を使って、鍋で炊飯する調理実習を行った。

○　成果と課題　（※成果と課題を分けて記述してください。水俣病とのかかわりの内容に触れてください。）

【成果】

① 米作り体験（稲刈り・田植え）を通して、児童は普段何気なく食べている米を作ることの大変さを児童が学ぶことができた。また、実際に自分で稲刈りを体験するのと同時に、機械での稲刈りの様子を見ることで、農業の機械化の良さについて肌で感じることができた。

② 新潟県立環境と人間のふれあい館に行き、当時の新聞記事や阿賀野川の様子、現在に至るまでの裁判の様子などについて、様々な資料を直接見ることで新潟水俣病がどのような病気であるのか、どれほどの苦労をしていたのかについて理解することができた。また、施設内にある水をきれいにする装置を操作することで、ちょっとした汚れでも水をきれいにすることの大変さと難しさを体験し学ぶことができた。これらの活動からこれからは自然を大切にしていきたいという感想をもつ児童が多数いた。

③ 発表会に向けて準備する過程で、それぞれが調べてみたいと思ったことについて深く探究することができた。また、保護者の中には、新潟水俣病について詳しい知識をもっている方の割合も低かったため、「家の人に教えてあげたい。」という伝える気持ちをもって学習に取り組むことができた。

【課題】

① 米作り体験について

米作り体験では、稲刈りと田植えしか体験できなかったため、本当の米作りの大変さである気温に合わせた水の管理や、農薬・肥料の使用場面などについて直接見て学ぶ機会がなかった。また、その二つの作業しか体験していないので、自分たちで育てた米という実感が薄い児童がいた。

② 新潟水俣病について学習することについて

新潟県立環境と人間のふれあい館で学習し、語り部さんの話を直接聞くことができたのはとても良い体験となった。しかしタブレット端末を用いて、それらについて調べていく中で、様々な写真を目にする機会があった。何人かの児童からそれらの写真に対して、「怖い」といった声が上がり、タブレット端末の使用のさせ方についてはもう少し検討する必要があると感じた。

■様式３：令和６年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」に係る授業記録

学校名	授業学級（人数）	実施日	実施教科等	授業者（職・氏名）
新潟市立木崎小学校	**5年2組（33人）**	**10月30日**	**社会**	**教諭　松下寛彰**

・主題名　社会　環境をともに守る

・ねらい　四大公害病と公害が起こった原因について学習し、新潟水俣病について、校外学習で学んだことからどのような病気や苦しさがあったのかを考える活動を通して、同じ過ちを繰り返さないためにどうすればよいのか考えることができる。

配時（分）	教師の働き掛け	子どもの反応（学習活動等）	資料
	・社会で学習した４つの公害について確認する。 ・新潟では新潟水俣病があったことを全体で確認する。 ・新潟水俣病でどのようなことが起こったか確認する。	●熊本県と鹿児島県で新潟水俣病があった。 ●三重県で四日市ぜんそくがあった。 ●富山県でイタイイタイ病があった。 ●新潟県の阿賀野川で新潟水俣病があった。 新潟県の阿賀野川でメチル水銀が原因で様々な症状が出る病気が発生した。 そこにいた魚たちを食べて気づかないうちに病気になってしまった。	
	・病気以外にどのようなことで新潟水俣病患者の方は苦労していましたか。	●患者だと知られると、お金が欲しいだけだといわれる人もいた。 ●差別や偏見を恐れて病気のことをかくして生活している人も多かった。	
	（学習課題） 新潟水俣病と同じ過ちを繰り返さないために大切なことは何だろう。		
	・校外学習で学んだことを確認する。	●語り部さんの「小町ゆみこ」さんが話してくれた。 ●人によってさまざまな症状が出ることがよく分かった。 ●症状だけでなく、差別や偏見など周りの人からの扱いで嫌な思いをしてきた。 ●裁判をすれば、お金が欲しいと思われてしまうこともあった。 ●外見が変わらず健康に見えるため偽患者や仮病などと言われることもあった。	
	・施設で学んだこと・水俣病が発生してしまった原因について	●昭和電工鹿瀬工場が排水を処理せずに流し続けてしまったことが原因である。	

	確認する。 ・同じ過ちを繰り返さないために大切なことを考える。	●メチル水銀が食物連鎖によって魚に蓄積されていき、それを人間が食べることで患者となってしまう。 ●工場は排水や煙を出すときはしっかりときれいにして、環境に悪い影響を与えないように配慮する必要がある。 ●新潟水俣病について正しい知識をしっかりと身に着け、少しでも差別偏見につながるようなことをしない。 ●水や空気をきれいにしたりするなど、環境をもとに戻すにはとても時間がかかる。 ●ごみを分別したり、ごみをポイ捨てしたりしないことなど自分にできることを見つけて行動に移すことが大事。	

まとめ
環境に配慮した工場の生産が必要。ただし知識を身に着けることが、差別と偏見の防止につながる。

☆語り部「小町ゆみこ」さんの話について
全体を通して「新潟水俣病って怖いな」と思いました。小町ゆみこさんが手足の痺れの痛みを「ずっと正座していると痺れるあの痛みみたい」と表現してくれたのでとてもわかりやすかったです。それと耳鳴りも「耳の中にセミがいるぐらいうるさい」と表現してくれてこれもわかりやすかったです。自分だったらどっちもとても不快なのでそれを耐えながら寝ることができる小町ゆみこさんがすごいなと思いました。食糧不足だから魚を取ってきてその魚を食べたら水俣病になるなんて理不尽だなと思いました。新潟水俣病にかかった魚が新潟水俣病の患者さんとおんなじで見た目だけでは分からないというところも理不尽だな思いました。ただただ普通の生活をしていたのに新潟水俣病にかかるとこんなことになっちゃうのかと思いました。

☆映像・施設内を案内してもらって
魚が住むためには水の中に油が1mlはいるだけで２Lのペットボトル160本分も必要だということがわかり、驚きました。もしたくさん油を流しちゃうと…と思うと魚がもう一生食べられなくなるんじゃないかと怖くなりました。そして新潟水俣病の原因のメチル水銀が普通、脳は少しならいろいろなものを守るのにメチル水銀は脳にたどり着いて脳の神経細胞を破壊するということを知り怖いなと思いました。脳は神経細胞を壊されてしまうともうあまり戻らないと聞きこれも怖くなりました。

・授業後の子どもたちの考え等（作文等）

・新潟水俣病がとてもつらいことが分かった。

・差別や偏見などをしてしまうのは正しい知識を身に付けていないからだと思う。

・いまだに裁判が続いているのは、工場や国が患者のことを大切に思っていないからなのかもしれない。

・環境を元に戻すのはすごく大変。自分にできることを見つけて取り組んでいきたい。

■様式２：令和６年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」実施報告書

学校名	新潟市立木戸小学校	担当(職・氏名)	校長　貝沼浩晃
学習テーマ	基本的な人権，国会の働き，裁判のしくみを学習した児童に，新潟水俣病の実例を通して政治の実情と限界を見直す学習を開発する。		
活動のねらい	新潟水俣病の経緯や現状を調べることを通して，人権や法律，裁判等の政治と新潟水俣病の関連について理解を深める。		

○　新潟水俣病とのかかわり
・新潟水俣病の経緯や現状を調べて，実例を通して人権や法律，裁判などを理解させる。
・主権者として水俣病の教訓を次世代につなげる方法を考えることを通して，その自覚を育てる。

○　活動概要（新潟水俣病とのかかわりの内容に触れてください。）
前単元で憲法や国会等の政治の働きについて学習をしている児童に，新潟水俣病の事例を通して，基本的人権の尊重，国会の働き（法律制定），主権者の働きを調べて考えさせる。
語り部さんからの話を聞くことで，実際の被害者の苦しみを知り，実感を伴って被害とその影響の大きさを理解させる。ネットに通じた世代だからこそ，実際に話を聞く活動を大事にしたい。
基本的人権の尊重，内閣や国会の働きなどを，新潟水俣病の場合はどうなのかを調べさせる。政治の学習は「遠い世界」の話であると児童は考えやすい。政治が身の回りの問題解決のために動いていることを気づかせる。
その中でも国会の働きとして法律の制定を中心に取り上げる。語り部さんの話を聞き，その被害の大きさを知った児童に，どのような法律があれば，被害に遭った皆さんを救えるかを考える。本来，政治は困っている人々を救うことが目的であり，法律をつくることで問題解決をめざす。それを疑似的に児童に体験をさせながら，法律をつくることの意味を気づかせたい。まだ政治の学習が不十分な児童であるので，現実的でないことは少々目をつぶり，多様な観点から問題解決の方法を探らせたい。新潟水俣病の解決のために活動してこられた環境と人間のふれあい館館長にゲストティーチャーとして授業に参加いただき，児童が考えた法律を評価していただき，新たな視点で新潟水俣病を考える契機とする。
学習のまとめでは，「新潟水俣病で苦しんでいる人を救うために，主権者である私たちはどんなことができるか」を考えることを通して，被害に遭った方々だけでなく，みんなが当事者として関心をもつ重要性を考えさせていく。

○　活動詳細

実施期間	令和６年５月～　６月

主な学習内容・活動内容	時間	指導・支援の内容
① 新潟水俣病の裁判の記事の読み取りを通して，水俣病の経緯と現状をつかむ。	１時間	・新聞記事の読み取り，ニュース動画の視聴 ・調べてみたいことをまとめる。 ・ネットで新潟水俣病について調べて，概要をつかむ。
② 語り部の話を聞くことを通して，住民にとって切実な問題であることを理解する。	１時間	・語り部さんからの話を聞く。質問と応答 ・話を聞いて分かったことや考えをまとめる。
③ 新潟水俣病を基本的な人権の観点で見直して，人権を守ることの重要性に気づく。	１時間	・基本的人権の尊重（国民のだれもが人間らしく生きる権利をもつ）について振り返る。 ・新潟水俣病は基本的な人権の何を守れていなかったのかを考え，話し合う。（健康で文化的な生活を送る権利，

		働く権利，居住を選ぶ権利等） ・「コロナ差別」を事例として取り上げて，現在でも偏見や差別があることに気付かせる。
④ 新潟水俣病をめぐる政治が果たした役割について理解する。	１時間	・国会，内閣，裁判所は，新潟水俣病の解決のために，どのような役割を果たしていたのか調べる。
⑤ 新潟水俣病を解決のために国会が果たした役割と限界について理解する。	２時間	・新潟水俣病の患者の皆さんを救うための法律を考える。 ・つくった法律を紹介し合い，話し合う。 ・ゲストティーチャーからつくった法律について意見をもらう。 ・新潟水俣病を解決するために，法律や国会が果たす役割について考えをまとめる。
⑥ 主権者である私たちが，新潟水俣病の解決のためにできることを考える。	１時間	・新潟水俣病で苦しんでいる人を救うために，主権者である私たちはどんなことができるかを考える。

○　協力団体・協力者等
・新潟水俣病の語り部
・環境と人間のふれあい館
・環境と人間のふれあい館館長　藤田伸一　様

○　成果と課題

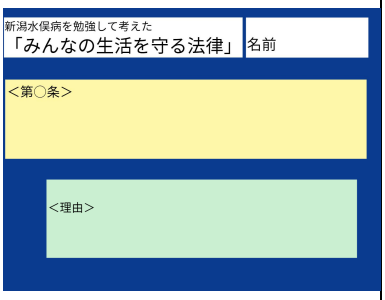
□　語り部さんの話から，健康被害の深刻さが分かった。普段から親しんでいた川魚から泡を吹いて死んでいた様子や親が死ぬまで新潟水俣病を隠していた事実等に、児童は非常に驚いていた。被害の大きさから何とかしたいと思いを抱き，学習をする動機づけになった。
□　国会議員になったつもりで法律をつくる学習では，児童は意欲的に取り組み，１人でいくつもつくる児童もいた。内容が浅い深い差があったが，法律をつくるという体験は重要であった。差別や偏見を禁止する内容が多く，新潟水俣病被害者の皆さんの気持ちに寄り添ったことが分かった。
□　つたない法律についても館長から，着眼点の良さを指摘していただき，児童の学習を意味付けていただいた。単に法律をつくる活動に終わらせず，価値ある学習に高めていただいたことに感謝したい。
□　新潟水俣病は，従来は５学年の工業単元で扱うことが多かった。今回実施した６学年での公民分野でも十分に学習可能であった。５学年工業単元での取り扱う時数が減少する中で，公民分野の事例選択の単元で新潟水俣病を扱うことは有効である。

◆　公民の学習は難しい用語が多く，それに加えて新潟水俣病の経過や課題は難しい内容が多いので，学力低位の児童には大変な部分もあった。語り部さんや法律をつくるなどの活動は意欲的だったが，それ以外の部分でも分かりやすい資料等を用意する必要がある。
◆

■様式３：令和６年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」に係る授業記録

学校名	授業学級（人数）	実施日	実施教科等	授業者（職・氏名）
新潟市立木戸小学校	**6年1組2組52人**	**6月11日**	**社会**	**校長　貝沼浩晃**

・主題名　2 わたしたちの暮らしを支える政治（新潟水俣病を通して）
・ねらい　新潟水俣病の経緯や現状を調べることを通して，人権や法律，裁判等の政治と新潟水俣病の関連について理解を深める。

配時（分）	教師の働き掛け	子どもの反応（学習活動等）	資料
	○2 クラス合同で実施する。（多目的ルーム） ○ゲストティーチャー（環境と人間のふれあい館館長）の紹介 ○課題の確認	●持ち物…ノート，筆記用具，探検バック，iPad ●課題は前時に提示済みであり，児童は自分が考えた法律をつくっている。  	
	（学習課題） ◎新潟水俣病の被害に苦しんでいる人々を救うためには，どんな法律があればよいか。		
	○意見の交流をする。学年合同の学習を生かして，他の組の友達と作った意見の交流をさせる。	●他のクラスの友達同士で自分のつくった法律を紹介し合う。 	
	○つくった法律を発表する。 ○友達の法律でいいなと思ったものを紹介する。	●友達の法律でよかったものを紹介する。 ●自分のつくった法律を発表する。	
	○つくった法律を紹介してください。		
	○ゲストティーチャーから意見をいただく。 <ゲストからのコメント>実際に差別や偏見が多かったので，とても良い法律である。	●水俣病にかかった人に差別や偏見その人が嫌がることをしない。<理由>水俣病になった人が嫌な思いをしないようにするため。水俣病になってしまって辛いのにさらに心まで傷ついてしまうから。 ●憲法に基づいて、水俣病患者の方を差別して	

	なくしていく努力が必要である。 ＜ゲスト＞今後，新潟水俣病等の被害が起きないようにしていくことも重要である。 ＜ゲスト＞とてもよい法律である。基本的人権の尊重を考えることは大事である。 ＜ゲスト＞裁判は長く続くし，今現在も続いているために，被害者の苦労も大きい。	はいけない。＜理由＞差別や偏見をしていたら、憲法の「法のもとの平等」が守られなくなるから。 ●工場から排出する前にその水を検査して有害だったら、排出してはいけない。その有害な液体をプランクトンが飲んでもいいくらいにきれいにする。＜理由＞そもそもとして排出する前に検査したら水俣病にかかることがないから。 ●新潟水俣病にかかった人たちの生活をサポートしてあげる。＜理由＞水俣病にかかったら手足が痺れたりなど不自由なので、サポートしてあげたら大丈夫だと思うから。 ●日本国民はどんな障害や個性をもとうとも、尊重される。＜理由＞新潟水俣病にかかった人たちは基本的人権の尊重を守られていなかったから。 ●みんなが平等に＜理由＞一人を攻め立てないでそれぞれ本当なのかを決める他にもそれにとらわれず平等にする。 ●裁判では、被害者の話を聞くこと。＜理由＞被害者は何度も裁判をしても認めてもらえなかったから。	
	○ゲストティーチャーからのお話……良い法律がたくさんあった。これからも新見潟水俣病に関心をもってほしい。ふれあい館で学習できるので，ぜひ来館してください。 ○本時の学習の振り返りを書く。発表する。	●今日は藤田伸一様にお越しいただき、お話を聞かせていただきました。法律を作るのは難しいと思ったし、よく考えて作らないと、不公平になると思うし、悲しむ人が出てきそうだなと思いました。 ●今日、水俣病を詳しく教わっていろいろなことがわかりました。他の人が作った、法律も良かったです。これから、県立水俣病の資料館にこれから行って、もっと調べてみたいなと思います。 ●今日は、藤田館長にお越しいただきました。自分が作った法律を交換してたくさんの意見を知ることができました。これからも差別や偏見を言わないで水俣病の患者さんをわかってあげる取り組みをして学びに深めたいです。 ●私は、館長さんが言っていた「水俣病は絶対に治らない」と聞いて、水俣病はやっぱりすごい苦しい病気なのだなと思いました。そして、やっぱり水俣病は偏見や、差別があったと聞いたので、これからも、水俣病があるの	

		は絶対に忘れないし、水俣病についての差別や偏見は絶対にしないです。 ●「何も悪いことしてないのに脳の細胞が壊される、そんなことを続かせない、辛さをわかってあげる」とゆうことが大事だなと思いました。今回恥ずかしくて質問できなかったんですけど次こそは行ってみたいです。	

・授業後の子どもたちの考え等(作文等)

●この学習では私は水俣病についてあまり興味がなかったけど、この学習をしてみて今でも水俣病にかかって苦しんでいる人がいることが分かったし、水俣病にかかった人たちはたくさん裁判をしたり、一生懸命に諦めないで取り組んでいることが分かりました。これからは水俣病の人たちのことについて調べてみたいと思いました。

●水俣病を初めてしたっときは、そんな大変な病気だとは思わなかったけど、この学習を通して水俣病患者の方はとても辛い体験をされたことを知りました。見ただけでは若らにこそ偽患者と言われたりするのは想像するだけでとても辛いだろうなと思いました。水俣病患者の方が何回も裁判を起こして自分たちの病気を理解してほしいと努力している姿がかっこいいしすごいなと思いました。

●新潟水俣病のことを勉強して学んだことは新潟水俣病になった人は基本的人権を守られない（法のもとでの平等や健康で文化的な生活を送る権利）などのことをされてしまったことや水俣病の症状には 100 人いたら 100 通り 1000 人いたら 1000 通りの症状が出ることがわかりました。だからこれから水俣病になった人が差別や偏見を受けずに過ごせるといいなと思いました。

●国会、内閣、裁判所の 3 つがどれも水俣病の解決策を考えているということを学んだ。水銀を流した会社自身が自分たちがやったことを認めていないから、そのような憲法ができているということに安心した。水俣病で苦しみながらも必死に意見を国に伝えに行くと聞いたので、苦しみが伝わってきた。

●水俣病の患者さんのために国会や内閣、裁判所が手伝っていることを知りました。特にびっくりしたのが、水俣病の患者さんの基本的な人権が守られていなかったことです。その基本的な人権でその人の人生を狂わされたからです。例えば、働く権利、移住移転職業を選ぶ権利、健康で文化的な生活を送る権利、法のもとの平等、言論・出版の自由などが守られていませんでした。なので、水俣病の人たちの暮らしにものすごくびっくりしました。また、このようなことがないといいです。

●水俣病になった人は差別を受けているのは知っていましたが、差別や偏見が怖くてどんなに重い病気でも、声をあげられない人たちがたくさんいるのにおどろきました。もし、これからどのような病気が出てきても、決して差別はせずに平等に接して行きたいと思いました。

●日本でもコロナや水俣病で偏見被害があったことがわかりました。水俣病はうつったりしないのにあそこの家に行くと水俣病がうつる、近づかない方がいいということがあって 4 年もかけて裁判を起こしたことがわかりました。自分たちで法律をつくるときも偏見に関してのことが多かったので偏見は被害者にとって一番傷ついたりするものなんだなと思いました。

■様式２：令和６年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」実施報告書

学校名	新潟市立関屋小学校	担当(職・氏名)	教諭　　植田　奈々加
学習テーマ	「大好きにいがた　My　SDGs　～私たちにできること～」		
活動のねらい	SDGs の 17 の目標の中から，自分たちが目標達成に向けて取り組める活動を考え，呼び掛けるとともに，環境問題について進んで取り組んでいこうとする態度を育む		

○　新潟水俣病とのかかわり
・「環境と人間のふれあい館」を訪問し，正しい知識をもとに学習を深める。
・水質実験を通して、水質汚染の原因を考える。

○　活動概要（新潟水俣病とのかかわりの内容に触れてください。）
・SDGs の 17 の目標について知り、アグリパークでの循環型農業やユニクロと共同で難民に服を送る活動に取り組む。
・潟船乗船の体験を通して、鳥屋野潟で生息している生物や自然環境について知る。
・地域の貢献活動として海岸清掃や落ち葉掃きを行い、自然環境への影響を考える。
・社会科で学習した「水はどこから」の学習を通して、現在と昔を比較しながら自然環境の変化について考え、新潟水俣病について知る。
・「環境と人間のふれあい館」で新潟水俣病についての正しい知識を得る。
・環境について自分たちができることを考え、取り組んだことをまとめる。

○　活動詳細

実施期間	5 月～12 月

主な学習内容・活動内容	時間	指導・支援の内容
SDGs について知る	20	・興味がある SDGs について調べ、どんな活動ができるか見通しをもつ。 ・アグリパークでの循環型農業やユニクロとの「服のチカラプロジェクト」を体験し、SDGs の目標を意識する。
鳥屋野潟潟船乗船の体験	5	・ネイチャーゲームや潟船乗船の体験を通して、鳥屋野潟で生息している生物や自然環境について知る。
地域貢献活動参加	3	・落ち葉掃きを通して、自然環境への影響を考える。
新潟水俣病を知る	6	・「環境と人間のふれあい館」へ行き、水俣病についての学習を深める。 ・水質実験を通して、水質汚染の原因を考える。 ・「阿賀のお地蔵さん」について学び、差別・偏見を許さないことを再確認する。
未来のために，自分たちができる「My　SDGs」を考え、発信する。	16	・「落ち葉を活かした腐葉土づくり」と「食品ロス削減の呼び掛け」にテーマをしぼり、自分たちの活動を振り返る。

○　協力団体・協力者等（※この欄の必要が無ければ削除してください。）

・鳥屋野潟漁業協同組合

・環境と人間のふれあい館

○　成果と課題　（※成果と課題を分けて記述してください。水俣病とのかかわりの内容に触れてください。）

【成果】

・「環境と人間のふれあい館」での水質実験を通して、児童が自分たちの実際の生活を振り返ることができた。社会科の学習とも関連付けて、川や海などの自然を守るために、自分たちができることは何かについても考えるきっかけにもなった。

・4 年生の段階で「環境と人間のふれあい館」に訪問し、新潟水俣病についての正しい知識を得ることができたのは、大変貴重な体験であった。いただいた資料は子供たちにも大変分かりやすかった。5 年生での学習でも十分に生かすことができると感じた。

・活動の補助があることで、子供たちがなかなか体験できないことも活動として取り入れることができた。

【課題】

・新潟水俣病について初めて学習することもあり、今回の「環境と人間のふれあい館」での学習は水質実験と館内見学のみであった。語り部の方から，対面で講演いただく機会を設ければ、さらに新潟水俣病の歴史とその被害、差別・偏見のない公平・公正さの大切さを学ぶことができたのではないかと考える。

アグリパークで循環型農業体験





ユニクロ「服のチカラプロジェクト」参加





鳥屋野潟　潟船乗船体験





「環境と人間のふれあい館」水質実験





「環境と人間のふれあい館」新潟水俣病について学ぶ





「落ち葉を腐葉土に」「食品ロスに向けて」活動





■様式３：令和６年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」に係る授業記録

学校名	授業学級（人数）	実施日	実施教科等	授業者（職・氏名）
新潟市立関屋小学校	**4年1組（18人）**	**9月5日**	**道徳**	**教諭　植田 奈々加**

・主題名　「みんながなかよくくらしていくために」（B-7　親切・思いやり）

・ねらい　地域が差別や偏見によって結び付きを失う様子や結び付きを取り戻すために行動する人の姿を学習することを通して、相手の立場を想像し、相手のことを考えた行動の大切さに気付き、自らも相手に親切な行為を行おうとする心情を高める。

配時（分）	教師の働き掛け	子どもの反応（学習活動等）	資料
10分	・資料「お地蔵さんに込められた願い」の前段までを範読する。 〇新潟水俣病が発生する前の「阿賀野川のほとりの様子を確認する。 ・新潟水俣病が発生したところから、P38の途中までを範読する。	●みんなが仲良く過ごしていた。 ●川の水を飲んだり、魚を取ったりしていた。 ●強い絆で結ばれていた。	P37~38 の資料
	強いきずなで結ばれていた村が、水俣病によってどうなりましたか。		
	〇水俣病の認定、未認定による差別や偏見によって、地域の結び付きが壊れていくことを確認する。	●みんなの気持ちがバラバラになった。 ●体だけでなく、心も傷ついた。不安。	
	水俣病と認められなかった人は、どんな気持ちだったでしょう。		
5分	〇ロールプレイ 1 を交代で役割演技し、患者の気持ちを体感させる。	●今まで仲良く過ごしていたのに。 ●自分のせいではないのに。	P39 のワークシート上部
	（学習課題）どうしたら、もとの仲の良かった村にもどれるのだろうか。		
10分	〇阿賀のお地蔵さんと旗野秀人さんについての資料を提示し、旗野さんの思いを知らせ、自分ならどう返答するかを考えさせる。	●大丈夫。あなただけじゃないよ。 ●みんなで認められるように、何とかしていこう。 ●つらいよね。何かあったら助けるよ。	
10分	自分が考えた言葉がけをすると、どんな違いがあるでしょう。		
	〇ロールプレイ 2 を交代で役割演技し、どんな変化があったかを考える。	●1 回目は悲しい気持ちだったけど、2回目は励まされてうれしかった。 ●一人じゃないって感じがした。	
10分	自分の思いや考えを伝えたい相手を選んで、伝えましょう。		

・授業後の子どもたちの考え等（作文等）

（認定されず、かげ口を言われていた人たちへ）

・本当に辛いのにかげ口を言われたり、周りの人に避けられたりして、とても辛い思いをしたと思います。そして、水俣病になる前の村にもどってほしいという思いがあったと思います。

・私はあなたの味方です。私はあまり、勇気が出せないけれど、水俣病の人たちのことを考えると、かげ口を言っている人たちに、「それは、よくないと思うよ。認定されなかった人たちが傷つくよ。」とはっきり言えると思います。

（かげ口を言っていた人たちへ）

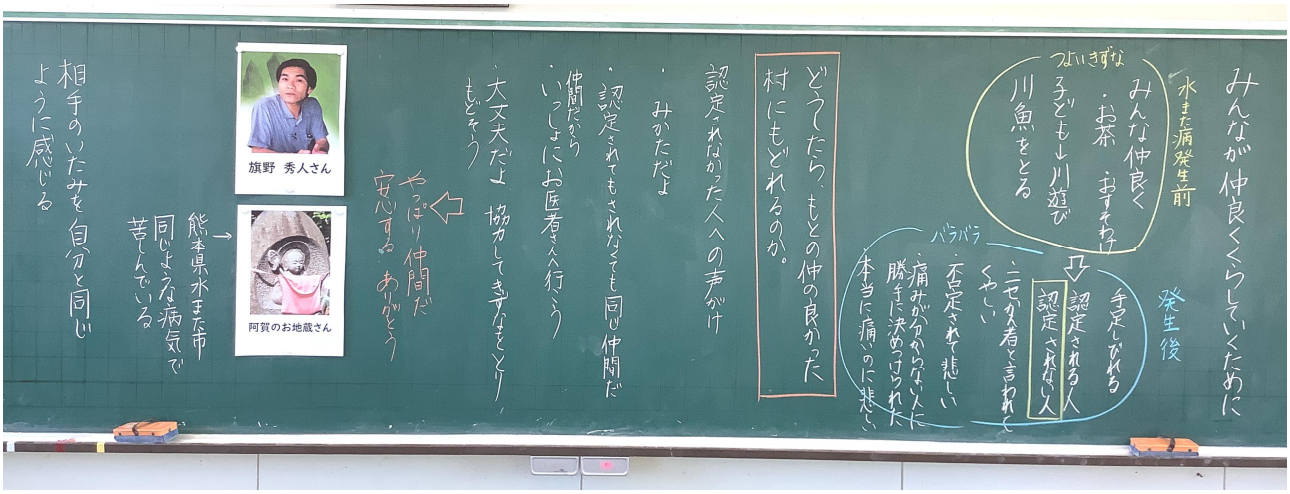
・水俣病になっている人は、病状が軽くても重くても辛いはずです。痛みはなくても、目や耳に症状が出て大切な人の顔が見えなくなったり声が聞こえなくなったりするかもしれません。苦しんでいる人に、ひどい言葉を言っているあなたたちが、その人たちの立場だったら、とても辛いはずです。苦しんでいる人には優しい言葉をかけてください。

・水俣病と認められなかった人と認められた人は、何が違うのでしょう。私は、同じ仲間だと思います。認められないだけでかげ口を言われた人は、深く傷ついていると思います。まずは、かげ口を言わないことが大切だと思います。みんな、優しい心があると思います。私も頑張ります。

（感想）

・ぼくは最初、かげ口を言われていた人たちに何を言えばいいか分かりませんでした。でも、みんなの考えを聞いて、自分が言えそうなことが分かりました。ぼくが言えそうな言葉は、「認められても認められなくても、みんな同じ仲間」という言葉です。もし、このクラスでかげ口を言う人が出てきたら、言えそうな言葉を言いたいです。

・ぼくは、水俣病のことをよく知らなかったけれど。もっと水俣病について調べたり勉強したりして、被害にあった人たちの味方になりたいです。



■様式２：令和６年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」実施報告書

学校名	新潟市立女池小学校	担当（職・氏名）	教諭・板垣　恵理香
学習テーマ	・自然環境を守るために、自分ができることは何だろう ・差別や偏見をなくすために、自分ができることは何だろう		
活動のねらい	・新潟水俣病の原因や症状、発生の仕組みを正しく理解することを通して、自然環境保全への意欲を高める。 ・新潟水俣病の被害者の思いや生き方を知ることを通して、偏見や差別をなくすためにできることを考え、行動できるようにする。		

○　新潟水俣病とのかかわり

阿賀野川流域で起きたことから、子どもたち自身にとっても身近な問題として捉えさせた。

５学年社会科「環境をともに守る」では、四大公害病の新潟水俣病を軸にして、他の公害病と比較しながら学習した。

また、次の二点を目的に、「環境と人間のふれあい館」の見学を行った。

① 新潟水俣病の原因や症状、発生の仕組みを正しく理解するだけでなく、公害をなくす取組を自分たちの生活と重ねて考えさせるようにする。

② 新潟水俣病の被害者の思いや生き方を知り、偏見や差別をなくすための自身の行動に結び付けられるようにする。

○　活動概要（新潟水俣病とのかかわりの内容に触れてください。）

（１）道徳「ある新潟水俣病患者の訴え」

（２）社会科「環境をともに守る」　新潟水俣病に関するパンフレットや冊子の活用

（３）「環境と人間のふれあい館」の見学

（４）自分ができることや社会形成に向けて大切なことを考える。

○　活動詳細

実施期間	５学年：７月～１０月

主な学習内容・活動内容	時間	指導・支援の内容
５学年　道徳 新潟水俣病について知る	1	「ある新潟水俣病患者の訴え」（新潟県同和教育協議会 小学校高学年用副読本「生きるⅢ」所収）を通して、被害の実態や被害者の思いや生き方に触れることができるようにする。
５学年　社会 四大公害病について知る	3	５学年社会「環境をともに守る」で、新潟水俣病が四大公害病の一つであること、自然環境を守るために様々な取組が行われてきていることを理解できるようにする。
５学年　総合 環境と人間のふれあい館	3	館内の展示について説明を聞いたり、語り部の方の講話を聞いたりして、新潟水俣病の原因が水質汚染であること

見学		や、今でも被害に苦しむ方の思いに気付き、新潟水俣病についての理解を深められるようにする。
５学年　社会 学習のまとめ	３	４学年の社会科「ごみのゆくえ」と総合的な学習の時間の学習も想起しながら、これまでの学習をまとめ、自分ができることを考え実践できるようにする。
○　協力団体・協力者等 （※この欄の必要が無ければ削除してください。） ・環境と人間のふれあい館		

○　成果と課題　（※成果と課題を分けて記述してください。水俣病とのかかわりの内容に触れてください。）

【成果】

・社会科の公害、道徳の差別や人権、総合的な学習の時間、前学年の学習を、横断的に関連させて学習させることができた。

・「環境と人間のふれあい館」見学により、自然環境と生活のつながりを実感させながら、理解を深めさせることができた。

・子どもたちの新潟水俣病への関心が高まり、水俣病に関する新聞記事やテレビの報道を話題が子どもたちから出るようになった。

・「水環境」をテーマにして学習を計画的に行うことで、新潟水俣病や新潟市内のある潟や河川について、興味関心をさらに高めたり、地域の自然環境保全の取組に参加したりすることができた。

【課題】

・様々な教科の学習や見学を通して、水俣病について学ぶことはできたが、小学校６年間を通して、発達段階に応じた学習計画作りまでには至らなかった。

■様式３：令和６年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」に係る授業記録

学校名	授業学級（人数）	実施日	実施教科等	授業者（職・氏名）
新潟市立女池小学校	**5年2組（31人）**	**10月7日**	**総合**	**教諭・板垣恵理香**

・**単元名**　「自然とともに生きる」　小単元「環境をともに守る」

・**ねらい**　国土の環境と国民生活との関連について、公害防止の取組について多角的に考えたり、自然環境保全の課題やそれに伴う偏見や差別の問題を把握したりすることを通して、解決に向けて自分ができることを考えることができる。

配時（分）	教師の働き掛け	子どもの反応（学習活動等）	資料
5	**環境と人間のふれあい館でどんなことを学んできましたか。**	・阿賀野川で水俣病が起きた。 ・水俣病は四大公害病の一つ。 ・たくさんの人が苦しんだ。病気や差別。 ・今でも水俣病で苦しんでいる人がいる。	見学メモ 資料 P44-49 P51
5	**新潟水俣病とはどんな病気ですか。**	・工場から出たメチル水銀で起きた病気。 ・食物連鎖の中で魚を食べた人の体内に水銀がたまり病気が出た。 ・最初は、原因が分からなかった。水銀のための病気だと認めてもらえなかった。 ・語り部の方は、目に痙攣があり足がもつれるとおっしゃっていた。実際にその様子が分かった。 ・神経に影響が出て、色々な症状が出る。治らない。すごく苦しい病気。 ・公害病。館の方から、兄弟地蔵が熊本県水俣市にあるとお聞きした。熊本県でも起こった公害病。	
10	**なぜ，ここで新潟水俣病が起こったのでしょうか。** ○　地図帳で阿賀野川の位置を確認し、阿賀野川とその流域にすむ人々の関わりを想起させる。	・語り部の方から、昔は阿賀野川はきれいな川で、生活の中で阿賀野川の水をたくさん使ったり、泳いだり、魚を食べたりしていたとお聞きした。 ・阿賀野川上流にあった工場が流した排水の中に入っていたメチル水銀が，川を汚染したから。環境が汚染されたから。 ・体の具合がおかしくなっても、それが阿	

		賀野川の水のせいだと気付くのが遅かったから。環境問題が世の中の問題になっていなかったのかもしれない。	
10	**なぜ差別や偏見が起きたのでしょうか。** ○「環境と人間のふれあい館」での見学や語り部の方の話を想起させる。 ○「生きるⅢ」の学習を想起させ、水俣病の問題が環境問題だけでなく、偏見や差別を生んでしまったことに気付かせる。	・原因が分からず、怖い奇病だと思われたから。 ・みんながもっと早く環境問題だと気付いたり認めたりできればよかった。 ・今までなかった病気だから怖いとか思って、勝手に奇病だと決めつけてしまった。 ・差別された人はとても苦しんだ。だから差別された人も周りの人も、病気のことを隠してしまった。その気持ちは分かる。自分たちの中にも同じようなことがあるから、その気持ちや状況は分かる気がする。	見学メモ 生きるⅢ資料 P7-9
5	**市民は阿賀野川とどう関わってきたのでしょう。** ○教科書の事例（北九州市）やこれまでの調べ活動をもとに考えさせる。	・新潟県や新潟市が開いた、語り合う場に参加して、新潟水俣病について理解を深めている。 ・新潟市企画した住民参加型のツアーやイベントに参加して、地域のつながりを大切にしている。	県ＨＰからダウンロードした冊子
10	**これまでの学習を振り返り、これからわたしたちが何ができるか考えましょう。** ○これまでの一連の学習をまとめ、グループで話し合う。	（下記「授業後の子どもたちの考え」参照）	

・授業後の子どもたちの考え（抜粋）

○　水俣病が、川の水質汚染からと分かりました。見学をして学習を深めることができました。公害病を二度とくり返してはいけないと思いました。

○　環境と人間のふれあい館では、水俣病についてたくさんのことが分かりました。私は、水俣病の薬や治療法がまだしっかりとは見付かっていないことにびっくりしました。水俣病の正しい理解が必要だと思いました。

○　語り部さんの話を聞いたり、授業をしたりして水俣病にはたくさんの問題があると気付きました。環境問題も偏見や差別の問題も、水俣病のようなことがこれからも起きないようにしていかなければならないと思いました。

○　もっと水俣病のことを知り、より多くの人に伝えていきたいと思いました。より多くの人に水俣病のことを知ってもらって、環境の大切さに気付いてほしいです。

○　阿賀野川だけでなくて、他の川の水は大丈夫なのかなと気になりました。川の水をきれいにしていきたいと思いました。環境問題のことをもっと大事に考えていきたいです。

○　環境について自分ができることを進んで取り組んでいきたいと思いました。例えば、ごみの「３Ｒ」です。

○　これから総合的な学習の時間に「ユニクロ・ＧＵ服の力プロジェクト」活動をします。難民の人たちも、戦争や偏見差別で苦しんでいる人だと思います。そういう人たちの力になれるように、「ユニクロ・ＧＵ服の力プロジェクト」に取り組んでいきたいです。

環境と人間のふれあい館での活動





■様式２：令和６年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」実施報告書

学校名	新潟市立亀田西小学校	担当（職・氏名）	教諭　小熊　香
学習テーマ	新潟水俣病で苦しむ人々の思いや願いを調べよう		
活動のねらい	関係機関や地域の人々の様々な努力により公害の防止や生活環境の改善が図られてきたことや，公害から国土の環境や国民の健康な生活を守ることの大切さに気付くことができる。		

○　新潟水俣病とのかかわり
活動計画②　新潟水俣病である語り部さんからの話から学ぶ時間をつくり，直接的な体験を重視する。活動計画②　「環境と人間のふれあい館」を訪問し，正しい知識をもとに学習を深める。また，様々な人々がこの問題の解決にかかわっていることを捉えさせる。

○　活動概要（新潟水俣病とのかかわりの内容に触れてください。）
①北九州市で公害をなくすための取り組みについて学習する。
②新潟水俣病について調べ，「環境と人間のふれあい館」に行って学習を深める。
③自分たちの未来のために，環境の視点から「これから自分にできること」を考える。

○　活動詳細

実施期間	１０月～１１月

主な学習内容・活動内容	時間	指導・支援の内容
北九州市で公害をなくすための取り組みについて学習する。	社会　３	・写真等の資料を使って、環境の変化の様子やその変化が人々の生活に及ぼす影響に着目させる。 ・市民・市・工場が一体となって努力を重ねたことが環境の改善につながったことを捉えさせる。
資料「生きるⅢ」を使って差別を許さない気持ちの大切さを学ぶ。	道徳　２	・「ある新潟水俣病患者の訴え」を読み、差別や偏見の様子を考えさせる。 ・差別や偏見に対して、どのように闘ってきたか学ぶ。
新潟水俣病について調べ，「環境と人間のふれあい館」に行って学習を深める。	総合　６	・展示資料をもとに、新潟水俣病の場所や原因、体への影響、差別や偏見などについての理解を深める。 ・新潟水俣病の語り部の話を聞き、思いや願いを知り、「これから、自分にできること」を考えるきっかけとする。
自分たちの未来のために，環境の視点から「これから自分にできること」を考える。	総合　２	・資料や体験から学んだことをもとに、自分たちの未来のために、自分にできることを考えさせる。 ・友達と考えを交流させることで、学習を深める。

○　協力団体・協力者等（※この欄の必要が無ければ削除してください。）

・「環境と人間のふれあい館」の職員

・新潟水俣病の語り部

○　成果と課題　（※成果と課題を分けて記述してください。水俣病とのかかわりの内容に触れてください。）

【成果】

・公害問題についての全体的に学習した後、新潟水俣病について学んだことで、児童にとってより身近な問題として捉えることができた。

・「ある新潟水俣病患者の訴え」（資料「生きるⅢ」）を使うことで、児童は、公害問題と差別問題に深い関りがあることに気付くことができた。

・「環境と人間のふれあい館」で実際に、資料を見ることで、公害問題と差別問題に対して積極的に学ぶ姿勢がみられるようになった。

・新潟水俣病の語り部から、患者の思いや願い直接聞くことにより、より身近な問題として考える児童が増えた。

【課題】

・児童の感想を読むと、「かわいそう」「差別はよくない」で終わってしまい、差別にあった人々の思いになかなか寄り添えない児童がいた。知識だけでなく、人の思いや願いを考えさせる手立てが弱かったと感じた。

・「社会の一員としての自分」という意識が弱く、自分たちの未来のために、自分にできることを考えさせるときに、同じような内容を考える児童が多かった。より、自分事として捉えさせるために、「学んだことを家族や他の学年に知らせる」など、すぐに実践できるような内容に気付かせるような手立てが必要だった。

■様式３：令和６年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」に係る授業記録

学校名	授業学級（人数）	実施日	実施教科等	授業者（職・氏名）
新潟市立亀田西小学校	**5年2組（38人）**	**10月22日**	**道徳**	**教諭・小熊　香**

・主題名　　道徳　ある新潟水俣病患者の訴え（資料「生きるⅢ」）

・ねらい　　新潟水俣病により命を奪われたり差別を受けたりした人々の様子を知り、差別や偏見の中でも生活を守るために生きてきた人々の生き方を学ぶことを通して、差別を許さない気持ちの大切さを学ぶ。

配時（分）	教師の働きかけ	子どもの反応（○学習活動等）	資料
	新潟水俣病は、どんな病気でしたか	・阿賀野川で起こった。 ・有機水銀が原因 ・体のしびれ、目が見えにくくなる。 ・温度を感じなくなる。 ・仕事できない、生活できない	『新潟水俣病　20の疑問』
	・教材文を印刷した・教材文を読む。 ・教材文「４　生きる希望を求めて」の中に「たたかい」と言う言葉が繰り返し出てくることに注目させる。 水俣病患者は、何とたたかっているのでしょうか。 ・「差別」が入ることを押さえる。 どのような差別を受けたのか、分かるところに線を引きましょう。 ・実際に送られたいやがらせの手紙を読む。	○ワークシート①記入 ・誤解　・偏見　・差別　・病気　・裁判 ・周りの人に陰口を言われた。 「認定を受けて金がほしいだけなんだろう。」 「病気の治療もしないで。」 ・冷たい目で見られた。 「そんなことをしていると娘のもらい手がないぞ。」 「みなまたならだまっていたほうがいいぞ。」	・ワークシート ・「実際に送られたいやがらせの手紙」の画像

	（学習課題） 差別を受けた人々がどんな気持ちだったのでしょうか。	○ワークシート②記入 ・ひどい。　　**なんで差別されるのか。** ・自分なら耐えられない ・怖い	
	自分が考えたことを班の人とシェアしましょう。	**○ワークシートに書いたことを班の中で伝え合う。**	
	今日の授業で、新潟水俣病についてどんなことを学びましたか。また、今の自分にできることは何だと思いますか。 ・教材文「５　二度とくり返さないために」をもう一度、読む。 ・自分ならどう思うかを考えさせる	○ワークシート③記入 **・体だけでなく心もつらい思いをした。** **・差別をなくしたい。** **・今、患者さんはどうなっているのか。**	・教材文「５二度とくり返さないために」

・授業後の子どもたちの考え等（作文等）

・水俣病の患者は、体だけでなく、心まで「差別」という被害を受けた。
・公害を繰り返してはいけないと思った。
・もっと詳しく水俣病について知りたい。
・今日、勉強したことを家の人や他の学年にも知ってもらいたい。
・「あきらめないで生きていてくれてありがとう。」と患者さんに伝えたい。
・環境を守って公害を起こさないようにしたい。

■様式２：令和６年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」実施報告書

学校名	新潟市立新津第三小学校	担当（職・氏名）	教諭・桑野友美
学習テーマ	「お米にいい水って？～稲作から環境を考える～」		
活動のねらい	目指す子ども像 「地域の環境の課題を把握し、自分たちのくらし方に関心をもつ子ども」 【知・理】地域の環境にかかわる課題を把握し、その課題への対策や取組を理解する力 【思・判・表】地域の環境への取組に携わる人々の思いや苦労を考え、自分たちのくらし方に生かそうとする力 【主体的な態度】地域の環境にかかわる課題を探求したり、自分たちのくらし方に関心をもとうとしたりする態度		

○　新潟水俣病とのかかわり

　新潟水俣病の原因が阿賀野川に流れ出た水銀であることから、自分たちの地域の川の水などの自然環境をきれいに保つことの大切さと繋げて学習を進めていく。

○　活動概要（新潟水俣病とのかかわりの内容に触れてください。）

①社会の米作りの学習を想起し、米作りを行う際に、「水のきれいさ」を中心に、環境に配慮した取組にはどのようなことがあったかを思い出し、詳しく調べ、クラスで共有する。

②社会で、四大公害病の原因や内容を調べ、その特徴をまとめる。

③道徳　生きるⅢ「ある水俣病患者の訴え」を利用して学習し、新潟水俣病では、公害に関わって差別が起こったことを知る。

④総合的な学習の時間で、新潟水俣病の発生原因や病気の症状、差別の内容などを調べ、「環境と人間のふれあい館」でさらに学びを深める。

⑤新潟水俣病の学習を生かして、地域（秋葉区）の環境を、暮らしやすくきれいなまま保つために自分たちにできることを考え、実践し、発信する。

○　活動詳細

「お米にいい水って？～稲作から環境を考える～　【自分たちにできること】」

実施期間	４月　　～　　２月

主な学習内容・活動内容	時間	指導・支援の内容
①　総合的な学習の時間 田植え・観察・稲刈り	４	米作り・稲の生長の観察・稲刈り・脱穀を、学校田で学ぶ。
②　社会「米作りのさかんな地域」 日本の米作りについて学び、「水のきれいさ」が稲作に欠かせないことに気付	１８	日本の米作りについて学び、そこからいつでも「水のきれいさ」がおいしいお米に欠かせないことに気付けるよう支援する。

く。		
③ 社会 四大公害病について学ぶ。	２	公害が環境汚染により起こり、人々が健康な生活を送ることが難しくなったことをおさえさせる。
④ 道徳「ある新潟水俣病患者の訴え」 新潟水俣病で起こった差別について学ぶ。	２	新潟水俣病患者の視点から、公害が健康被害だけでなく、偏見や差別も生み出してしまったことに気付けるよう支援する。
⑤ 総合的な学習の時間 新潟水俣病の発生原因や病気の症状などについて調べる。	５	パンフレットや教科書から、新潟水俣病の発生原因や病気の症状、現在も解決に向けて努力している方々の存在をおさえられるよう指導する。
⑥ 総合的な学習の時間 環境と人間のふれあい館で、新潟水俣病についての知識を深める。	３	新潟水俣病が川の水の汚染から始まり、日常生活を送っていただけの人々の健康被害を引き起こしてしまったことをより深く学べるよう支援する。
⑦ 総合的な学習の時間 地域の環境保全のためにできることを考え、計画・実践する。	１１	秋葉区役所の皆様からリモートで授業していただき、「一緒によりよい秋葉区にしてほしい」というメッセージをもらうことで、自分たちにできる身近な取り組みを意識できるよう指導する。
⑧ 総合的な学習の時間 学習参観で、地域の環境保全のための実践報告と、環境を守る呼びかけをする。	９	A ポスター制作・B 写真撮影・C ごみ拾い・D 廃油の再利用の 4 チームに分かれて、環境を守る取組の計画・実践・発信をする。
○　協力団体・協力者等（※この欄の必要が無ければ削除してください。） ①秋葉区役所総務課の方々　３名 ②新潟薬科大学の学生の方々　５名		

○　成果と課題　（※成果と課題を分けて記述してください。水俣病とのかかわりの内容に触れてください。）

○成果

・田植えや稲刈りなどの学習で、これまでの社会や総合的な学習の視点に加えて、「水がきれいなことがおいしいお米につながる」「新潟水俣病の時と同じで、川の水をきれいに保つことが地域みんなの健康につながる」など、「水のきれいさは大切」という環境学習の視点を児童がもつことができた。

・「環境と人間のふれあい館」での学習では、事前学習の成果もあり、新潟水俣病の原因や被害の状況、解決に向けた取り組みなど、難しい内容も興味深く、真剣に学習することができた。

・「川の水のきれいさを保つこと」の大切さを新潟水俣病の学習から学んだことで、身近な自然環境を守っていくことに興味をもつことができ、「自分ごと」ととらえて地域での実践活動に取り組むことができた。

・新潟水俣病の被害や病状、差別や偏見などを学び、「新潟水俣病のような公害を二度と起こしてはいけない」という思いを児童一人一人がもつことができた。また、それにより、秋葉区の環境を守るためのポスター作りや写真撮影、ごみ拾いや廃油の再利用の４つの実践にも意欲的に取り組み、地域のお店や地域の大学、秋葉区役所の方々とも連携して環境保全を呼びかける取組をやり遂げることができた。

△課題

・四大公害病について、５年生では事実や起こった場所など、あまり詳しく学習しない。そのため、新潟水俣病についても、旧昭和電工がなぜ川に水銀を流してまで工業製品の生産を発展させなければならなかったかなど、歴史的な背景まで学ぶことができなかった。公害には時代背景やたくさんの人々の立場など、様々な視点があることも、これから継続して学習していくことが大切だと考える。その上で、新潟水俣病についての課題を解決する方法を考えられるよう、学習を継続していく必要があると考える。

①油を川に流してはいけない理由

油を流すと、水質悪化をもたらすとともに、魚などの大量死を引き起こしたり、悪臭が発生したりするなど、自然環境や周辺住民の生活環境に悪影響を与えます。それに油を一度流すと広範囲に広がります。その水を元に戻す事はできない可能性が高いです。だから、これからは、油を生活排水として流さないようにしましょう。

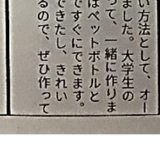
②油の片付け方

主なやり方は、油を油こし器でろ過するやり方です。まず、油が冷めないうちに、油こし器でろ過します。その際やけどに注意しましょう。次に、ろ過した油が冷えたら、密閉容器に入れます。もちろん、フタをきちんと閉めることを忘れずにしましょう。最後に、ろ過した油を冷暗所で保存をします。また、揚げ物に使った油を、そのまま鍋に入れておくのは禁物です。空気に触れやすく、ゴミや虫が入る原因になります。みなさんも油をきちんと片付け、快適に料理をしましょう。

③油を固めて捨てる方法

さらに調べてみると、油は片栗粉と小麦粉で固められ作れることが分かったので、みんなで実際にやってみました。やり方は、油と同じ量の片栗粉や小麦粉を油に入れてかき混ぜて冷まします。約1日ぐらい待つと固まります。

実験結果は、完全には固まりませんでした。完全には固まらなかったけれど、ちょっと固まったのでそのまま捨てるよりは捨てやすくなりました。もしかすると、片栗粉や小麦粉を油より多く入ると固まるのかもしれません。



今回油を流さない方法を調べてみて、油を流すと環境に悪いことがたくさんあるのが分かり、絶対に油を水に流してはいけないと思いました。

これを読んでくれたみなさんも、油の片付け方や油を固めて捨てる方法にぜひ取り組んでみてください。油を流すことで水を汚さないようにしていきましょう。

私たちは、油を水に流したらどうなるかと、油を再利用する方法を調べました！

①油を水に流したらどうなるか

油を流すと、微生物による自然分解は可能ですが、水中の酸素を消費し、生物に影響を与えます。それに分解されるまでずっと時間がかかります。魚が住める環境に戻すには、油1リットルあたり30万リットルもの水が必要です。

さらに、排水口に流すと排水口が詰まったり、オイルボールというものになって悪臭の原因にもなります。

②油を流さないために



固めるやり方があります。必要なものは、廃油と小麦粉または片栗粉です。やり方は、油が熱いうちに油と同量程度の片栗粉や小麦粉を、そのまま混ぜ入れるとできます。凝固剤ほどではないですが、捨てやすくなります。自分たちでやってみたところ、うまく固まらず失敗でした。ポイントは、少量の廃油のときにやることです。

③油を流さないために



油から廃油キャンドルが作れるのでの作ってみました。実際に自分たちで作ってみると、少し手がベタベタになって難しかったけれど、最後はしっかり固まって、油を再利用できたのでよかったです。

キャンドル作りをすると、油を流さないで環境を汚さずに済むし、楽しいので自由工作などでも活用できていいなと思いました。

私たちは、今回油を水に流してはいけない理由と油を再利用する方法を調べてみました。やってみてわかったことは、油を水に流したら、環境に悪いということ、再利用することで楽しめるし、環境にもやさしくできるということです。

みなさんも、油を水に流すのではなく、再利用してみてください。

①油の再利用回数

まず、最初に、油の再利用方法を紹介します。

油の再利用をするポットがあり廃油を入れると色々な管を通ってきれいな油ができます。

使用済みの油は、できるだけ早く使いましょう。



次に油の片付け方を2つ紹介します。

一つ目は、ペーパータオルか新聞紙を使って片付ける方法です。やり方は、油が冷めてから、ペーパータオルや新聞に油を吸わせます。

二つ目は、ペーパータオルか新聞紙、牛乳パックを使う方法です。牛乳パックの中に、新聞紙かペーパータオルをつめ込み、そこに冷ました油を流し込みます。

このやり方の注意点は、新聞紙やペーパータオルに少し水を染み込ませないと、自然発火するおそれがあることです。

②油の片付け方

最後にキャンドル作りの方法を紹介します。



①廃油を温めて油凝固剤を入れる。（廃油を温める前に揚げカスやフィルターなどで取り除く。）
②三十分から一時間放置する。（容器の口が狭い時はスプーンを使う。）
③アレンジ。
好きな色のクレヨンを、カッターやハサミで削る。
①廃油を温めて油凝固剤を入れる。（廃油を温める前に揚げカスが残った場合は、キッチンペーパーやコーヒーフィルターなどでこして取り除く。）
②耐熱容器にカットした長めのタコ糸を固定する。
③三十分から一時間放置すると固まる。
（クレヨンの量で濃さを変えられる。）

③廃油からキャンドル作り

今回、油を流さない方法や再利用の方法などを調べて、油はどうやって片付けるのが分かりました。キャンドル以外にも、石鹸も作ってみたいと思いました。

これを見てくれた皆さんも、油を水に流さない取組をやってみてください。キャンドルなどを作る実験もおもしろいので、おすすめです。このような環境に良い取組を、ぜひ実践していきましょう。

①油を流してはいけない理由

油をそのまま水に流してはいけない理由は、油は微生物による分解速度がとても遅くて、川や海に流れ込んだ場合、分解しきれない油が生物に悪い影響を与える可能性があります。そのため、環境にとても悪いです。

②使った油をきれいにする方法



①揚げ物後、油がまだ熱いうちに水と片栗粉を入れます。（揚げ物をするときの温度より少し低い温度がおすすめです。）
②軽く混ぜると、汚れをからめ取ってくれます。
③できたかたまりをすくい、しばらく冷まします。
④かたまりをポリ袋に入れてゴミ箱へ捨てます。揚げ物が終わった後、すぐにやると、食べ終わった頃には冷めているので、後片付けも一気にできて楽です。

③オーシャンボトル



今回、油を流してはいけない理由と、使った油をきれいにする方法やオーシャンボトルの作り方などを調べたり、実践してみたりして、油の便利な処理法が分かったし、油は環境に悪いことが特に分かりました。

使った油を流さない方法として、オーシャンボトルを作りました。大学生の方が手伝ってくださって、一緒に作りました。用意するものはペットボトルと廃油と食用色素、水ですぐにできます。楽しく作ることができたし、きれいで誰でも簡単に作れるので、ぜひ作ってみてください。

守ろう　川の水





上の写真は、笹島津大通りです。川岸にゴミが落ちています。
驚くことは、自然分解されるものと思いますが、自然分解するには、2～3ヶ月かかります。でも、自然分解されるからといって、ゴミを捨てていいはずがありません。
プラスチックは自然に分解されません。ゴミのうち、ほとんどがプラスチックです。
しかし、写真にはゴミはうじゃうじゃ、ありません。川沿いは思ったよりゴミがありません。だから、ゴミを平気に捨てていない人たくさんいることと、川にゴミを捨てないことなど、綺麗な水を保てるように工夫しながら生活しましょう。
私たちの生活も、川の水との関わりがあることを知りました。ただから、川の水を大切にして欲しいと思います。

川の水について

私達がクリーン大作戦をやろうとしたのは、新潟水俣病の勉強や米作りの勉強がきっかけで、どちらも『水』が関係している秋葉区の川がどうなっているか知り、もっときれいにしたいと思ったからです。

川の水は、新潟の特産品である米を作るために必要なのです。そんな水がとても汚くなってしまったらどうなると思いますか？そうです。米が美味しくなくなることがあるかもしれません。左の円グラフを見てください。汚れの原因の7割が料理をしたりお風呂に入ったりした時に出る生活排水です。その他、工場排水なども原因となっています。

また、水が汚れてしまうと新潟水俣病のように人々の生活に大きな影響が出てしまうことが起こってしまうかもしれないので、一人一人が気を付けましょう。

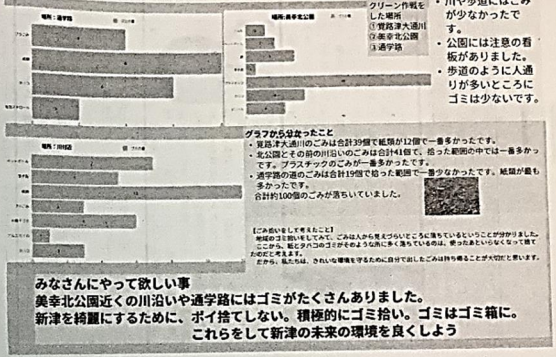
私たち一人一人が大切な水を使っています。1人で汚してしまうと川から農業、生活に必要な水など、他にも多くのことに影響が出るかもしれません。

だから、このきれいな川の水を保てるよう、みんなで努力していきましょう。

【ゴミ拾いをして考えたこと】
地域のゴミ拾いをしてみて、自分たちの思っていたよりも、ゴミが少ないということが分かりました。その中でも、お菓子のゴミが多く落ちていました。その理由は子どもが多いからだからだと考えます。
だから、私たちは、きれいな環境を守るために、ゴミの分別をして捨てることが大切だと思います。

まとめ
このように、川の水はみなさんの生活に欠かせないです。水の汚れの原因の7割が生活排水でできられたということがわかりました。生活の中で汚れたあるながらに流さないこと、川にゴミを捨てないことなど、綺麗な水を保てるように工夫しながら生活しましょう。
私たちの生活も、川の水との関わりがあることを知りました。ただから、川の水を大切にして欲しいと思います。

クリーン作戦をして分かった
ごみの種類と落ちていた場所



- 川や歩道にはごみが少なかったです。
- 公園には注意の看板がありました。
- 歩道のように人通りが多いところにゴミは少ないです。

グラフから分かったこと
- 笹見津大通りのごみは合計39個で紙類が12個で一番多かったです。
- 美幸北園とその前の川沿いのごみは合計41個で、拾った範囲の中では一番多かったです。プラスチックのごみが一番多かったです。
- 通学路の道のごみは合計19個で拾った範囲で一番少なかったです。紙類が最も多かったです。
合計約100個のごみが落ちていました。

【ごみ拾いをして考えたこと】
笹路津大通りにゴミ拾いをしてみて、ごみは人から見えづらいところに落ちているということが分かりました。ここから、私とタバコのゴミがそのような所に多く落ちているのは、使った人もいらなくなって捨てたのだと考えます。
だから、私たちは、きれいな環境を守るために自分で出したごみは持ち帰ることが大切だと思います。

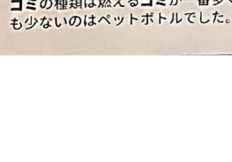
みなさんにやって欲しい事
美幸北公園近くの川沿いや通学路にはゴミがたくさんありました。
新津を綺麗にするために、ポイ捨てしない。積極的にゴミ拾い。ゴミはゴミ箱に。
これらをして新津の未来の環境を良くしよう

綺麗にしようみんなの町を



私達は北公園や学校前の川の周り、通学路へ行ってゴミ拾いをしました。3か所回ってみて、美幸北公園内の草むらのやすみに多く落ちていました。ゴミ拾いをして、お菓子の包み紙やタバコなどが多く落ちていることが分かりました。

このことから、小さいゴミなら、見えない所に捨てても大丈夫かなと思う人が多いのではないかと考えました。だから、小さいゴミでも、責任をもって持ち帰ったりゴミ箱に捨てたりするとよいと思いました。

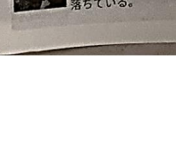


【ごみ拾いをして考えたこと】
地域のゴミ拾いをしてみて、ごみの周りは、ゴミが多いということが分かりました。
特に、美幸北公園でジュースの缶やペットボトル、お菓子のゴミが多く落ちていたのは、公園だから「小さいものを捨てても良いだろう」という人たがいるかもしれないからだと考えます。
だから、私たちは、きれいな環境を守るために捨てないことが大切だと思います。

ゴミの種類は燃えるゴミが一番多く最も少ないのはペットボトルでした。

美幸北公園には お菓子のゴミがたくさん落ちていました。お菓子を食べたりタバコを吸ったりしたら、ゴミを持って帰ってください。
お願いします。

たくさん落ちていた三小付近のゴミの量

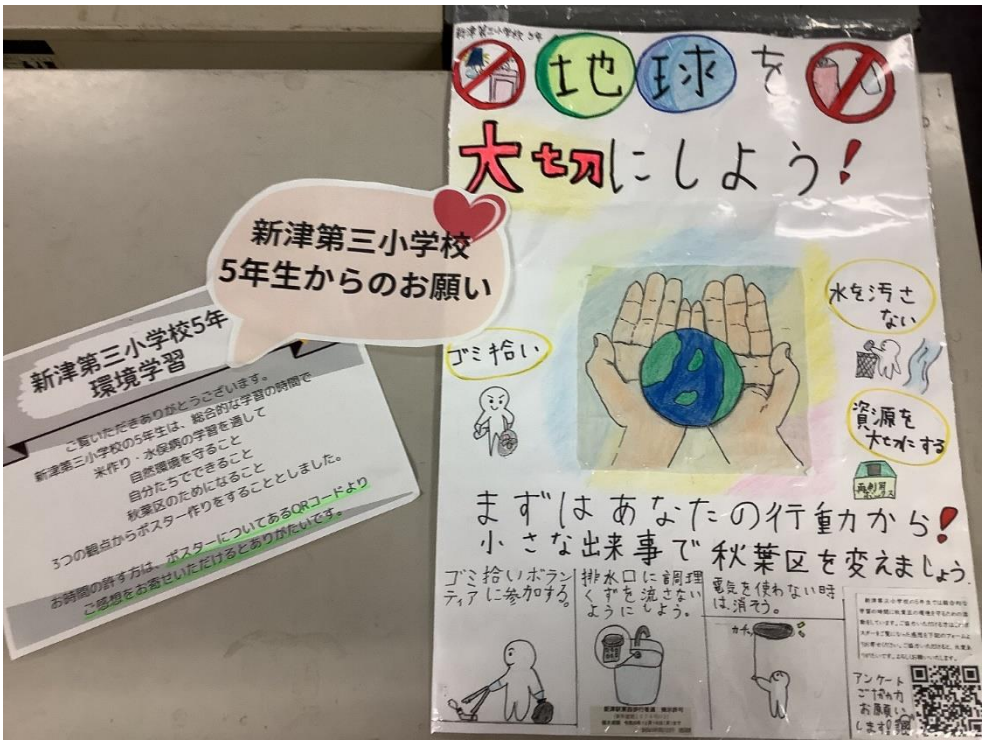


3箇所のゴミ拾いの結果
私たち5.3年生は三小付近の公園、松村食料からダイヤツ、松村食料から廷ま男母に道を拾いました。そうすると、家に缶、タバコ、プラスチックなどのたくさんのゴミがありました。
11月20日に笹路津大通川沿いにゴミ拾いに行きました。そこにあったゴミは、プラスチック1個、ティッシュ1枚、マスク2枚、ペットボトル2本、あめ1個、鉄釘等2枚、レシガ1個、ガラス1個、ビニール1枚でした。合わせると11個のゴミがありました。
11月20日に北公園にゴミ拾いに行きました。そこであったゴミは、がん、5本、プラスチック5個、固五用のカップ1個、つまようじ1本、マスク1枚、ビニール1枚などのゴミがありました。合わせると7個のゴミがありました。合わせると21個のゴミがありました。
11月26日に笹路津大通川の川沿いをゴミ拾いしました。そこであったゴミは、タバコ1本、マスク2枚、プラスチック3個、発泡スチロール1個でした。
人がよく住むところにはゴミが少なくてあまり見れないところにゴミがあったです。合わせると7個のゴミがありました。
でも私の人が定期的にゴミ拾いをしているから綺麗な街になっていると思います。
色紙があったり人通りが多いところはあまり捨てられていませんが看板や人通りが少ないところは結構捨ててありました。

【ごみ拾いをして考えたこと】
地域のゴミ拾いをしてみて、人通りが少ないところはゴミが多いところがありました。
ここから、このようなごみ拾いをしてみて、人通りが少ないところはゴミが多いところがありました。
ここから、このようなごみ拾いをしてみて、人通りが少ないところはゴミが多いところがありました。
だから、私たちは、さらいな環境を守るために、自分からゴミをポイ捨てせずに持ち帰って、ゴミ箱にゴミを入れるのが大切だと思います。

まとめ
・ゴミはポイ捨てをせずに自分の家まで持ち帰りましょう。もし落ちてるゴミがあったら拾ってもらえるように心がけましょう。
・ゴミも捨てて欲しいところにもありますが、なるべく自分のゴミは自分の家にしっかり持ち帰ってください。
・綺麗な場所もあるのでそこに捨てもらしないでください。
・笹路津大通川はよくゴミが落ちるのでゴミをポイ捨てすると言うのて絶対しないでください。
・笹路津大通川にゴミが落ちているのはゴミを捨てない様に心がけ看板などがあるからだと思います。

通学路に落ちていた発砲スチロール。大型のゴミも落ちている。


新津第三小学校
5年生からのお願い
新津第三小学校5年
環境学習
地球を
大切にしよう!
水を汚さない
ゴミ拾い
資源を大切にする
まずはあなたの行動力から!
小さな出来事で秋葉区を変えましょう
ゴミ拾いボランティアに参加する。
排水口に調理くずを流さないようにしよう。
電気を使わない時は消そう。


守ろうこの自然
No Littering
ポイ捨てなし
きれいな花を守ろう
環境を大切に
自然がピース
環境を大切に

■様式３：令和６年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」に係る授業記録

学校名	授業学級（人数）	実施日	実施教科等	授業者（職・氏名）
新潟市立新津第三小学校	**5年3組（29人）**	**10月18日**	**道徳**	**教諭・桑野　友美**

・主題名　　病気に対する差別や偏見に立ち向かう～ある新潟水俣病患者の訴え～
　　４－（２）公平・公正　正義の実現
・ねらい　　新潟水俣病患者が受けた差別や偏見に憤るとともに、病気に対する差別を無くそうとする心情、差別を許さず、ともに立ち上がろうとする気持ちを高める。

配時（分）	教師の働き掛け	子どもの反応（学習活動等）	資料
5	○新潟水俣病について調べてきたことを想起させる。		P72 ～ p76 の指導案
	「新潟水俣病について調べ、どんなことが分かったかな。		
		●工場から阿賀野川に水銀が流れ出たことが原因だった。 ●それを魚が食べ、その魚を人々が食べたことで新潟水俣病になってしまった。	
	○【１９７８年安全宣言】の資料を提示する。		
	もう、新潟水俣病になることはないから、苦しんでいる人はいないということかな。		
		●いや、症状は治っていないと思う。 ●病気で苦しむ人はまだいると思う。 ●今はもうなくなったのか、分からないな。	
	○【「続く偏見、苦しみ今も」（ふむスタ）新聞記事】の資料を提示する。		
	新潟水俣病の患者さんは、どんなことで苦しんでいると思いますか。		
		●病気の症状だけではないかもしれない。 ●周りの人からの偏見にも苦しんでいるかもしれない。	
	（学習課題） **新潟水俣病では、どのような差別や偏見が起き、それはなくなったのだろか。**		
	・「生きるⅢ」の資料を配付する。 ○「ある新潟水俣病患者の訴え」の資料を音読する。 	・「ある新潟水俣病患者の訴え」の資料の範読を聞いたり動画を見たりして、差別や偏見の内容を調べ、まとめる。	

	○「新潟水俣病をもっと知ろう！学ぼう♪」の差別や偏見に関する部分の動画を視聴させる。 **新潟水俣病の患者に対して、どんな差別や偏見があったでしょう。**	●新潟水俣病になってしまったのは、その人のせいではないのに、いやがらせの手紙をもらっていた。 ●「たたりだ」と言われていた。 ●「伝染病だ」と、間違った情報が流れて差別されてしまった。 ●「補償金目当てだ」と言われてしまった。	
	差別や偏見は解消されたのでしょうか。	●されていない。 ●だけど、全国から集まった支援者の人たちとともに、差別や偏見に負けずに訴訟などを起こして立ち向かっている。 ●今もそれは続いている。	
	（まとめ） **「補償金目当て」などの偏見や「伝染病だ」という間違った情報により差別などがあった。しかし、たくさんの支援者の人たちとともに、それらに負けずに、患者の皆さんは立ち向かっている。**		
	今日の学習を振り返って、新潟水俣病の差別や偏見について考えたことを書き、友達に伝えましょう。 	**●こんな差別や偏見があることを初めて知った。** **●患者さんのせいではないのに、こんなに差別されることはおかしい。** **●自分自身は、間違った情報ではなく、正しい情報をきちんと調べて、差別をしない人になりたい。**	

・授業後の子どもたちの考え等（作文等）

○新潟水俣病について、まだ知らないことがいっぱいあった。今日、学習したことで、公害は絶対に起こしたくないと思った。

○新潟水俣病について、さらに知ることができたので、家族に話してみようと思う。新潟水俣病が認められなくて、悪口を言われた方々のつらさを分かっていこうと思う。

■様式２：令和６年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」実施報告書

学校名	新潟市立大通小学校	担当（職・氏名）	教諭　玉井光子
学習テーマ	公害の被害受けた地域では、環境を守るためにどのような取組をしているのか。また、環境を守るために自分たちでできることは何か。		
活動のねらい	公害の歴史を知ることを通して、そこに携わった人々の思いや努力に気付き、環境を守っていこうとする態度を育てる。		

○　新潟水俣病とのかかわり
・あがのがわ環境学舎の講師の方から、新潟水俣病の概要・被害についての授業をしてもらう。その後、阿賀町の旧昭和電工鹿瀬工場周辺の見学をする。

○　活動概要（新潟水俣病とのかかわりの内容に触れてください。）
・あがのがわ環境学舎の協力で、水俣病の原因や被害の実態についての学習をする。
・語り部の方の話を聞き、新潟水俣病患者の思いを知る。（動画視聴）
・阿賀町の旧昭和電工鹿瀬工場周辺、鹿瀬ダムの現地学習を行う。

○　活動詳細

実施期間	令和６年９月～１１月

主な学習内容・活動内容	時間	指導・支援の内容
環境学習のガイダンス	１	○学習のねらいの共有 ○大通川、信濃川、中ノ口川と自分の生活環境とのかかわり
あがのがわ環境学舎講師による授業	３	○新潟水俣病の概要 ○被害者の方の話 ○新潟水俣病発生原因と時代背景 ○環境改善のための取組
現地学習	４	○旧昭和電工鹿瀬工場周辺・鹿瀬ダム見学
人権について考える	２	○「生きるⅢ」～ある新潟水俣病患者の訴え～ ・被害者の苦しみの理解 ・立ち上がる被害者と私たちへの願い
身近な環境について調べる	２	○総合「田植え・稲刈り」「南区の食材を使ってお弁当を作ろう」の活動と環境とのかかわり ○環境を守るためにできること
まとめ・ふりかえり	３	○グループでのまとめ作成（ロイロノート） ○グループでの発表 ○振り返り

○　協力団体・協力者等（※この欄の必要が無ければ削除してください。）

あがのがわ環境学舎

○　成果と課題

【　成果　】

・新潟水俣病について、遠い場所で起きた昔の出来事ではなく、私たちの身の回りでも起こりうる、現在進行中の話であることに気付いた。
・川は異なっても、地域を流れる川に関心をもち、水環境を守っていこうという気持ちが芽生えた。
・あがのがわ環境学舎の講師の方からの講義・現地見学を通して、産業の発展の中で起きてしまった公害について、多面的に考えることができた。
・語り部さんのお話から、病気と差別の実態やそれによる辛さを共感的に理解することができた。
・生きるⅢ「ある新潟水俣病患者の訴え」の資料から、登場人物が私たちに訴えたかったことや私たちに託した思いについて自分事のように子どもたちは考える様子が見られた。
・どんなことがあっても、人を差別したり、偏見の目で見たり、してはいけないという気持ちを強くもった。
・熊本水俣病や新潟水俣病に関するニュースや新聞に関心をもって話題にする児童が見られた。
・総合学習で行っている、「地域の食材を使った弁当作り」の振り返りで、「おいしい食材は水から始まる」「米作りに重要な水」など、水環境と関連させて考える様子が見られた。

【　課題　】

・新潟水俣病が発生した時代的背景や人々の様子を学習する際、考える視点が多く複雑で、何を子どもたちに学んでほしいか、こちらがしっかりもったうえで取り組むとよいと思った。
・環境を守り続けようという意識はもてたが、具体的な取組の実践ができればよかったと思う。

実践報告書　写真

あがのがわ環境学舎による出前授業



現地学習　排水口付近見学



現地見学　旧鹿瀬工場を見下ろす

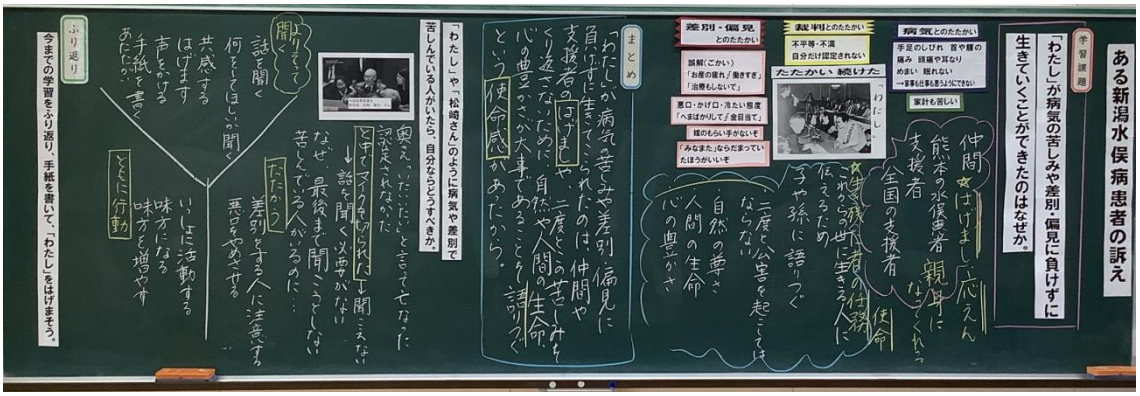


生きるⅢ　ある新潟水俣病患者の訴え　授業風景





板書

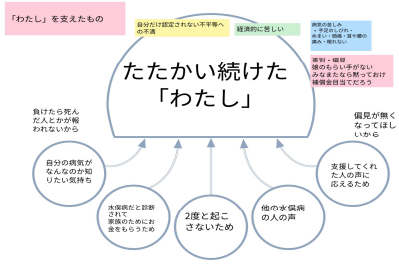


■様式３：令和６年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」に係る授業記録

学校名	授業学級（人数）	実施日	実施教科等	授業者（職・氏名）
新潟市立大通小学校	**5年2組（28人）**	**10月28日**	**道徳（人権同和）**	**教諭　玉井光子**

・主題名　**ある新潟水俣病患者の訴え　領域2「生き方を求める」**

・ねらい　**新潟水俣病被害者が病苦や差別・偏見に負けず、裁判を続けることができた理由について、話し合いを通して、周囲の人々の理解と支援が必要であったことが分かり、病気に対する差別を許さず、ともに立ち上がろうとする気持ちを高めることができる。**

配時（分）	教師の働き掛け	子どもの反応（学習活動等）	資料
10	○ますます辛い日々とはどんな様子か、前時を振り返る。	●手足のしびれやめまいなどで働くことができない。 ●病気を理解されず、「金目当て」「うそつき」など、偏見・差別を受ける。	・P27～31 ・「わたし」の写真
	「わたし」は、ますます辛い日々を過ごすことになりましたが、その後どうなりましたか。		・p32～34
	○病気・差別偏見・誤解・家計苦・裁判の苦しみがあったにもかかわらずたたかい続けたことが分かるように板書する。	●新潟水俣病訴訟の舞台に立った。 ●九州の水俣病被害者や東京の支援団体と交流した。 ●「補償金目当て」「嫁の貰い手がない」「みなまたは黙っていた方がいい」など、差別や偏見が続いた。	
15	**（学習課題） 「わたし」が病気の苦しみや差別・偏見に負けずに、生きていくことができたのはなぜか。**		・p32～34
	○「わたし」を支えたものについて、くらげチャートを使って整理させる。 ○支援者の存在と「わたし」決意や信念、任務、使命感など両面から意見が出るよう、意図的に指名して全体共有する。 	●公害病と認定されずに苦しむ仲間。 ●支援団体の協力。 ●熊本の水俣病被害者も闘っているから。 ●全国の支援者の気持ちに応えるため。 ●二度と公害を起こさないという願い。 ●同じ辛い思いをさせないために、後世に語り継ぎたい。 ●自然の尊さや人間の生命や心の豊かさを大切にする。 ●生き残った人の任務だから。	

	（まとめ） 「わたし」が病気の苦しみは差別・偏見に負けずにいきていけたのは、仲間や支援者の励ましや二度とこの苦しみを繰り返させないために、「自然・人間の心の豊かさの大切さ」を語り継ぐという使命感があったから。		
15	○熊本水俣病被害者の声を聴く会で起きた「マイク切り」の映像を視聴し、今なお続く問題であることに気付かせる。	●環境省に人は最後まで被害者の話を聞いていない。 ●国はまだ被害者を認定していない。 ●松崎さんの表情は悲しそう。 ●支援者が共に闘っている。	・動画
	あなたの周りに「わたし」や「松崎さん」のように病気や差別で苦しんでいる人がいたら、どうするべきだと思いますか。		
	○児童の考えを「寄り添う」「闘う」「共に行動する」に分類し、積極的にかかわる気持ちを高められるように、話し合わせる。  	●話を最後まで聞く。 ●何をしてほしいか聞く。 ●手紙を書いて励ます ●悪口を言う人に注意する。 ●やめさせる。 ●差別はだめだと伝える。 ●支援者として味方になる。 ●見方を増やす。 ●募金活動をする。	
5	今までの学習を振り返り、「わたし」への励ましの手紙を書きましょう。		

・授業後の子どもたちの考え等（作文等）

～「わたし」への励ましの手紙～

・「わたし」さんは、とってもすごい人だったと思いました。なぜなら、苦しい中、わたしたちに、二度とこんなことが起こらないようにと思っていて、自分のことだけでなく、わたしたちに伝えてくれたからです。わたしもこれからもいじめや差別、偏見を絶対にしないと、この本を読み心に誓いました。今もとっても苦しい中頑張っていると思います。わたしも苦しいことや悲しいことがあったら、「わたし」さんを思い出して頑張ります。

・あなたは、とてもすごい人です。なぜなら水俣病で苦しみ、しかも「金目当て」とか「うそつき」と言われても、裁判に出て、自分だけなくこの世界の人すべての人たちのことを思っているからです。みんなにいじめや差別はだめだということを伝えようとしていることがすごいです。できることなら、ぼくも支援者になりたいです。

■様式２：令和６年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」実施報告書

学校名	真砂小学校	担当(職・氏名)	教諭・高野和明
学習テーマ	新潟の水環境について詳しくなろう		
活動のねらい	身の回りにある水の水質や環境、公害の歴史について学ぶ		

○　新潟水俣病とのかかわり

年間指導計画で５年生の社会科「国土の自然とともに生きる」（教育出版）の単元に新潟水俣病の学習を位置付けた。公害の学習場面で、新潟水俣病について時間を多くとり、調べ学習やまとめを行った。

○　活動概要（新潟水俣病とのかかわりの内容に触れてください。）

子どもは、まず「新潟水俣病と阿賀野川が教えてくれたもの」と「新潟水俣病から学び未来へつなぐ新潟の自然～悲劇を繰り返さないために～」の DVD を視聴し、新潟水俣病の存在や、今なお症状に苦しむ方がいること、現状を改善しようと様々な努力がなされていることに気付いた。そして、情報収集の一環で、有識者に話を聞くことを考えた。そこで、校外学習として「新潟県立環境と人間のふれあい館～新潟水俣病資料館～」を訪れ、施設職員の方から新潟県の水環境や水質検査体験、新潟水俣病の症例について教えていただいた。その後、社会科の授業で、新潟水俣病をはじめ、四大公害病について調べる学習を行った。

○　活動詳細

実施期間	11 月 ～ 1 月	
主な学習内容・活動内容	時間	指導・支援の内容
DVD の視聴	30 分	新潟水俣病資料館のパンフレットを配付し、「新潟水俣病と阿賀野川が教えてくれたもの」と「新潟水俣病から学び未来へつなぐ新潟の自然～悲劇を繰り返さないために～」の DVD を視聴させた。
校外学習	120 分	校外学習として「新潟県立環境と人間のふれあい館～新潟水俣病資料館～」を訪れ、施設職員の方々から新潟県の水環境や水質検査体験、新潟水俣病の症例について教えていただいた。
社会科	90 分	新潟水俣病をはじめ、四大公害病について調べる学習を行った。

○　協力団体・協力者等（※この欄の必要が無ければ削除してください。）
・新潟県立環境と人間のふれあい館～新潟水俣病資料館～の職員の方々

○　成果と課題　（※成果と課題を分けて記述してください。水俣病とのかかわりの内容に触れてください。）

成果は、子どもの新潟水俣病患者さんを思いやる気持ちや、よりよく行動しようとする心が育っていることである。子どもは、校外学習で新潟水俣病に関する資料を見たり、当時の状況や現状を聞く機会を得たりした。総合学習や理科の学習で顕著だが、実際のものに触れたり、見たり聞いたりしたことは、子どもの意識に強く残る。その意味で、新潟水俣病資料館を訪れ、様々な資料や話に触れたことは、子どもには、とてもよい学習成果となったように思う。

新潟水俣病資料館では、まず、水の汚れを薄めるために必要な水の量や発電量について学んだ。子どもは、ペットボトルの展示を見ることで、数ｇの廃油を問題なく薄めるために大量の水が必要であることを実感していた。次に、新潟水俣病発生の地理的な要因や、現在の水環境について学んだ。新潟の地形のモデルを見て、川の上流で原因物質が流れ出し、まず魚に影響が出ることで工場一帯の住人や下流の住人に被害が出たことを見出していた。最後に、水質が汚れるメカニズムについて学び、パックテストで水質を確かめる活動を行った。子どもは、水の色の変化から、水道水がきれいである一方で、醤油が１滴垂れただけでも水質が汚れていくことに驚いていた。

新潟水俣病資料館での活動後の子どもの振り返りの一例を記載する。「新潟水俣病資料館へ行って心に残ったことは、まだ新潟水俣病の症状が残っている人がいるということです。わたしは、もう新潟水俣病を治す薬や方法があると思っていましたが、資料館に行ってみて、まだ完全に水俣病を治す方法は分からないと知りました。自分はただ美味しく魚を食べていただけなのに水俣病になってまだ大変な生活をしている人がいる。それだけでも辛いのに、さらに差別や偏見を受けて、水俣病になった人は心も体も傷ついていると思います。なので、新潟水俣病になった人の大変さをきちんと知って、少しでも心が軽くなってもらえるようにしていきたいです。」新潟水俣病資料館での学びから、子どもの新潟水俣病患者さんを思いやる気持ちや、よりよく行動しようとする心が育っていることが分かる。

また、その後の社会科の授業で、新潟水俣病をはじめ、四大公害病について調べる学習を行った。校外学習を行ったことで、調べる視点が明確になっていた。病気の内容やどのように解決に向かっていったのかなどを調べてまとめることができた。振り返りでは、調べた内容に加え、被害者の方を思いやる記述が見られた。

課題は、学習成果を発表するなどの情報発信をできていないことである。５年生ということで、他の総合学習や、六送会の準備など発信の場が多かったため、水俣病に関する情報発信は授業内に止まっている。生の情報に触れたことで、上述のように、子どもの気持ちやよりよく行動しようとする心が育ってきた。情報の発信を行うことで、より情報や考えが整理され、深い理解と心の育成に繋がったかもしれない。今後も環境について学習する機会はある。折に触れて子どもが新潟水俣病について考えられるようにしていきたい。

04【真砂小学校】「地域の特色を活かした環境学習支援事業」R6 年度実施報告書【写真資料】

①　新潟県立環境と人間のふれあい館～新潟水俣病資料館～









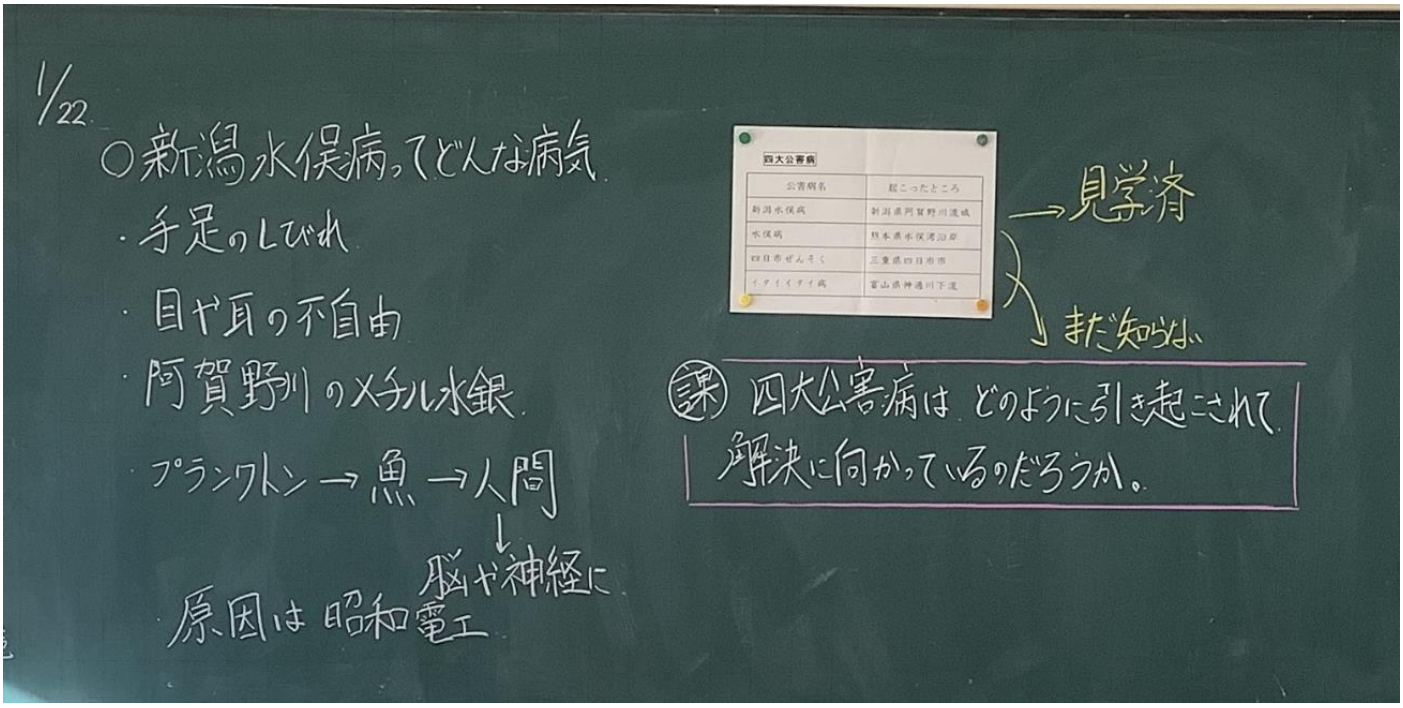




② 社会科：新潟水俣病をはじめ、四大公害病について調べる学習







■様式３：令和６年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」に係る授業記録

学校名	授業学級（人数）	実施日	実施教科等	授業者（職・氏名）
新潟市立真砂小学校	**5 年 2 組（29 名）**	**R7 年 1 月**	**社会**	**教諭・武田量泉**

・主題名　５　国土の自然とともに生きる　３　環境をともに守る

・ねらい　４大公害病について、発生した時の様子や、公害が人々の生活にもたらした影響を調べる活動を通して、公害をなくすための市民・市・工場の取組みに着目して、それぞれの果たした役割と互いの協力関係について気付くことができる。

配 時（分）	教師の働き掛け	子どもの反応（学習活動等）	資料
5 分	・新潟水俣病はどんな病気でしたか。	・工場から出た排水が、阿賀野川に流れて、そこに住んでいた魚を食べた人が体調を壊した病気。 ・新潟水俣病は公害から引き起こされた。	・環境と人間のふれあい館の写真を見せる。
	・新潟水俣病以外にも公害病があることを知っていますか。 ・どの公害病を調べるか、グループ分けをする。	・被害者の方が頑張って、認められるようになったが、未だ認められてない人がいる。 ・詳しくは知らない。	・水俣病教師用指導資料集p59の四大公害病の表を見せる。
	4 大公害病は、どのように引き起こされて、解決に向かっているのだろうか。		
35 分	・グループに分かれて調べていきましょう。		・必要によって、各自治体の URL や参考サイトを示す。
		・病気が発症してから、何年もたっているが、未だ解決していない問題もある。	
5 分	・どんなことがわかりましたか。	・化学物質によって引き起こされていることに気付いた。	
	・次の授業ではどんなことを調べていきたいですか。	・現在の生活に至るまでにどのような活動がされてきたのかを調べたい。	

・授業後の子どもたちの考え等（作文等）

・新潟水俣病になってしまった人は、様々な人から差別や偏見を受けました。心も傷ついてしまいとてもつらい思いをしたと感じました。この悲劇を様々な人に伝えるために、新潟水俣病資料館では水俣病のことを学べたり、ツアーやイベントを通じて水俣病のことをたくさん知ることができる取組をやっています。僕も参加してみたいと思いました。新潟水俣病の裁判も続いているので、少しでも早く、全ての患者さんたちが水俣病の被害者であると認めてもらいたいと思いました。（子どもの振り返りより）

■様式２：令和６年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」実施報告書

学校名	新潟市立西内野小学校	担当(職・氏名)	教諭・八木　聖子
学習テーマ	SDGs の 17 の目標を理解し、新潟水俣病や企業や地域の店の取組について調べることで、未来に向けてわたしたちができる取組を考えよう。		
活動のねらい	新潟水俣病の歴史を学ぶことを通して、持続可能な地域社会の実現を目指そうとする態度を育む		

○　新潟水俣病とのかかわり

・ＳＤＧｓの取組は、地球の未来だけでなく、過去の環境問題も深く関わっていることに気づかせる。

・「環境と人間のふれあい館」を訪問し、正しい知識をもとに学習を深める。また、様々な人々がこの問題の解決にかかわっていることを捉えさせる。

○　活動概要（新潟水俣病とのかかわりの内容に触れてください。）

・なぜ今、世界中でＳＤＧｓの取り組みが行われているのか調べる過程で、過去に環境問題によって、苦しんだ人々がいたことを知る。

・阿賀野川流域が新潟水俣病の発生地域であることを知る。

・新潟水俣病の発生と原因について調べる

・水俣病患者の方から直接話を聴くことで、患者の身体的・精神的な苦しみを知る。（語り部：ゲストティーチャー）

・水俣病に関する歴史や現状の取組などを理解する。

・自分たちにできる環境を守る取組を考える。

○　活動詳細

実施期間	７　月～　　１　月

主な学習内容・活動内容	時間	指導・支援の内容
ＳＤＧｓの１７の目標について知る	4	資料やインターネットを活用し、ＳＤＧｓの１７の目標を中心に調べることで、世界の現状を理解する。
新潟水俣病について知る	2	教科書や資料を活用し、新潟水俣病について理解する。
語り部（ゲストティーチャー）	1	語り部の方から話を聴くことで、資料からは読み取れない水俣病患者の苦しみや・思い・願いを理解する。
校外学習	3	「環境と人間のふれあい館」を見学し、新潟水俣病に関する展示資料を見たり、施設の方からの話を聞いたりして、理解を深める
道徳授業	1	生きるⅢ「ある新潟水俣病患者の訴え」を活用し、病気に対する差別や偏見をなくそうとする心情を育てる。

水俣病学習のまとめ	3	「伝える・広める」をねらいに、学習したことを新聞にまとめて保護者に伝える。保護者からのコメントをもとに、次時の活動へとつなげる。
ＳＤＧｓ自分たちができること	5	これまでの学習を振り返り、SDGs の目標の中から、自分たちができることを考え、学級ごとに実践する。一人一人ができることで協力することや、意識して生活することの大切さを実感する。

○　協力団体・協力者等（※この欄の必要が無ければ削除してください。）

・新潟県環境と人間のふれあい館
・語り部
・ビュー福島潟

○　成果と課題　（※成果と課題を分けて記述してください。水俣病とのかかわりの内容に触れてください。）

成果

・語り部の方を講師として招いて話を聴くことで、水俣病患者の現在も続く苦しみや、思い・願いに直接触れることができた。また、児童の質問に対してすぐに答えてもらえることで、児童の学習意欲も高まった。
・環境と人間のふれあい館の見学前に、施設から児童人数分の資料やＤＶＤの送付があったため、事前の学習に深まりが出た。当日は、施設の方から展示物の説明があり、どの児童も展示物の意味を理解しながら見学を実施することができた。
・ビュー福島潟の展示を見て、様々な生物と共生することの必要性に気づくことができた。
・まとめの新聞作りでは、学んだ知識を正しく発信するために、「伝える」対象を明確にした。保護者に新聞を見せながら、内容を口頭で伝えるというめあてをもたせたことで、発信する自分たちが正しい知識を持たなければならないという自覚のもと、新聞作りに取り組むことができた。正しく伝えることの重要性を実感することができた。
・保護者から「初めて知った」「細かいところまで学習して素晴らしかった」「同じことがおこらないようにしたい」などのコメントをもらうことで、児童の達成感とともに、これからの自分たちの取組に対しての責任感をもつことができた。

課題

・自分たちの住んでいる地域と阿賀野川流域とのかかわりを深めることができなかったため、新潟の環境問題として捉えることができても、自分たちの身近な地域と結び付けて考えるところまでには至らなかった。
・環境問題を身近に感じ、自分事として捉えるためにも、学校の自然環境を有効活用できるとよかった。

● 新潟水俣病について調べてみたいこと

世界で取り組むSDGs
なぜ？今、世界が一生懸命取り組んでいるのだろうか。
自分たちの身近な歴史を調べてみよう

「新潟水俣病について」

- 水俣病で被害にあった人たちの人数
- 水俣病の症状はいつまでなのか
- 水俣病の症状

世界で取り組むSDGs
なぜ？今、世界が一生懸命取り組んでいるのだろうか。
自分たちの身近な歴史を調べてみよう

「新潟水俣病について」

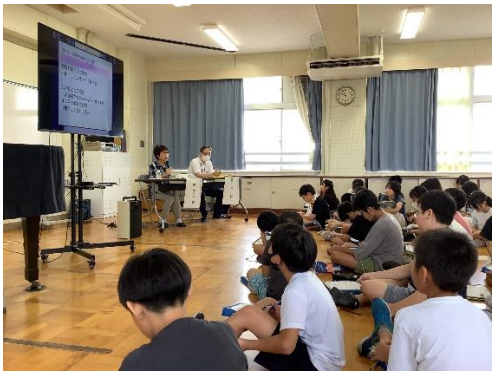
昔は、水俣病があったけど今も水俣病が続いているのかが知りたい。

世界で取り組むSDGs
なぜ？今、世界が一生懸命取り組んでいるのだろうか。
自分たちの身近な歴史を調べてみよう

「新潟水俣病について」

- 水俣病にかかった人の人数
- 今も水銀は流れているのか
- 病気の症状

● 「語り部」講師：小野ゆみ子様



語り部　小町ゆみ子さんのお話

３３年後、母が認定されたことを知る
（自分がなっているのも知らなかった）
「なぜ、自分が？」　複雑な気持ち
母が偏見や差別からそっと守ってくれていた　しびれ、めまい　一生の苦しみ
→同じしょうじょうは１つもない。
薬もない。
みんなにこの状況を知ってほしい　知ってもらえるだけでもいい！

語り部　小町ゆみ子さんのお話

ニゴイ：刺身
ウグイ・フナ：みそ汁、につけ
小魚：からあげ
１０年間、食べ続けていた
（汚染されていることを知らなかった）

保健所から連絡「食べないで！」
→会社に裁判を起こす

語り部　小町ゆみ子さんのお話

阿賀野川下流で育つ（遊び・泳ぎの場所）
→魚・しじみをとって食べる
食料が満足になかった。
阿賀野川にはたくさんの魚がいた。
夜、魚を手（道具）でつかまえる。
背中が白く、動きの悪い魚
→水銀にやられた魚だったかも
魚を毎日食べていた。

語り部　小町ゆみ子さんのお話　年れいのせい？

しびれなどの症状　物がもてない　足がもつれる　口がふるえる　見えにくい
（水俣病だとわからない）疑いあり

４つ目の裁判に参加　もやもやたまご　かくしてすごす
→患者さんとして認定
→なかなか認めてもらえない
→偏見や差別、うつるから近づくな
うわさ、お金目当て⁉にせ患者　顔・名前を出さない　バレるとダメ！（家族を考えて）

語り部　小町ゆみ子さんのお話

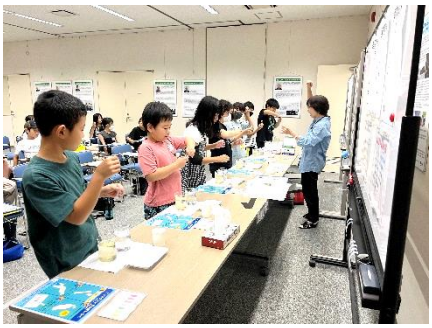
自然環境の汚染
何年も後に、病気になる

自分の身の回りの自然を大切にし、
同じような公害が起こらないでほしい

水俣病は終わっていない

● 校外学習「環境と人間のふれあい館」「ビュー福島潟」













● 新聞作り・発表練習

新潟水俣病　まとめのテーマ（例）

①新潟水俣病の原因と発生場所など

②新潟水俣病の症状と差別・偏見

③小町ゆみ子さんへのインタビュー

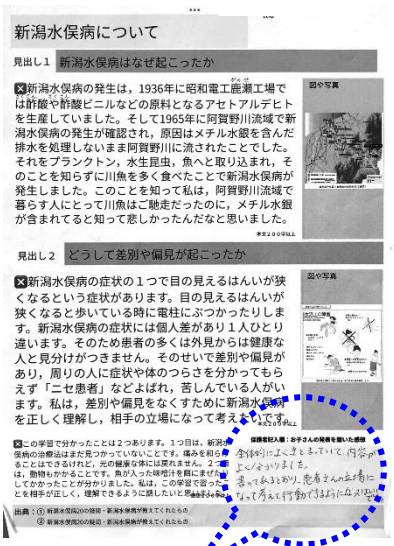
- **当時の生活や暮らしが引き起こした水俣病**
- **なぜ裁判を起こしたのか、今も続くのか**
- **小町さんが伝えたいこと**
- **環境汚染、公害への思い**

テーマは例です。自分で考えて書くことも○です。
資料の文章を使う時、読んだ内容を自分なりの言葉になおして書きましょう。出典も入れること。（書作権）





● 学習のまとめ（新聞）

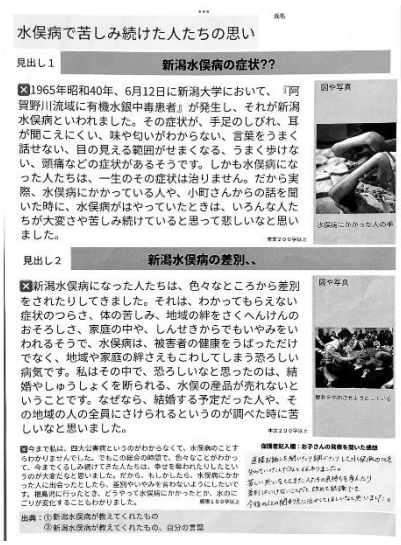

新潟水俣病について

見出し1　新潟水俣病はなぜ起こったか

新潟水俣病の発生は，1936年に昭和電工鹿瀬工場では酢酸や酢酸ビニルなどの原料となるアセトアルデヒドを生産していました。そして1965年に阿賀野川流域で新潟水俣病の発生が確認され，原因はメチル水銀を含んだ排水を処理しないまま阿賀野川に流されたことでした。それをプランクトン，水生昆虫，魚へと取り込まれ，そのことを知らずに川魚を多く食べたことで新潟水俣病が発生しました。このことを知って私は，阿賀野川流域で暮らす人にとって川魚はご馳走だったのに，メチル水銀が含まれてると知って悲しかったんだなと思いました。

見出し2　どうして差別や偏見が起こったか

新潟水俣病の症状の1つで目の見えるはんいが狭くなるという症状があります。目の見えるはんいが狭くなると歩いている時に電柱にぶつかったりします。新潟水俣病の症状には個人差があり1人ひとり違います。そのため患者の多くは外見からは健康な人と見分けがつきません。そのせいで差別や偏見があり，周りの人に症状や体のつらさを分かってもらえず「ニセ患者」などよばれ，苦しんでいる人がいます。私は，差別や偏見をなくすために新潟水俣病を正しく理解し，相手の立場になって考えていです。

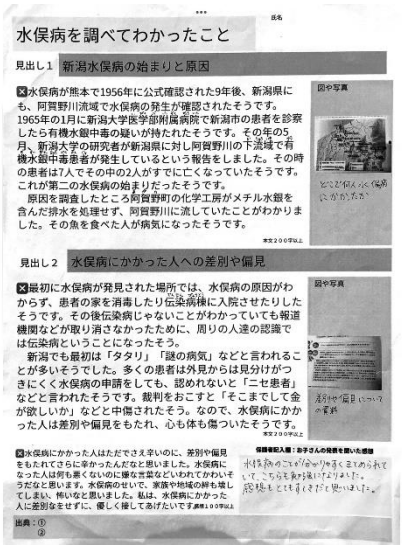

水俣病で苦しみ続けた人たちの思い

見出し1　新潟水俣病の症状??

1965年昭和40年、6月12日に新潟大学において、『阿賀野川流域に有機水銀中毒患者』が発生し、それが新潟水俣病といわれました。その症状が、手足のしびれ、耳が聞こえにくい、味や匂いがわからない、言葉をうまく話せない、目の見える範囲がせまくなる、うまく歩けない、頭痛などの症状があるそうです。しかも水俣病になった人たちは、一生のその症状は治りません。だから実際、水俣病にかかっている人や、小町さんからの話を聞いた時に、水俣病がはやっていたときは、いろんな人たちが大変さや苦しみ続けていると思って悲しいなと思いました。

見出し2　新潟水俣病の差別、、

新潟水俣病になった人たちは、色々なところから差別をされたりしてきました。それは、わかってもらえない症状のつらさ、体の苦しみ、地域の絆をさくへんけんのおそろしさ、家庭の中や、しんせきからでもいやみをいわれるそうで、水俣病は、被害者の健康をうばっただけでなく、地域や家庭の絆さえもこわしてしまう恐ろしい病気です。私はその中で、恐ろしいなと思ったのは、結婚やしゅうしょくを断られる、水俣の産品が売れないということです。なぜなら、結婚する予定だった人や、その地域の人の全員にさけられるというのが調べた時に苦しいなと思いました。


水俣病を調べてわかったこと

見出し1　新潟水俣病の始まりと原因

水俣病が熊本で1956年に公式確認された9年後、新潟県にも、阿賀野川流域で水俣病の発生が確認されたそうです。1965年の1月に新潟大学医学部附属病院で新潟市の患者を診察したら有機水銀中毒の疑いが持たれたそうです。その年の5月、新潟大学の研究者が新潟県に対し阿賀野川の下流域で有機水銀中毒患者が発生しているという報告をしました。その時の患者は7人でその中の2人がすでに亡くなっていたそうです。これが第二の水俣病の始まりだったそうです。

原因を調査したところ阿賀野町の化学工房がメチル水銀を含んだ排水を処理せず、阿賀野川に流していたことがわかりました。その魚を食べた人が病気になったそうです。

見出し2　水俣病にかかった人への差別や偏見

最初に水俣病が発見された場所では、水俣病の原因がわからず、患者の家を消毒したり伝染病様に入院させたりしたそうです。その後伝染病じゃないことがわかっていても報道機関などが取り消さなかったために、周りの人達の認識では伝染病ということになったそう。

新潟でも最初は「タタリ」「謎の病気」などと言われることが多いそうでした。多くの患者は外見からは見分けがつきにくく水俣病の申請をしても、認められないと「ニセ患者」などと言われたそうです。裁判をおこすと「そこまでして金が欲しいか」などと中傷されたそう。なので、水俣病にかかった人は差別や偏見をもたれ、心も体も傷ついたそうです。

水俣病にかかった人はただでさえ辛いのに、差別や偏見をもたれてさらに辛かったんだなと思いました。水俣病になった人は何も悪くないのに腫な言葉などいわれてかわいそうだなと思います。水俣病のせいで、家族や地域の絆も壊してしまい、怖いなと思いました。私は、水俣病にかかった人に差別なをせずに、優しく接してあげたいです。

● 新聞の発表を聞いた保護者からのコメント

新潟水俣病について、しっかり学習できているのがよく伝わってきました。水俣病と同じように、最近でもコロナも差別や偏見があったと感じさせられました。

昔の話で終わらせるのではなく、これからも学習したことを未来に伝えることで、少しでも差別や偏見が減るといいなと思いました。

直接お話を聞いたり、調べたりして、水俣病のことを知っていったのだということが伝わりました。苦しい思いをしてきた人たちの気持ちを考えたり、差別はいけないことだと、改めて認識できたりしたことを、今後の人とのかかわり方に生かしてほしいと思いました。

水俣病について、しっかりと学び、特に伝えたいことを上手くまとめられていると思います。この様に学ぶことで、水俣病へ関心をもち、偏見・差別が少しでも減ってくれるといいなと思いました。

新潟水俣病の原因や症状がていねいに書いてあって、分かりやすかったです。私も、水を汚さないようにし、また、偏見や差別をもたないようにします。

■様式３：令和６年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」に係る授業記録

学校名	授業学級（人数）	実施日	実施教科等	授業者（職・氏名）
西内野小学校	**５年２組（２８）**	**１１月**	**道徳**	**教諭・八木　聖子**

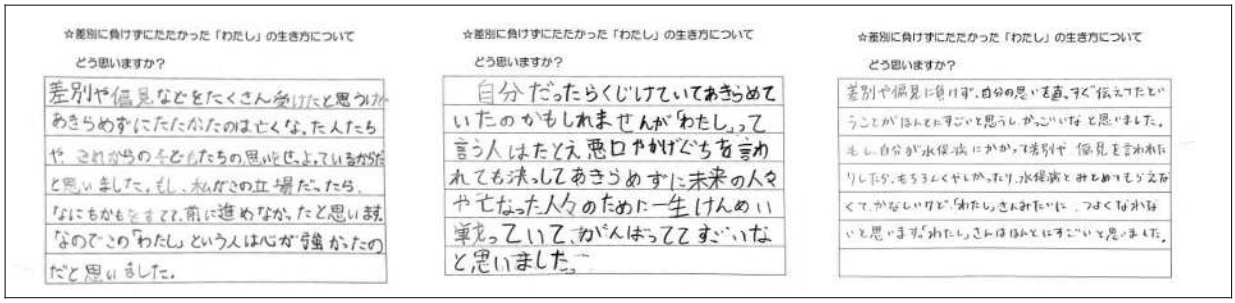
・主題名　　ある水俣病患者の訴え

・ねらい　　県内にも日本四大公害の一つである新潟水俣病という公害病・汚染事件が発生している事実を知り、そのことによって、たくさんの人々が命を奪われたり、心身や家庭を破壊されたり。差別や偏見に苦しんだりしている事実をつかむ。
新潟水俣病の原因追及や公害病認定に向けて、懸命に闘ってきた人の生き方を学ぶことを通して差別や偏見に屈することなく、立ち上がっていくことの大切さを学ぶ。

配時（分）	教師の働き掛け	子どもの反応（学習活動等）	資料
１３	これまで学んできた新潟水俣病のことにつて振り返ります。どんな病気でしたか。		
	・新潟水俣病についての学習を振り返させる。 ・全文を読み簡単な感想を発表させる。	「新潟で起こったこと」 「水俣病で、今も苦しんでいる人がいる」 「偏見や差別があった」	
７	語り部「小野ゆみ子さん」の話と、「わたし」の経験や思いと比べて、似ているところはありましたか。		
	・幼少期の頃・症状が出てきた頃・偏見差別を受けていた頃・裁判を求めて闘っていた頃など、語り部「小町ゆみ子さん」の話と共通する出来事や思いに気付かせる。	「自分が住んでいるところや、そこの川で取れる魚が好きだった」 「病気になっても、原因が分からなくて苦しい思いをしていた」 「病気になった苦しい気持ちがわかってもらえなかった」 「裁判は、お金目当てだと言われ、差別を受けた」 「同じ症状でも、認定させる人とされない人がいて、納得できない気持ちがあったところ」 「水俣病に対して、正しい知識をもってもらいたいと思っている」	
１５	「わたし」が病気の苦しみや差別、偏見に負けずに、闘い続けたのはなぜだと思いますか。		

	・差別や偏見の中でも負けずにたたかったのはどうしてなのか、「わたし」の気持ちを班ごとで考えさせる。 ・全体で共有する。   	・班ごとで「わたし」の気持ちについて考える。 「子どもたちや、孫たちのために、事実を伝えていくことが自分の任務だと思ったから。これから生きていく子どもたちや孫たちのために、公害は二度と起きてほしくない。」 「同じ症状なのに、認定される人とされない人がいることに疑問をもっていたから。」 「亡くなった人たちの気持ちに応えたい。」 「今もまだ、水俣病で苦しんでいる人がいるから。」	
１０	差別や偏見に負けずに闘った「わたし」の生き方について、どう思いましたか。		
	・差別に負けずに闘った「わたし」の生き方について振り返る。  	・学習カードに本時の振り返りを書く。	

・授業後の子どもたちの考え等（作文等）



☆差別に負けずにたたかった「わたし」の生き方について
どう思いますか？

差別や偏見などをたくさん受けたと思うが
あきらめずにたたかったのはとても大変な人たち
や これからの子どもたちの思いをよく知っているからだ
と思いました。もし、私がその立場だったら、
なにもかもをすてて前に進めなかったと思います。
なのでこの「わたし」という人はとても心が強かったの
だと思いました。

☆差別に負けずにたたかった「わたし」の生き方について
どう思いますか？

自分だったらくじけていてあきらめて
いたのかもしれませんが「わたし」って
言う人はたとえ悪口やかげぐちを言わ
れても決してあきらめずに未来の人々
や亡くなった人々のために一生けんめい
戦っていて、がんばってすごいな
と思いました。

☆差別に負けずにたたかった「わたし」の生き方について
どう思いますか？

差別や偏見に負けず、自分の思いを直すぐ伝えたい
ということがほんとにすごいと思うしかっこいいなと思いました。
もし自分が水俣病にかかって差別や偏見を言われ
りしたら、そう多くやしかったり、水俣病とみとめてもらえな
くてかなしいけど「わたし」さんみたいに、つよくなれな
いと思います。「わたし」さんはほんとにすごいと思いました。

■様式２：令和６年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」実施報告書

学校名	黒埼南小学校	担当（職・氏名）	教諭・嵐山ひより
学習テーマ	過去の公害や新潟水俣病の歴史や現状を調査して，わたしたちの行動や活動が食や環境にどんな影響を与えているか調べよう。		
活動のねらい	米作りや食には水が深く関わっていることを理解し，環境を保全していこうとする態度を育む。		

○　新潟水俣病とのかかわり

・「環境と人間のふれあい館」を訪問し，正しい知識をもとに学習を深める。また，様々な人々がこの問題の解決にかかわっていることを捉えさせる。

・新潟水俣病の語り部さんの話から学ぶ時間を作り，4 大公害病の一つである新潟水俣病について知り，直接的な体験を重視する。

○　活動概要（新潟水俣病とのかかわりの内容に触れてください。）

①米作りの栽培方法について水とのかかわりから学習を進める。

②おさかなマイスターから，地域の水産業と水とのかかわりを学び，水環境の大切さを実感する。

③社会科で，過去を遡って自然環境の変化を考える活動から新潟水俣病を知り，その歴史や現状について調査する。

④「環境と人間のふれあい館」で見学したり，語り部さんの講話を聞いたりして，新潟水俣病についての理解を深める。

⑤調べたことから，環境を守るためにわたしたちにできることを考えまとめる。

○　活動詳細

実施期間	令和６年９月～１１月

主な学習内容・活動内容	時間	指導・支援の内容
水と生活の関わりを知ろう。	５	・おさかなマイスターから，地域の水産業の発展と水とのかかわりについて学ぶ。 ・川の水質を保つことの価値を知り，自然環境を守ることの大切さを学ぶ。
新潟水俣病について知ろう	１０	・米作りと水環境の保持を関連させ，川と人間の生活のかかわりから新潟水俣病を知る。 ・「環境と人間のふれあい館」で見学をしたり，語り部さんの講話を聞いたりして，新潟水俣病への理解を深める。 ・社会科の学習で，新潟水俣病について，歴史や現状について調べる。 ・新潟水俣病は，過去のものではなく，今でも身体的苦痛，精神的苦痛を受けている人がいる事実を知る。

		・新潟水俣病について学んだことを通して，これからの環境をどのように守っていくことができるか考える。

○　協力団体・協力者等（※この欄の必要が無ければ削除してください。）

山津水産株式会社

環境と人間のふれあい館

○　成果と課題　（※成果と課題を分けて記述してください。水俣病とのかかわりの内容に触れてください。）

【成果】

・学校田における米作りや社会科の学習を関連させて，米作りには良質な水が必要であり，水の量を管理することの大切さを実感することができた。

・資料「新潟水俣病が教えてくれたもの」や「新潟水俣病２０の疑問」，DVD 資料を活用して学習したことで，「環境と人間のふれあい館」で実際の資料を見たり，語り部さんの講話を聞いたりした際にこれまでの学習とつなげて新潟水俣病について理解を深めることができた。

・社会科の学習を関連させて，差別や偏見が生み出されてきた事実をとらえることができた。

【課題】

・「水産業」と「新潟水俣病」とを関連付けて学習させて考えたいと考えたが，子どもの思考をつなげていくことができなかった。教師が新潟水俣病について理解を深め，体験活動を関わらせて新潟水俣病の学習をより深めていく。

・過去の公害を学習する中で，新潟水俣病患者が発生した地域や原因を知ることができたが，自分の地域ではどうだったのか，自分の周りの地域とつなげて考えさせることができなかった。新潟水俣病と自分の住む地域とのかかわりを知ることを通して，自分ごととして考えられるようにしていく。

お米マスターになろう！

◆米作りに挑戦！ 学校田で稲を栽培しました。









ＪＡにいがたかがやき青年部の皆さんが播種から」収穫までの間，何度も学校に来てくださいました。おかげで，たくさんの米を収穫することができました。

◆新潟水俣病のことや，水環境の大切さを学びました。
～環境と人間のふれあい館～









施設見学や語り部さんの講話を通して，阿賀野川や新潟水俣病について理解を深め，きれいな水を守ることの大切さを学ぶことができました。

◆水産業から，生活と水とのかかわりを学びました。

～山津水産おさかなマイスター～











川と生活のかかわりや水産業の歴史，現在の技術を教わりました。おいしい魚を食べられるのもきれいな水環境のおかげだと学びました。

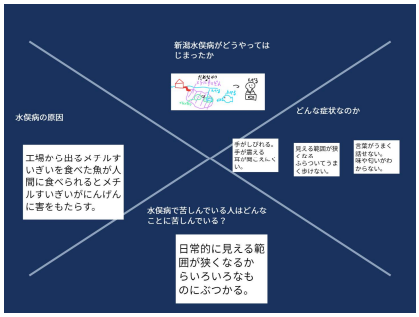
■様式３：令和６年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」に係る授業記録

学校名	授業学級（人数）	実施日	実施教科等	授業者（職・氏名）
黒埼南小学校	**５年１組（２３人）**	**10月29日**	**社会**	**教諭・嵐山ひより**

・主題名　環境を共に守る

・ねらい

新潟水俣病について，資料を読み取ることを通して、新潟水俣病の原因や症状を理解し、患者の苦しみが現在も続いていることに気付くことができる。

配時（分）	教師の働き掛け	子どもの反応（学習活動等）	資料
10	○過去にあった公害病を思い出させ，新潟でも公害が起こっていたことに気付かせる。	●教科書では北九州市のことが書かれてあったけど，新潟でも水俣病があったんだ。 ●新潟水俣病の詳しい内容はまだよく分からない。	・教科書の表を提示
	新潟水俣病はどのような病気なのだろうか。		
	新潟水俣病はどのようにして起こったのでしょうか。新潟水俣病の患者の人たちはどんなことに苦しんでいるでしょうか。資料から調べましょう。		
15	○P. 80 の被害者分布図や資料「新潟水俣病が教えてくれたもの」をもとに、新潟水俣病の症状を調べ，思考ツールにまとめて発表する。  	〈新潟水俣病の原因〉 ●メチル水銀を含んだ排水を処理しないまま，川に流したから起こってしまった。 ●旧昭和電工鹿瀬工場から流れて，川の近くの地域の人が多く被害にあっているんだ。 〈どのようにして始まったのか〉 ●1965 年に水銀中毒の疑いで調べたら水俣病だった。 〈どんな症状なのか〉 ●耳が聞こえにくくなったり手足が震えたりした。 ●味やにおいが分からなくなり，言葉がうまく話せなくなってしまうこともあって，症状が人によって違っていた。 〈どんなことに苦しんでいるのか〉 ●わかってもらえずに悪口を言われてしまう。 ●「金が欲しいからだ」と苦しんでいるのに偏見を持たれてしまっていた。	・P.80 の分布図を提示 ・「新潟水俣病が教えてくれたもの」

	DVD を見て，感じたことや分かったことを話し合いましょう。		
20	○DVD「新潟水俣病」を視聴し、新 たに気付いたことをノートに書き，話し合う。 	●メチル水銀は目に見えないから，知らないうちに食べているのが怖い。 ●普通の生活をしていたのに，川魚を食べたことで苦しい思いをしているから，だれにでもかかってしまう恐ろしさがある。	

・授業後の子どもたちの考え等（作文等）

○病気にかかるのも悲しいけれど，ニセ患者と呼ばれたり偏見をもたれたりすることの方が苦しいと感じた。自分は差別をしないようにしていきたいと思った。

○どうして早く新潟水俣病が発見されなかったのだろうと思った。今でも苦しんでいる人がいるから，同じことは二度と起こってはならないし，もっと病気のことをしっていきたい。

■様式２：令和６年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」実施報告書

学校名	新潟市立漆山小学校	担当（職・氏名）	教諭・土田　摩莉奈
学習テーマ	巻の自然は宝物　～大通川を守るために大切なことを考えよう～		
活動のねらい	身近な自然を調べる学習を通して自然と触れ合う楽しさを実感したり環境保全の必要性について理解を深めたりし，環境を保全していこうとする態度を育む。		

○　新潟水俣病とのかかわり

・新潟県立環境と人間のふれあい館－新潟水俣病資料館－館長さんからの話から新潟水俣病について学ぶ時間をつくり，いかに身近で深刻な問題であるか，環境保全が大切なのかについて理解を深めた。

○　活動概要（新潟水俣病とのかかわりの内容に触れてください。）

①社会科の公害病の学習を通して，公害（水俣病）の恐ろしさと，環境を守ることの大切さについて考える。
②自然農法を知り，環境を守る大切さについて考える。
③学校の前にある大通川の水生生物，水質を調査し，身近な自然環境について知る。
④ゲストティーチャーの話を通して，新潟水俣病についての知識・理解を深める。
⑤壊れた環境は取り戻せないことや環境保全の必要性を全校に伝えるためにできることを考える。
⑥全校に地元の自然環境に関する知識や水俣病に関する知識を広める。
⑦大通川を守るために「今やること」を考え，実践していく。

○　活動詳細

地元にある上堰潟公園に行き，自然と触れ合い，自然を守る秘訣を学んだり，フィールドゲームを通して５年生が学び得た学習を全校に伝えたりする。

実施期間	６月　～　１２ 月

主な学習内容・活動内容	時間	指導・支援の内容
公害病について学ぶ	４	新潟水俣病は，いかに身近で深刻な問題なのか。
自然農法について学ぶ	４	自然農法について学んだり，自然農法で行う田植えを経験したりした。（ゲストティーチャー）
大通川の水質について学ぶ	１	大通川の水環境について調べた。水環境を守るためにどうしたら良いか学んだ。（ゲストティーチャー）
新潟水俣病について学ぶ	１	新潟水俣病の発生と今も苦しむ人々の存在やについて学んだ。（ゲストティーチャー）
環境を守るためにできることについて考える	１	自分たちだけではなく，多くの人の協力が必要であることを学び，伝えるための方法を考えた。
クイズの用意	３	クイズラリーの用意をした。

校外学習	５	自然を守る秘訣を学んだり,自分たちが学んだことについて全校に伝えたりした。
「今」やることを考える	１	自然を守り，もう二度と同じ過ちを繰り返さないように,差別や偏見をなくしていこうとする心情を高めた。

○　協力団体・協力者等

・MOA 自然農法新潟市普及会様
・新潟県立環境と人間のふれあい館－新潟水俣病資料館－様
・環境部環境対策課水環境グループ様
・上堰潟公園を育てる会　齋藤　一雄　様

○　成果と課題　（※成果と課題を分けて記述してください。水俣病とのかかわりの内容に触れてください。）

成果

・自然環境について体験的に学ぶことができた。
・身近な川の水質を調査することで，体験的に環境問題を身近なものとして捉えることができた。
・水俣病の学習を通して，水質汚染がいかに恐ろしいのか学ぶことができた。
・水俣病に関して身体的被害と社会的被害があることが分かった。
・地元の公園について学ぶことで，自然を守る大切さについて理解を深めることができた。
・自然農法の稲づくりについて体験的に学ぶことを通して，環境保全がいかに大切かについて学びを深めることができた。
・発表する活動では，クイズを作成することにより，学んだことを振り返り，学びを深めることができた。

課題

・環境問題を身近なものとしての意識は高まったが，今後自分たちにできることをしていくという行動面での活動が不十分であった。
・ゲストティーチャーから水俣病について詳しく学ぶことができた。「環境と人間のふれあい館」へ実際に足を運ぶことでもっと多くのことが得られると思った。

巻の自然は宝物～大通川を守るために大切なことを考えよう～

水生生物と水質調査の様子





自然農法を知り，体験的な学習『田植え・稲刈り』をする様子









水俣病についてゲストティーチャーから学んでいる様子





水俣病についてのクイズづくりをしている様子





校外で自然と触れ合ったり，全校にクイズを通して知識を広めたりしている様子





■様式３：令和６年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」に係る授業記録

学校名	授業学級（人数）	実施日	実施教科等	授業者（職・氏名）
漆山小学校	**5年１組（24人）**	**7月3日**	**総合**	**教諭・本間由佳**

・主題名「お米大好き！」安心・安全な環境について考えよう
・ねらい　新潟水俣病について、新潟県立環境と人間のふれあい館館長さんのお話と語り部さんのDVDを見て、水俣病の知識を深め、差別や偏見をもたないという心情を高める。

配時（分）	教師の働き掛け	子どもの反応（学習活動等）	資料
	・社会で学習した四大公害病を想起させる。 ・四大公害病の中の１つである新潟水俣病について学習することを伝える。 ・ゲストティーチャーの新潟県立環境と人間のふれあい館の館長藤田伸一様を紹介する。	・四大公害病について知っていることを発表する。	
	新潟水俣病の始まりと原因は何だったのだろうか。		
	・藤田様に水俣病の始まりと原因についてお話を聞く。	・**阿賀野川の魚を食べたら病気になってしまったんだね。** ・**工場の排水の中に水銀が含まれていたのを初めて知った。**	Ｐ１７３差別や偏見について振り返る
			
	学習課題 水俣病になると、どんな症状が出るのだろうか。		
	・新潟水俣病２０の疑問を読む。	・**水俣病になると手足のしびれや歩けなくなってしまうんだね。** ・**人によって症状が違うなんて怖いね。**	新潟水俣病が教えてくれたものDVD

	・藤田様の差別や偏見についてのお話を聞いたり、語り部さんのＤＶＤを視聴したりする。	・病気になった人がかわいそうだ。 ・差別や偏見をするなんて許せない。 ・病気になっても差別されるから周りの人に言えないなんておかしい。	



まとめ
水俣病になると、人それぞれ違った症状が出る。
差別や偏見をしてはいけない。

これから私たちができることを考えよう。

・差別をしない。
・偏見をもたない。
・病気の人は何も悪いことはしていないんだから、差別や偏見をしている人がいたら、差別や偏見をもつのはよくないと伝える。
・これから出会う人にも、水俣病の正しい知識を伝える。

・授業後の子どもたちの考え等（作文等）

・新潟水俣病が起こった理由がよく分かった。魚を食べていただけで水俣病になってしまったなんて驚いた。体をまっすぐに保てなかったり、毎日耳鳴りがしたり、あちこちが痛かったりと本当に大変な病気だと思った。

・水俣病になっても、差別や偏見が怖くて人に言えないなんてとても辛いと思った。自分が病気だとみんなに言うと、自分だけではなく家族も差別をされて就職や結婚ができなくなるなんて信じられない。差別や偏見は許されないと思う。

・水俣病の正しい知識をみんながもっていれば、水俣病の人も安心できると思う。水俣病と認定される人とされない人がいるのもおかしいと思う。

■様式２：令和６年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」実施報告書

学校名	新潟市立南浜中学校	担当(職・氏名)	教諭・今田　千恵
学習テーマ	新潟水俣病の現地学習を通して、環境保全や人権尊重について考えを深めよう。		
活動のねらい	新潟水俣病の現地学習を通して、新潟水俣病への正しい理解を深めるとともに、差別や偏見を身近な問題として認識させ、自ら解決しようとする態度を育てる。		

○　新潟水俣病とのかかわり
・旧昭和電工（株）鹿瀬工場を見学したり、「環境と人間のふれあい館」で職員の説明や語り部の講話を聴いたりすることで、新潟水俣病についての理解を深める。

○　活動概要（新潟水俣病とのかかわりの内容に触れてください。）
・新潟水俣病について、各班で調べ学習を行い、現地見学の前週には、あがのがわ環境学舎の職員の講話を受けた。現地見学では、鹿瀬工場と「環境と人間のふれあい館」を見学して学習を深めた。最後に、これからの社会をよりよくするための提言と自分ができることを考えた。

○　活動詳細
①新潟水俣病について、４つの観点で各班で分担して調べ学習を行った。
②あがのがわ環境学舎の職員からグーグルマップを使い、阿賀野川流域を地図で確認しながら、鹿瀬工場が社会の変化に対応し生産品目が変化したことを学習した。
③旧昭和電工鹿瀬工場・鹿瀬ダム・排水溝を見学する。
④「環境と人間のふれあい館」で語り部の講話を聴いた後、施設見学をした。
⑤グループごとに分かれ、提言と自分ができることを考え、SDGｓの項目を入れて、個人でまとめた。

実施期間	１１月～　１２月

主な学習内容・活動内容	時間	指導・支援の内容
学習ガイダンス	1	・新潟水俣病について基礎知識の学習を行う。 ・今後の学習について理解する。
事前学習	1	①発生の経緯･原因 ②身体的被害 ③社会的被害 ④水俣病の現在 の４つの観点に分けて、調べ学習を行った。
直前講義	2	あがのがわ環境学舎の職員から講義を受ける。
校外学習	1日	旧昭和電工鹿瀬工場周辺を見学する。 「環境と人間のふれあい館」で語り部の講話と施設見学
まとめと発表	4	これからの社会をより良くするための提言と自分ができることを、SDGｓの項目をいれてまとめる。班ごとに発表。

○　協力団体・協力者等（※この欄の必要が無ければ削除してください。）
・あがのがわ環境学舎
・環境と人間のふれあい館

○　成果と課題　（※成果と課題を分けて記述してください。水俣病とのかかわりの内容に触れてください。）

＜成果＞

・新潟水俣病についての学習を行うことで、新潟水俣病についての理解とそれに伴う社会の差別や偏見に気付き、環境保全や人権尊重について考えを深めることができた。
・学習ガイダンスでは、小学校で学んだことを思い出しながら、公害病やこれから学習する新潟水俣病について、考えを深めることができた。
・４つの観点に分けて、班で担当する観点を分担して調べ学習を行うことで、各自が責任をもって活動に取り組むことができた。ロイロノートで共有することにより、班員や他の班の調べた学習を見ることができ、より深く考えることができた。
・あがのがわ環境学舎の職員からの直前講義は、パワーポイントを使って視覚的に訴え、クイズもありとても興味・関心を高める講義で、専門的な知識を楽しみながら身に付けるとこができた。
・現地学習では、事前学習と直前講義で学んだこととリンクし、深い学びにつながった。
・語り部さんの講話を聴き、新潟水俣病の病気の症状だけでなく、当時の様子や語り部さんの本当の気持ちなど、対面でお話を聴くことにより大変さや辛さ、苦しみなどがとても伝わってきて、差別や偏見を身近な問題として考えることができた。
・まとめのプレゼンテーションを作成し、これからの社会をよりよくするためにどうしたらよいかという提言・自分ができることを考え、発表した。

＜課題＞

・調査活動では、「環境と人間のふれあい館」からいただいたパンフレットを使用した。大変良い資料だったのに、読み込む時間が短かったため、うまくまとめられない生徒もいた。早い時期から資料配布していただいていたので、時間を有効に使うこと、活動中の支援の仕方を工夫する必要があった。
・まとめのプレゼン発表では、発表に時間がかかってしまい、振り返りの時間が少し短くなってしまった。もう少し時間が取れればもっと他者の意見も聴けて考えが深まったと考える。



11/6(水)ガイダンス「水俣病について」基礎知識の学習



11/6(水)事前学習「新潟水俣病について考える」「調べ学習」４つの観点を班で分担して調べる。班で発表。



11/13(水)あがのがわ環境学舎の職員から事前学習。前の週に学習したことを確認



グーグルマップを使って南浜中を探し、阿賀野川流域を地図で確認



食物連鎖と昔の暮らしの関係を確認



昔の工場周辺の様子を映像で確認



11/20(水)現地学習、鹿瀬工場が見える高台で説明



現在の排水口の場所で説明



菱風荘で昼食をとる生徒



環境と人間のふれあい館で語り部の話





施設職員から説明を受ける





説明後は、各自で自由に見学





12/4(水)・11(水) 事後学習。各班でまとめ・プレゼン作成。





1/8(水)まとめ学習。班ごとに発表し、水俣病について共有する。SDGs の視点から自分ができることを考える。

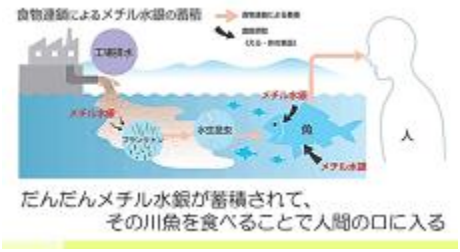
■様式３：令和６年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」に係る授業記録

学校名	授業学級（人数）	実施日	実施教科等	授業者（職・氏名）
新潟市立南浜中学校	**１学年（30名）**	**11月6日**	**総合的な学習**	**教諭・小林正文**

・主題名　**新潟水俣病～環境と人権問題を考える～**

・ねらい　**新潟水俣病について、その発生原因や被害について考え、調査学習を通して、新潟水俣病が環境を破壊し、人権を侵害したことを理解し、環境保全と人権尊重の重要性について考え、校外学習に向けて意欲を高めることができる。**

配時（分）	教師の働き掛け	子どもの反応（学習活動等）	資料
導入（10）	ワークシートを配布 ○公害とは？スライドを使って説明する。	●説明 ・環境基本法では、事業活動やその他の人の活動に伴って生じる人の健康または生活環境に係る被害と定義	ワークシート
	公害が発生したのはなぜか。		
	○公害が発生したのはなぜか、予想させる（下はスライドの一例） 	●生徒の反応 ・自分勝手な人が多いから。 ・便利さを求めたから。 ・会社の利益を優先したから。 ・国が法律を作るなどの対策をしなかったから。	スライド（教師作成）
	○四大公害病とは？	●説明 ・新潟水俣病、水俣病、イタイイタイ病、四日市ぜんそく	
本時（30）	（学習課題） 新潟水俣病とは、どのような公害だったのか。		ワークシート
	阿賀野川と人々の暮らしはどのように結びついていたのか。		
	○阿賀野川と人々の暮らしについて、スライドで説明する。 （右はスライドの一例）	●説明 ・阿賀野川は生活の場、タンパク源だった。 	スライド（教師作成）
	新潟水俣病が発生した原因は何か。		
	○新潟水俣病の発生原因について資料で調べる。（次ページは授業の様子）	●昭和電工から出されたメチル水銀を含む排水が原因である。 ●メチル水銀に汚染された川魚を大量に食べた人は発症した。（次ページはスライドの一例）	初めての新潟水俣病

			新潟水俣病20の疑問
	これからのどのようなテーマで学習していくか。 ○総合的な学習のテーマについて	●テーマ ①環境を守ることの大切さ ②水俣病被害者の人権	
まとめ	（まとめ） ・新潟水俣病とはメチル水銀を原因とする公害 ・新潟水俣病により、差別や偏見が生まれ、現在も苦しんでいる人々がいる。		スライド（教師作成）
振り返り（10）	○授業を通して考えたことを書く。 ○振り返りをロイロノートに提出し、回答を共有する。	●生徒の反応 ・手足のしびれ、震えなどいろいろな症状で今も苦しんでいる人がいることが分かった。 ・これからの新潟のためにも、水俣病への理解をもっと深めていきたいと思った。	ワークシート ロイロノート

・授業後の子どもたちの考え等（作文等）

・小学校でも新潟水俣病について学習しましたが、さらに深く学習できました。昭和電工から出されたメチル水銀を含む排水が原因で、メチル水銀→プランクトン→水生昆虫→魚→人間の口に入れることで発症されたということが、よくわかりました。

・今でも 3800 人の患者さんがいること、症状は様々で、見た目だけでは健康な人と見分けがつきにくいことがわかりました。人の命や環境よりも経済成長を優先したことが原因だということもわかりました。

・新潟水俣病が起こった原因は知っていたけど、詳しくどのような症状があるのか、どこで起こったのかなど知らなかったことが、知れてよかったです。当時は水俣病の差別や偏見があったり、ニセ患者が現れたりして、本当に苦しんでいる人たちが不利な世の中だったということを知り、私たちが水俣病について詳しく勉強するべきだと思いました。

・環境と人間のふれあい館で語り部さんの話を聴き、公害は体だけでなく、心も苦しめるもので、差別偏見は絶対にあってはならないものだと思いました。語り部さんは涙を流しながらこれまでのことを話してくださり、とても苦しかった気持ちが伝わりました。お互いを尊重すること、噂話や根拠のない悪口に流されないことが大切だと思いました。

■様式２：令和６年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」実施報告書

学校名	新潟市立白南中学校	担当(職・氏名)	教諭・相田由希
学習テーマ	新潟水俣病についての学習を通して、環境・人権・自分の生き方について考えよう。		
活動のねらい	・水俣病が発生した当時の社会的背景や環境問題についての理解を深める。 ・水俣病を正しく理解し、差別や偏見を自らの課題としてとらえ、解決しようとする態度を育てる。		

○　新潟水俣病とのかかわり

・「環境と人間のふれあい館」を訪問し、水俣病に対する理解を深めることで、人権に対する意識を高める。

・当時の人々の暮らしや社会の流れ、環境に対する意識など多角的な視点から水俣病について考える。

○　活動概要

・資料用 DVD や「生きるⅣ」を使って、新潟水俣病についての概要を学習する。

・新潟水俣病に関する疑問点と課題を見つける。

・「環境と人間のふれあい館」を訪問し、水俣病について正しく理解する。

・これまでの学びをまとめ、発表する。

○　活動詳細

①資料用 DVD や「生きるⅣ」を使って、新潟水俣病についての概要を学習する。

②新潟水俣病発生前後の、社会全体・人々の暮らし・人権と環境に対する意識などについて調べ、疑問点と課題を見つけてまとめる。

③「環境と人間のふれあい館」を訪問し、語り部の方から直接話を伺い、水俣病について正しく理解する。

④日本だけでなく地球規模での環境問題について考えたり、世界で現在発生している環境問題について調べたりする。

⑤これまでの学びをまとめるとともに、環境と人間の２つの視点から、今後どのような姿勢で自ら関わっていきたいと考えるのかをプレゼンテーション形式で発信する。

実施期間	９月～　１２月	
主な学習内容・活動内容	時間	指導・支援の内容
《事前学習》 新潟水俣病について知る。	３	・四大公害病について、調べさせる。 ・「環境と人間のふれあい館」から借用したDVDや「生きるⅣ」を用いて、新潟水俣病について理解させる。 ・校長先生の講話より、新潟水俣病の差別や偏見について気付かせる。
《校外学習》	５	・「環境と人間のふれあい館」を訪問し、語り部による口話や展示資料から、新潟水俣病の歴史や解決のための取組について情報を収集させる。
《事後学習》 学習したことをまとめる。	５	・「新潟水俣病」のワードを中心に、知り得たことや疑問などを、イメージマップにまとめさせる。 ・イメージマップを元に、新潟水俣病や環境問題についての個人課題を設定させる。 ・パンフレットやインターネットを活用して、個人課題について調べさせる。
《発表会》 班ごとに、調べたことを発表する。	３	・作成したスライドをもとに、班ごとに調べたことや考えたことを発表させる。

○　協力団体・協力者等

・環境と人間のふれあい館の皆様
・同館の語り部１名（小武節子様）

○　成果と課題

《成果》
・小学校で四大公害病について学習していたが、映像・読み物資料・語り部の方の口話などから新潟水俣病の発生原因など、さらに深く学習することができた。
・数十年前の出来事ではなく、今なお患者に対する差別や偏見があったり、裁判が続いていたりする実態を知り、人権意識を高めることができた。
・新潟水俣病を入り口として、世界の公害問題や環境汚染物質・生物への影響について目を向け、環境問題について視野を広げることができた。

《課題》
・新潟水俣病被害者に対しての差別や偏見を払拭するためには、正しい知識を身に着けることが必要であることを理解した。これは新潟水俣病に限らず、あらゆる差別や偏見にも共通することを理解させたい。

〈写真資料〉

○和泉校長より、新潟水俣病の原因や差別の実態についての授業を受ける。





○環境と人間のふれあい館で、語り部の小武様の話を聞いたり、館内の展示資料の説明を受けたりして、新潟水俣病についての知識を深める。









○班ごとに調べたいテーマを考え、分担して作成した資料を基に発表会を行う。











■様式３：令和６年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」に係る授業記録

学校名	授業学級（人数）	実施日	実施教科等	授業者（職・氏名）
新潟市立白南中学校	**1年Ａ組（39名）**	**10月１日**	**道徳**	**教諭 ・ 相田由希**

・主題名　検査への迷い
・ねらい　家族が受ける差別や偏見を恐れ、水俣病の症状を自覚しながらもそのことを隠して家族を守ろうとした樋口さんの苦しみを知り、差別・偏見への憤りをもつとともに差別解消への思いを深める。

配時（分）	教師の働き掛け	子どもの反応（学習活動等）	資料
導入（10）	○前回、校長先生から新潟水俣病について教えていただきました。どのような病気でしたか。	・阿賀野川で発生した。 ・旧昭和電工の排水中の有機水銀が原因。	
	○ＤＶＤを見て、新潟水俣病の発生原因や症状について再度確認しましょう。	・忘れていたことをメモしながら視聴	DVD「新潟水俣病あらまし⑧」～8’40 ※「環境と人間のふれあい館」より借用
展開（30）	課題：新潟水俣病被害者は、どのような思いで生活をしてきたのか。		
	○今日は、樋口さんの身に起こったことをもとに、水俣病患者の方がどのような思いで生活をしてきたのか考えましょう。		
	※資料「樋口さんの苦悩」前半範読 ○樋口さんはなぜ正直にアンケートに答えられないと思ったのでしょうか。	・差別されると思ったから。 ・家族に迷惑をかけると思ったから。	P100 資料「樋口さんの苦悩」
	※資料「樋口さんの苦悩」後半範読 ○もしあなたが樋口さんの子どもだったら、父親である樋口さんにどのような言葉をかけて受診を勧めますか。	・お父さんの体が心配だから受診して。 ・自分たち（子ども）のことは、もう心配しなくていいよ。	P94 ワークシート（展開例Ｂ）改変
	○もしあなたが樋口さんなら、子どもからの受診のすすめに、どう答えますか。	・ありがとう。 ・でも、家族も差別に巻き込んでしまうかもしれない。	
	○あなたが考えた言葉がけで、ロールプレイをしましょう。父親役の人は、子どもの意見に対して、どう答えるか考えて演じましょう。	・班の中でペアになり、子ども役の生徒の意見に対して、答える。 ・役割を交代してロールプレイを行う。	


DVD より新潟水俣病の発生原因や症状を確認する様子


ロールプレイの様子

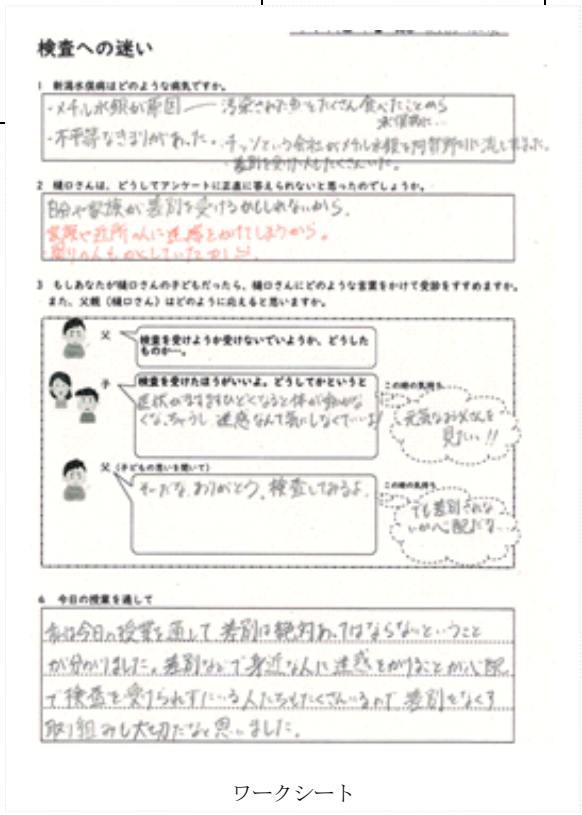
まとめ 振り返り (10)	まとめ：差別や偏見への憤り・家族に対して互いに心配する気持ちを もって生活を送っている ○樋口さんの話やロールプレイを通して、差別に対してどのように行動することが大切だと思いましたか。「～しない。」という表現ではなく、「どう行動するか」という視点でまとめよう。	・勇気を持って行動する。 ・正しい知識を身につける。 ・差別をする人がいれば、それはダメなことだと声をかける。

・授業後の子どもたちの考え

・動画を見ていて辛くなりました。なにも悪いことをしていないのに差別をされるのは絶対にこれからもあってはいけないことだと思います。

・DVD を見て、たくさんのことを知ることができた。樋口さんがアンケートに正直にこたえられないのも、とてもわかる気持ちになりました。これから生きてく中で、このようなことをしないようにしたいと思いました。

・差別や偏見を減らすには、正しい知識を持つことが大切だと思う。また、もし家族に水俣病患者がいたら、差別や偏見が心配だけど、家族に健康になってほしいから検査を進めようと思う。

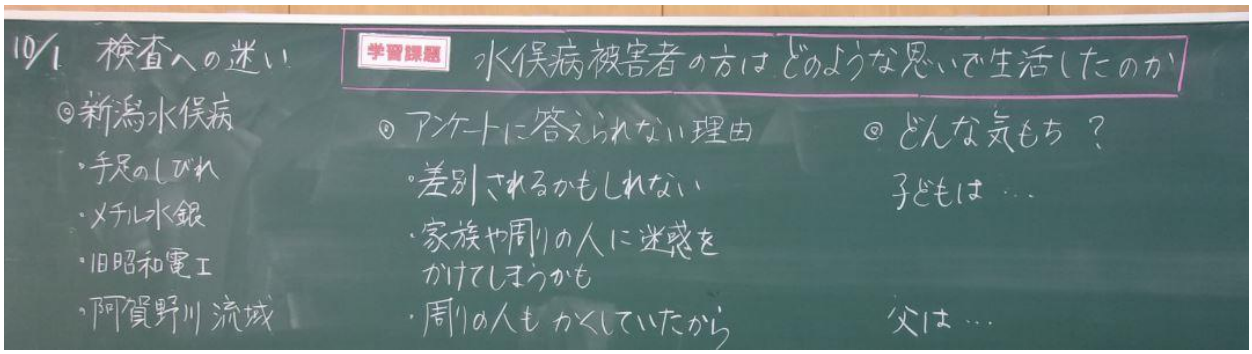


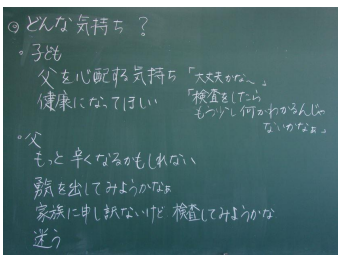
ワークシート

【資料】

・新潟水俣病の教訓を後世に伝えるために　‥新潟水俣病教師用指導資料集‥　平成 22 年 8 月（新潟県）
　p. 84　道徳学習指導案 1　「検査への迷い」
・ＤＶＤ　新潟水俣病あらまし⑧　　（環境と人間のふれあい館）
・ＤＶＤ　未来を見つめる旅　～新潟水俣病から学ぶ　人と環境のあした～　　（新潟県）

【板書】





令和６年度
小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業
地域の特色を活かした環境学習支援事業
実施報告書

主催・制作　新潟県、新潟市
発　行　　新潟県立環境と人間のふれあい館
〒950-3324　新潟市北区前新田字新々囲乙 364-7
☎ 025-387-1450　　メール fureai@abeam.ocn.ne.jp